

## 第5章 追加調査の実施

### 5.1 本章の概要

本章では、本町において特に留意が必要と考えられる景観および動植物に関して追加で調査した。そして、調査結果をマップ化することで、景観レイヤー、動植物の分布レイヤーを作成した。なお、これらのレイヤーは、第6章において一次ゾーニングに追加してゾーニングマップへ反映することとする。

### 5.2 景観調査

#### 5.2.1 調査概要

##### (1) 背景

本町は農地や山林に加え、大空八景（図 5-1）等の美しい景観を有しており、太陽光発電、風力発電の導入においてはこれに十分配慮する必要がある。また、町民意見としても、景観に関する意見が収集された。したがって、本節では一次ゾーニングに追加して景観に関する調査を実施することとした。



出典：大空町 HP

図 5-1 大空八景

## (2) 調査方針

景観に関する追加調査の流れを表 5-1 に示す。町民アンケートは第 4 章で実施した結果を活用した。

表 5-1 景観に関する調査の流れ

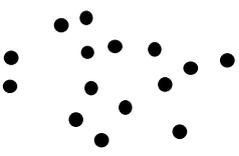
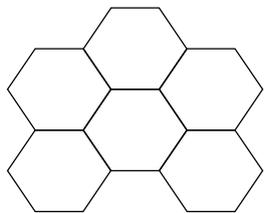
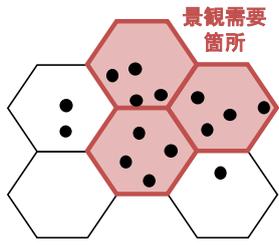
No	項目	調査方法
1	景観重要箇所の設定	町民アンケートの結果をもとに、景観重要箇所（景観的な観点より、重要と考えられる箇所）を設定する。
2	現地調査	現地調査地点におけるパノラマ写真を撮影することで、眺望方向を把握する。
3	可視領域図の作成	現地調査の結果をもとにGISにより可視領域図を作成する。眺望点からの離隔距離は、各種文献を参考に、風力発電設備・太陽光別に設定する。
4	景観レイヤーの作成	作成した可視領域図をもとに、ゾーニングに反映するための景観レイヤーを作成する。

## 5.2.2 景観重要箇所の設定

### (1) 概要

町民アンケートの結果をもとに、景観重要箇所（景観的な観点より、重要と考えられる箇所）を設定した。なお、次節では、景観重要箇所をもとに現地調査地点を設定する。検討の流れを表 5-2 に示す。

表 5-2 景観重要箇所の設定の流れ

No	イメージ図	項目	内容
①		町民意見 のポイント化	町民アンケート結果をもとに、「身近な景観、気に入っている景観」をポイント化する。
②		グリッドの作成	景観重要箇所を設定するためのグリッドを作成する。
③		景観重要箇所 の設定	グリッドに町民意見のポイントを重ね合わせることで、景観重要箇所を設定する。

(2) 町民意見のポイント化

町民アンケート結果（詳細は第4章に記載）をもとに、「身近な景観、気に入っている景観」をポイント化した。その結果を図5-2に示す。

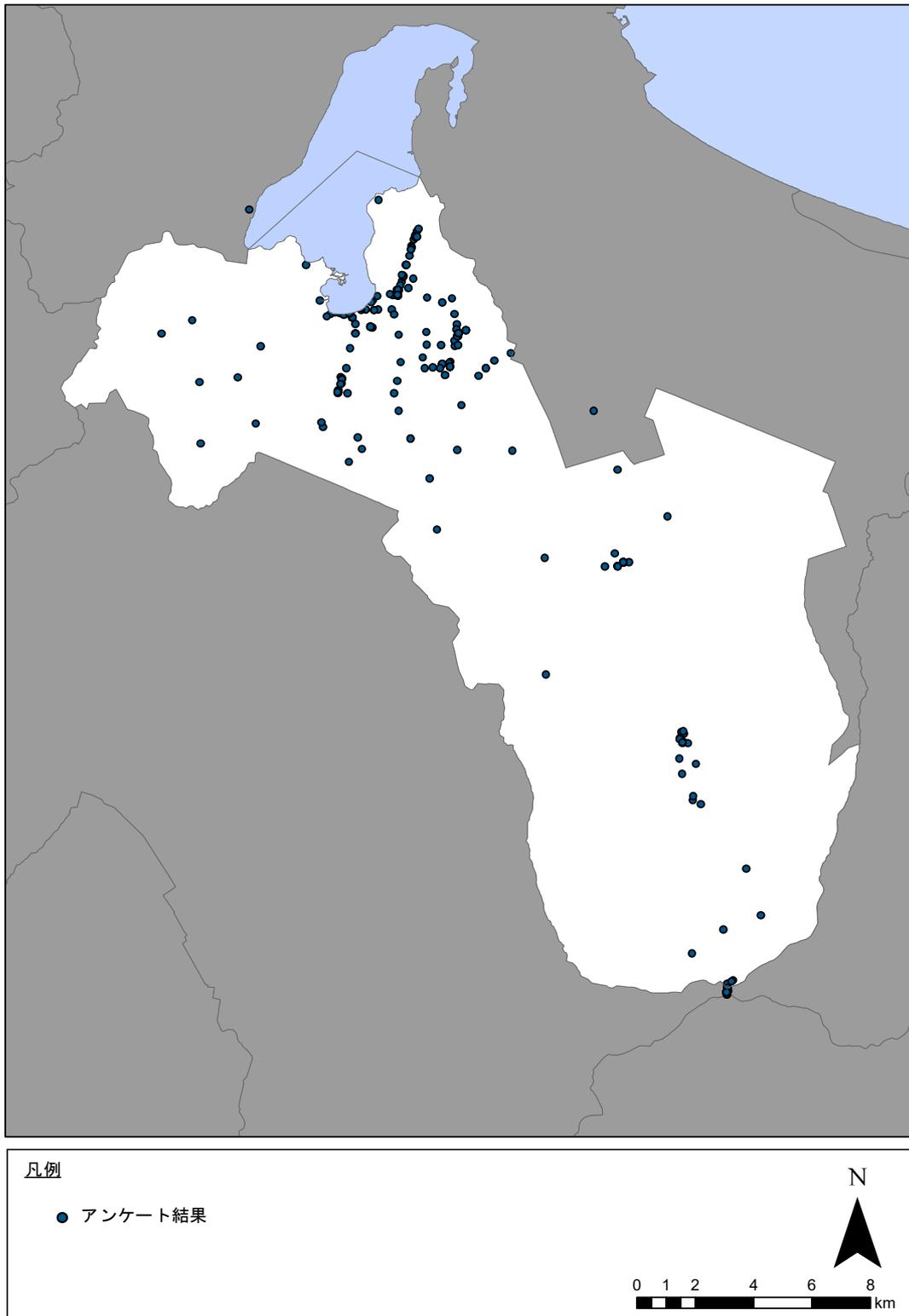


図 5-2 身近な景観、気に入っている景観

### (3) グリッドの作成

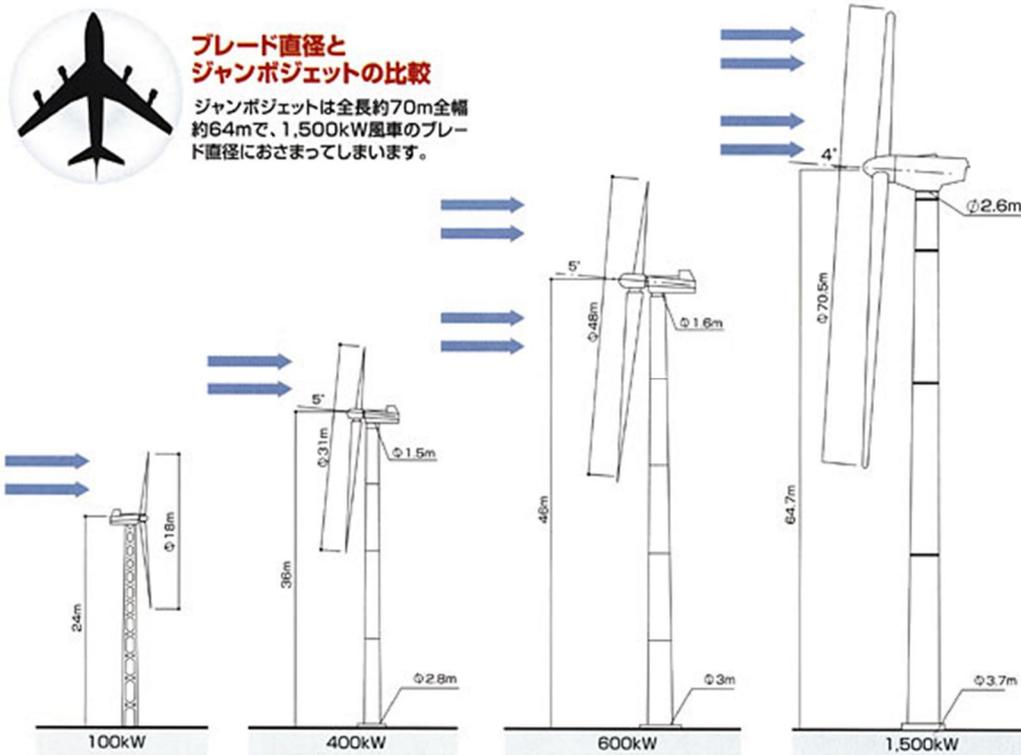
グリッドは、形状が円に近くサンプリングの等方性が高いため、正方形ではなく正六角形を用いることとした。また、表 5-3 の文献より、「場合によっては景観的に気になり出す」のは離隔距離 2,000m であることから、ある眺望点から留意すべき範囲は半径 2,000m 圏内であると考えられる。したがって、グリッドの面積は半径 2,000m の円と同じ 12.57km<sup>2</sup> で作成することとした。なお、表 5-3 の文献は鉄塔高さ 70m の場合の数値であるが、これは約 1,500kW の風力発電の大きさに相当する (図 5-3)。これは、陸上風力発電 (新設) の FIT・FIP 導入量 (表 5-4) のうち、最も件数が多い 1,000~7,500kW に含まれる規模である。

以上の条件を基に作成したグリッドを図 5-4 に示す。

表 5-3 垂直視角と鉄塔の見え方 (鉄塔高さが約70mの場合)

離隔距離 (視覚)	見え方
8,000m (0.5°)	輪郭がやっとわかる。季節と時間 (夏の午後) の条件は悪く、ガスのせいもある。
4,000m (1°)	十分見えるけれど、景観的にはほとんど気にならない。ガスがかかって見えにくい。
2,000m (1.5~2°)	シルエットになっている場合には良く見え、場合によっては景観的に気になり出す。 シルエットにならず、さらに環境融和塗色がされている場合には、ほとんど気にならない。光線の加減によっては見えないこともある。
1,300m (3°)	比較的細部まで良く見えるようになり、気になる。圧迫感を受けない。
800m (5~6°)	やや大きく見え、景観的にも大きな影響がある (構図を乱す)。架線もよく見えるようになる。圧迫感はあまり受けない (上限か)。
400m (10~12°)	眼いっぱいになり、圧迫感を受けるようになる。平坦なところでは垂直方向の景観要素としては際立った存在になり周囲の景観とは調和しえない。
200m (20°)	見上げるような仰角にあり、圧迫感も強くなる。

出典：UHV 電特別委員会環境部会立地分科会「景観対策ガイドライン(案)」



出典：庄内町 HP

図 5-3 風力発電設備の大きさ

表 5-4 陸上風力発電（新設）のFIT・FIP導入量（単位：MW（件））

認定年度	<20kW	20-50kW	50-250kW	250-1000kW	1,000-7,500kW	7,500-10,000kW	10,000-30,000kW	30,000-37,500kW	37,500-50,000kW	50,000kW-	全体合計
2012年度	0(7)	0(0)	0(0)	0(0)	193(53)	36(4)	393(22)	137(4)	171(4)	51(1)	981(95)
2013年度	0(27)	0(0)	0(0)	0(0)	109(22)	9(1)	344(17)	165(5)	42(1)	122(1)	791(74)
2015年度	1(93)	0(0)	0(0)	0(0)	42(12)	0(0)	100(5)	35(1)	86(2)	182(3)	446(116)
2016年度	13(672)	0(0)	0(0)	0(0)	99(24)	0(0)	126(7)	133(4)	263(6)	640(9)	1,273(722)
2017年度	18(913)	0(0)	0(0)	0(0)	37(7)	0(0)	0(0)	30(1)	42(1)	0(0)	126(922)
2018年度	10(510)	0(0)	0(0)	0(0)	7(2)	0(0)	0(0)	0(0)	42(1)	0(0)	59(513)
2019年度	0(9)	0(3)	0(0)	1(1)	18(5)	0(0)	20(1)	0(0)	0(0)	0(0)	39(19)
2020年度	0(1)	0(2)	0(0)	1(1)	4(2)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	5(6)
2021年度	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
2022年度	0(0)	0(0)	0(0)	0(1)	2(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(2)
2023年度	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
2024年度	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	42(2,232)	0(5)	0(0)	2(3)	511(128)	45(5)	982(52)	499(15)	645(15)	995(14)	3,722(2,469)

出典：資源エネルギー庁「風力発電について（2026年）」

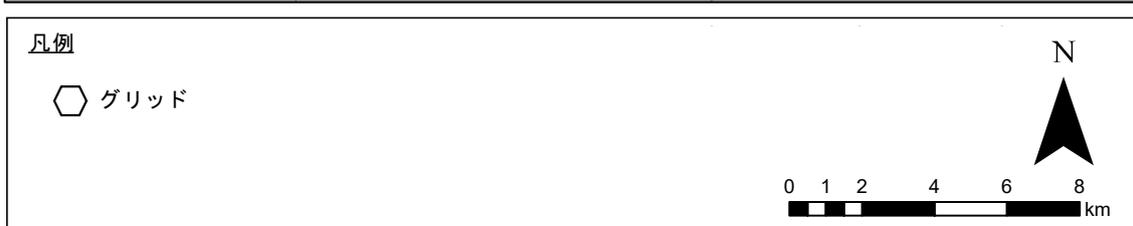
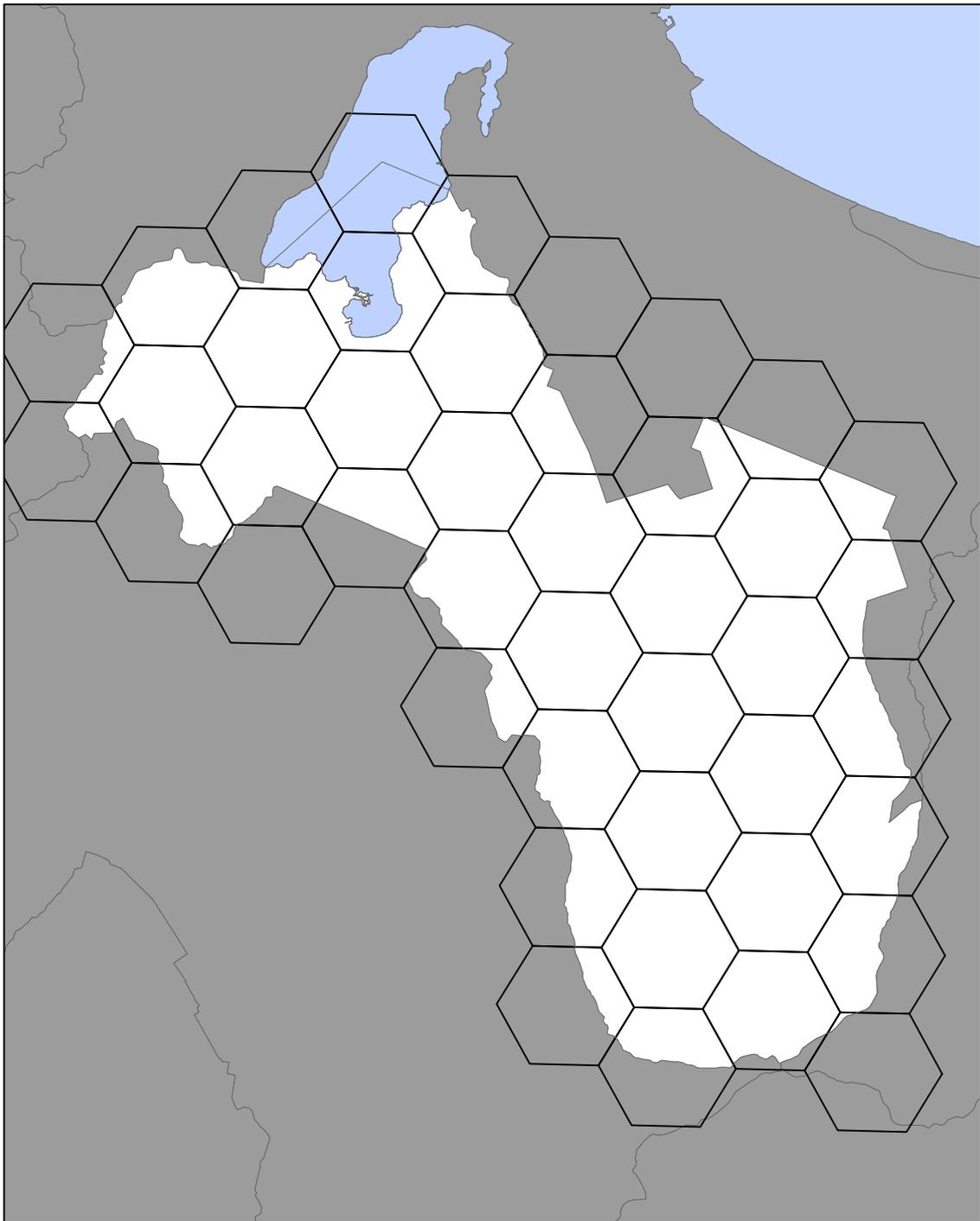


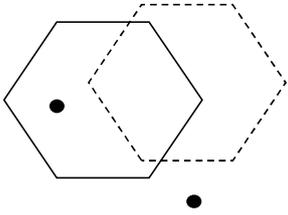
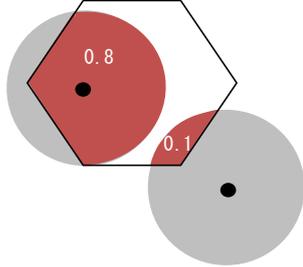
図 5-4 グリッド

(4) 景観重要箇所の設定

a) 設定方法

前項で作成したグリッドに重なる町民意見のポイント数を集計し、その数が多いグリッドを景観重要箇所とした。なお、グリッドの起点位置に起因する集計結果の変動を抑制するため、ポイントからバッファーを作成し、面積按分により集計することとした(表 5-5)。また、バッファーのサイズは前項の整理をもとに半径 2,000m とした。作成したバッファーを図 5-5 に示す。

表 5-5 集計方法

集計方法	概要	イメージ
<p>重なった ポイントの集計</p>	<p>■方法 グリッドに重なったポイントの数を集計する。</p> <p>■課題 グリッドの起点位置によって、集計結果が変動する。</p>	<p>どこにグリッドを置くか...</p> 
<p>面積按分 による集計</p>	<p>■方法 ポイントからバッファーを作成し、重なった面積割合を集計する。</p> <p>■利点 グリッドの起点位置による集計結果の変動を抑制できる。</p>	<p>面積割合を集計</p> 

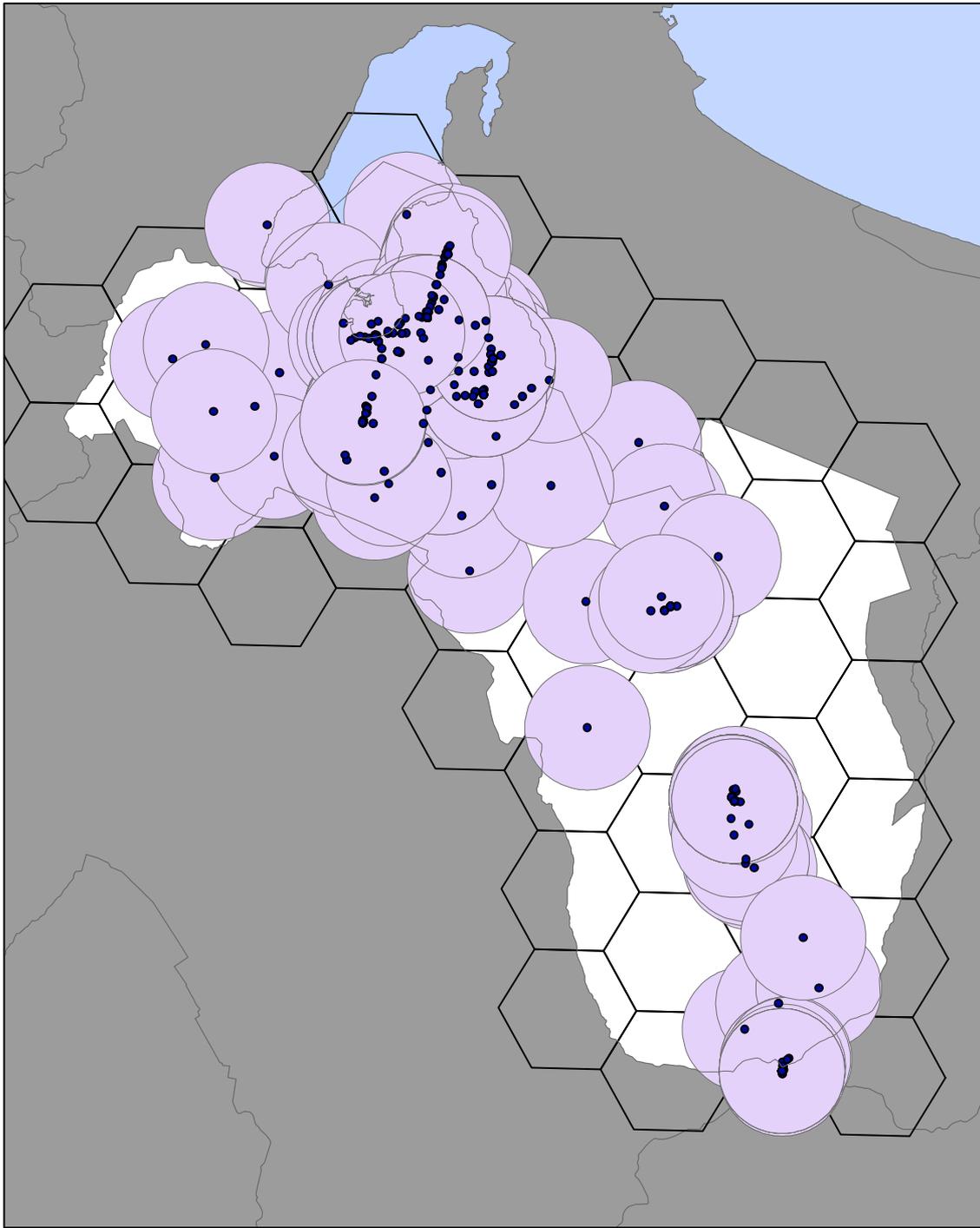


図 5-5 バッファー

b) 結果

グリッド別のアンケート集計結果および景観重要箇所を図 5-6、図 5-7 に示す。なお、景観重要箇所は、GIS の自然分類機能により分類数を増やしていくことで設定することとし、2分類の場合は上位のグリッドがすべて大空八景と重複したことから（図 5-8）、3分類による上位2グリッドを景観重要箇所とした。

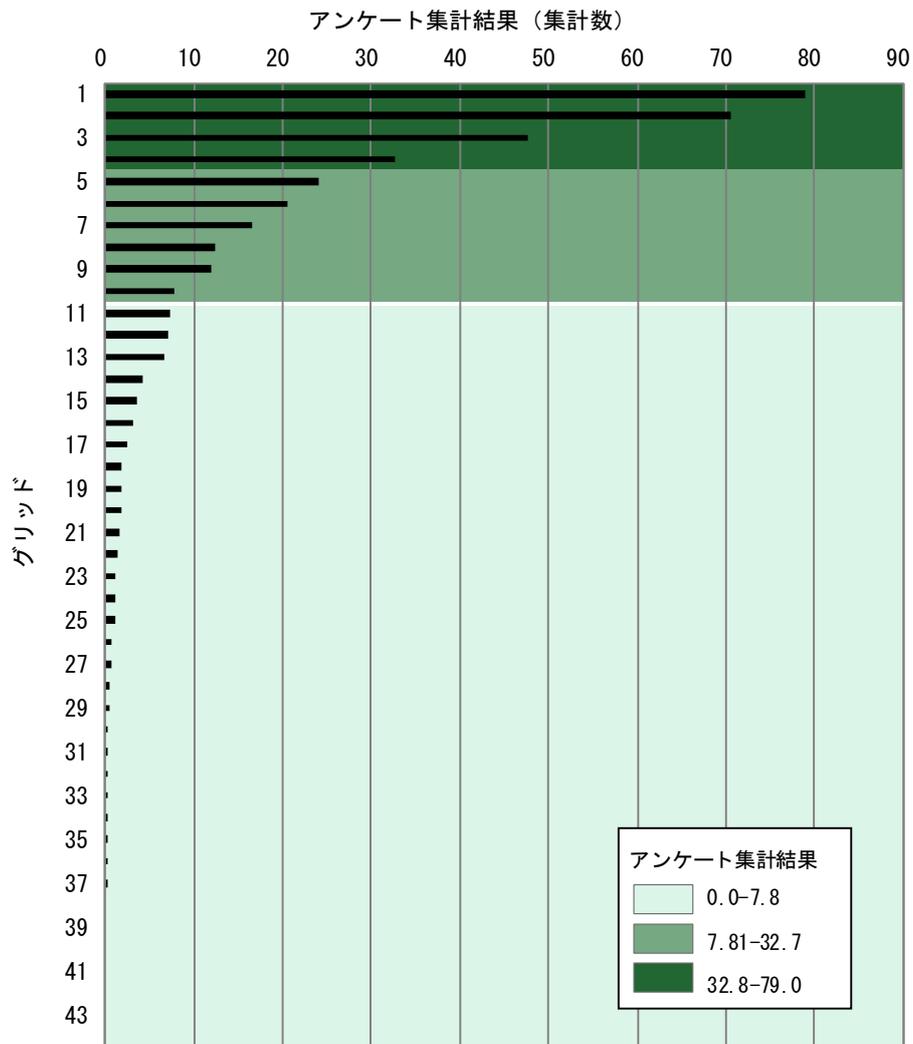


図 5-6 グリッド別のアンケート集計結果

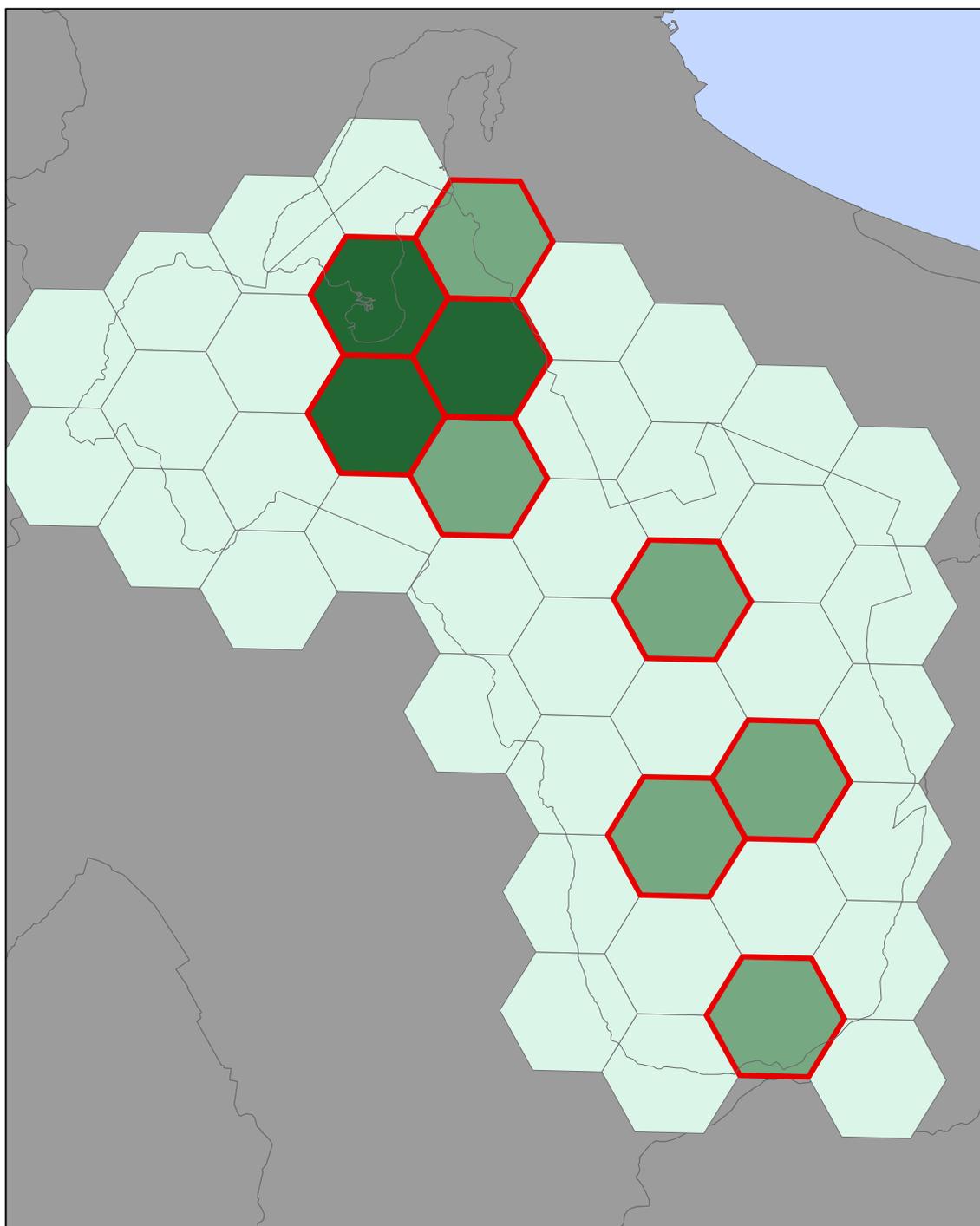
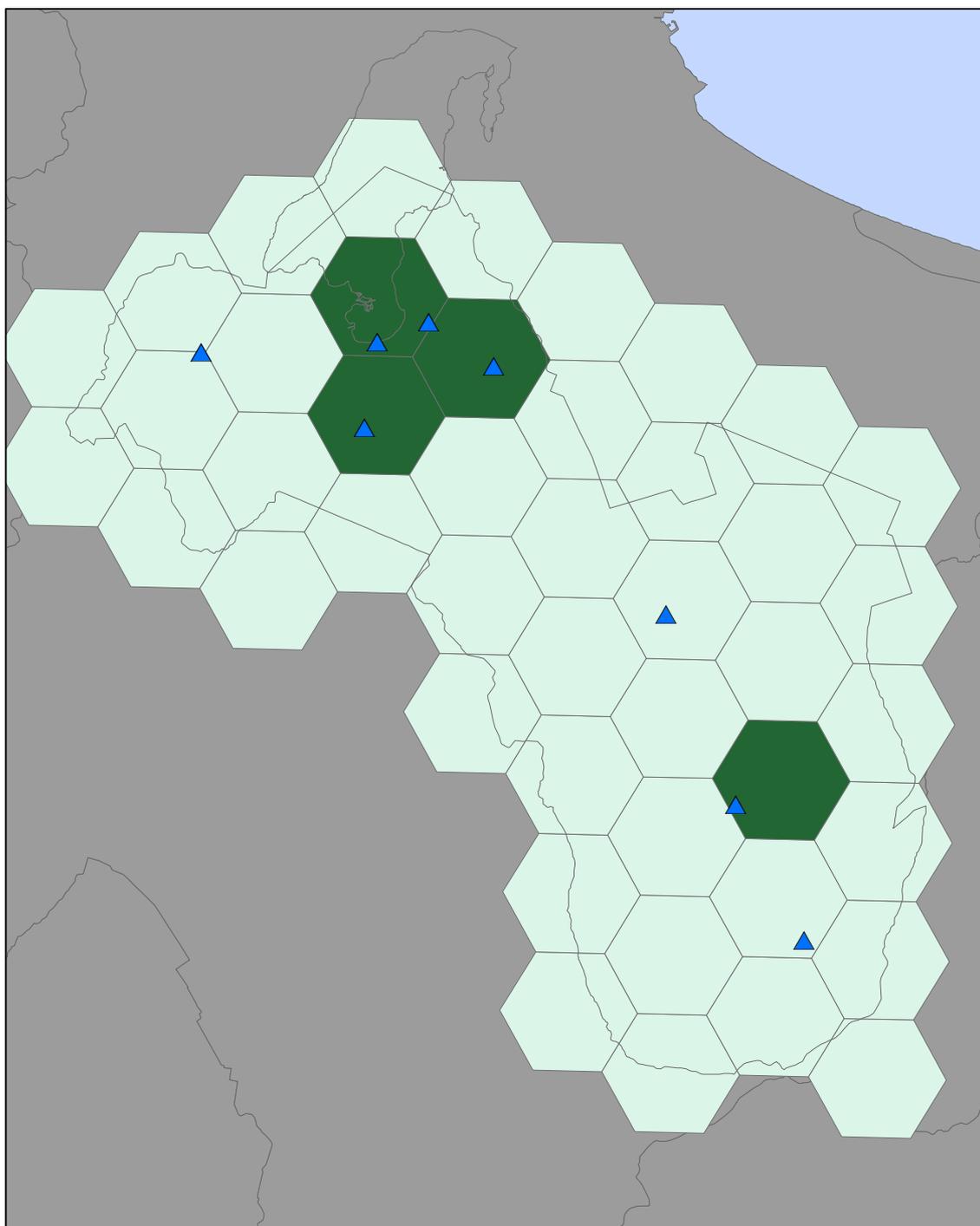


図 5-7 景観重要箇所



凡例

アンケート集計結果 ▲ 大空八景

0.0-24.0

24.1-79.0

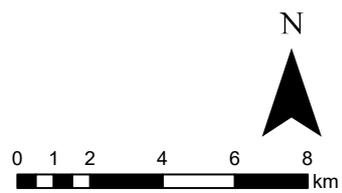


図 5-8 自然分類（2分類の場合）

### 5.2.3 現地調査

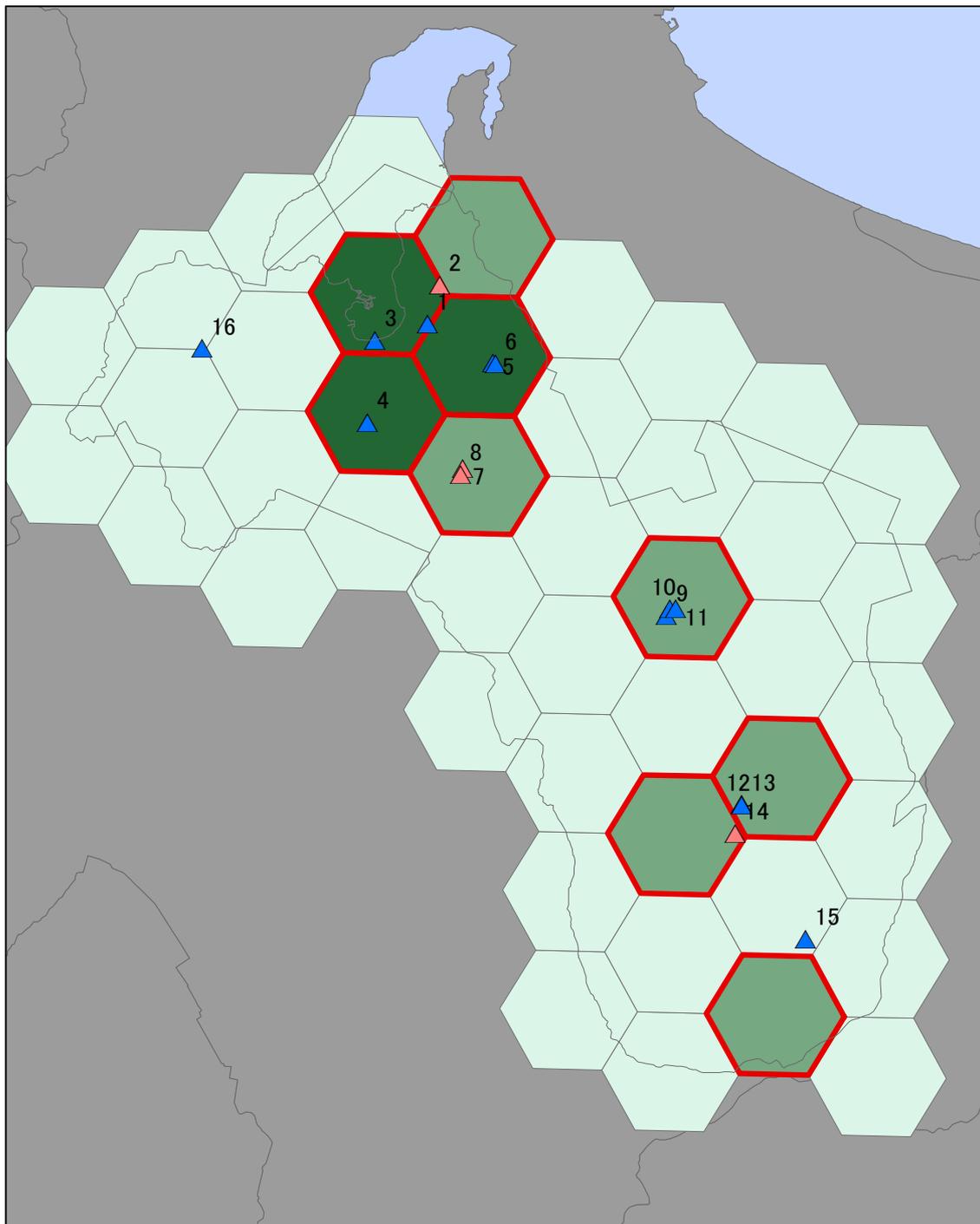
#### (1) 調査地点

①前節で設定した景観重要箇所に対して地点を1点以上設定すること、②大空八景を地点とすることの2条件を基本とし、現地状況も考慮したうえで調査地点を設定した。設定した現地調査地点（16地点）を表5-6、図5-7に示し、調査地点周辺状況を表5-7～表5-9に示す。なお、現地状況より調査地点から除外した景観重要箇所があるが、周辺から眺望可能であるため、アンケート結果は一定程度考慮できていると考えられる。

表 5-6 現地調査地点

地点番号	地点名	分類
1	メルヘンの丘	大空八景
2	メルヘンの丘北部	アンケート結果
3	網走湖	大空八景
4	ひまわり畑	大空八景
5	朝日ヶ丘公園西部（展望台）	大空八景
6	朝日ヶ丘公園東部	大空八景
7	農地周辺 1	アンケート結果
8	農地周辺 2	アンケート結果
9	乳酪館 1	大空八景
10	乳酪館 2	大空八景
11	乳酪館 3	大空八景
12	芝桜公園 1	大空八景
13	芝桜公園 2	大空八景
14	芝桜公園対面道路	アンケート結果
15	藻琴山登山口	大空八景
16	住吉台地	大空八景

※) 地点番号は次頁の図と対応している。



凡例

- |                    |           |
|--------------------|-----------|
| ▲ 現地調査地点 (アンケート結果) | アンケート集計結果 |
| ▲ 現地調査地点 (大空八景)    | 0.0-7.8   |
| ⬡ 景観重要箇所           | 7.81-32.7 |
|                    | 32.8-79.0 |

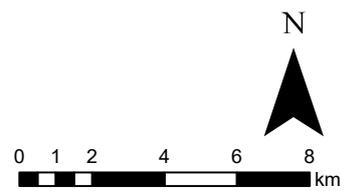


図 5-9 現地調査地点

表 5-7 現地調査地点周辺状況 (1/3)

地点 番号	地点名	周辺状況 (※赤丸が現地調査地点)
1	メルヘンの丘	
2	メルヘンの丘北 部	
3	網走湖	
4	ひまわり畑	

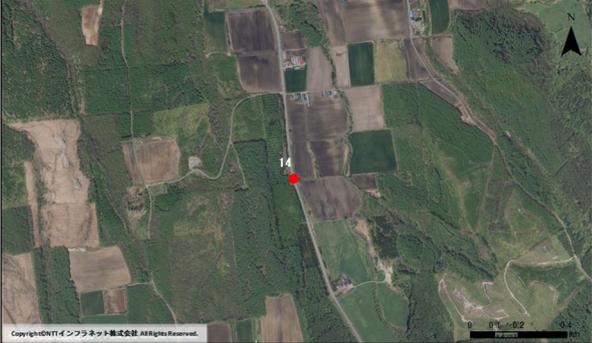
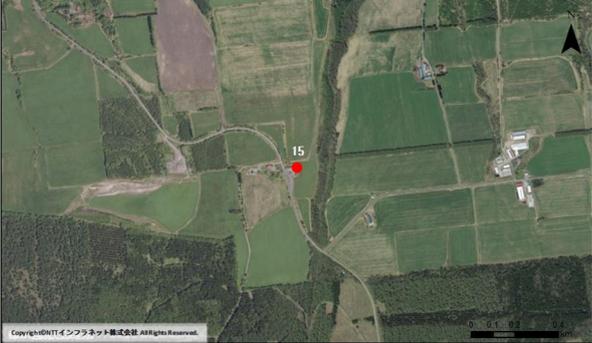
出典：(C) NTTインフラネット株式会社を基に作成

表 5-8 現地調査地点周辺状況 (2/3)

地点 番号	地点名	周辺状況
5	朝日ヶ丘公園西部 (展望台)	
6	朝日ヶ丘公園東部	
7 8	農地周辺 1 農地周辺 2	
9 10 11	乳酪館 1 乳酪館 2 乳酪館 3	

出典：(C) NTTインフラネット株式会社を基に作成

表 5-9 現地調査地点周辺状況 (3/3)

地点 番号	地点名	周辺状況
12 13	芝桜公園 1 芝桜公園 2	
14	芝桜公園 対面道路	
15	藻琴山 登山口	
16	住吉台地	

出典：(C) NTTインフラネット株式会社を基に作成

## (2) 調査方法

現地調査地点において北から時計回りに 360° 写真を撮影した。現地調査方法の概要を表 5-10 に示す。

現地調査後、撮影した写真は合成ソフトによりパノラマ合成した。本調査の目的は各地点からの眺望方向を把握することであるため、合成時の投影方式については水平方向の角度が等間隔となる正距円筒図法 (Spherical) を選択した。

表 5-10 現地調査方法の概要

項目	内容
調査方法	現地調査地点において北から時計回りに 360° 写真を撮影
使用機器	カメラ : Canon EOS KISS X10 レンズ : Canon (18-55mm)
撮影高さ	地上 1.5m
焦点距離	自然環境アセスメント研究会「自然環境アセスメント技術マニュアル」 をもとに 35mm にて実施
水平角度	水平

## (3) 調査結果

現地調査結果を表 5-11～表 5-18 に示す。



表 5-12 現地調査結果 (2/8)

地点	眺望方向
<p>地点 3 網走湖</p>	 <p>北 東 南 西 北</p> <p>眺望 遮蔽 眺望</p> <p>0° 87° 278° 360°</p>
<p>地点 4 ひまわり畑</p>	 <p>北 東 南 西 北</p> <p>遮蔽 眺望 遮蔽</p> <p>0° 162° 319° 360°</p>

表 5-13 現地調査結果 (3/8)

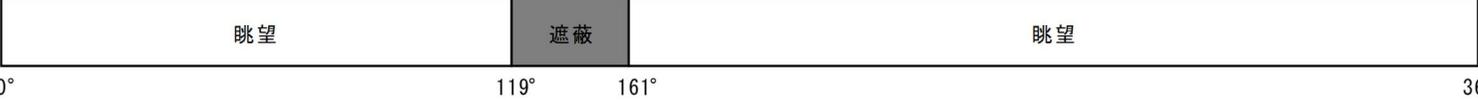
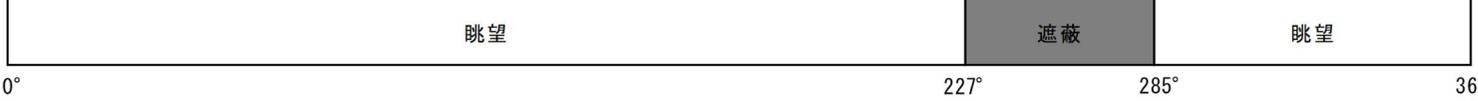
地点	眺望方向
地点 5 朝日ヶ丘公園西部(展望台)	 <p>北 東 南 西 北</p>  <p>眺望 遮蔽 眺望</p> <p>0° 119° 161° 360°</p>
地点 6 朝日ヶ丘公園東部	 <p>北 東 南 西 北</p>  <p>眺望 遮蔽 眺望</p> <p>0° 227° 285° 360°</p>

表 5-14 現地調査結果 (4/8)

地点	眺望方向
地点 7 農地周辺 1	<p>北 東 南 西 北</p> <p>眺望 遮蔽 眺望</p> <p>0° 141° 209° 360°</p>
地点 8 農地周辺 2	<p>北 東 南 西 北</p> <p>眺望 遮蔽 眺望</p> <p>0° 33° 76° 360°</p>

表 5-15 現地調査結果 (5/8)

地点	眺望方向
地点 9 乳酪館 1	<p>北 東 南 西 北</p> <p>0° 93° 304° 360°</p> <p>遮蔽 眺望 遮蔽</p>
地点 10 乳酪館 2	<p>北 東 南 西 北</p> <p>0° 38° 86° 130° 360°</p> <p>眺望 遮蔽 眺望 遮蔽</p>

表 5-16 現地調査結果 (6/8)

地点	眺望方向
地点 11 乳酪館 3	<p>北 東 南 西 北</p> <p>0° 139° 210° 360°</p> <p>遮蔽 眺望 遮蔽</p>
地点 12 芝桜公園 1	<p>北 東 南 西 北</p> <p>0° 167° 360°</p> <p>遮蔽 眺望</p>

表 5-17 現地調査結果 (7/8)

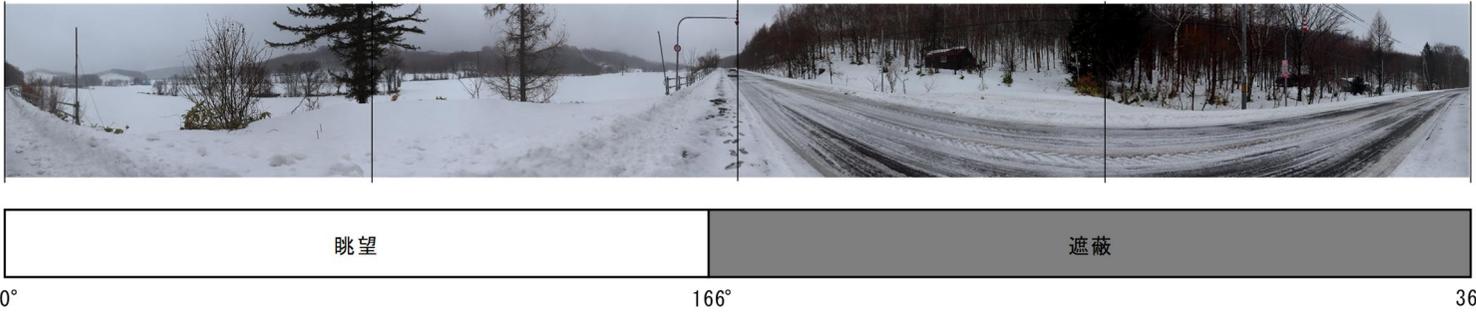
地点	眺望方向
地点 13 芝桜公園 2	<div style="text-align: center;"> <span>北</span>                      <span>東</span>                      <span>南</span>                      <span>西</span>                      <span>北</span> </div> 
地点 14 芝桜公園 対 面道路	<div style="text-align: center;"> <span>北</span>                      <span>東</span>                      <span>南</span>                      <span>西</span>                      <span>北</span> </div> 

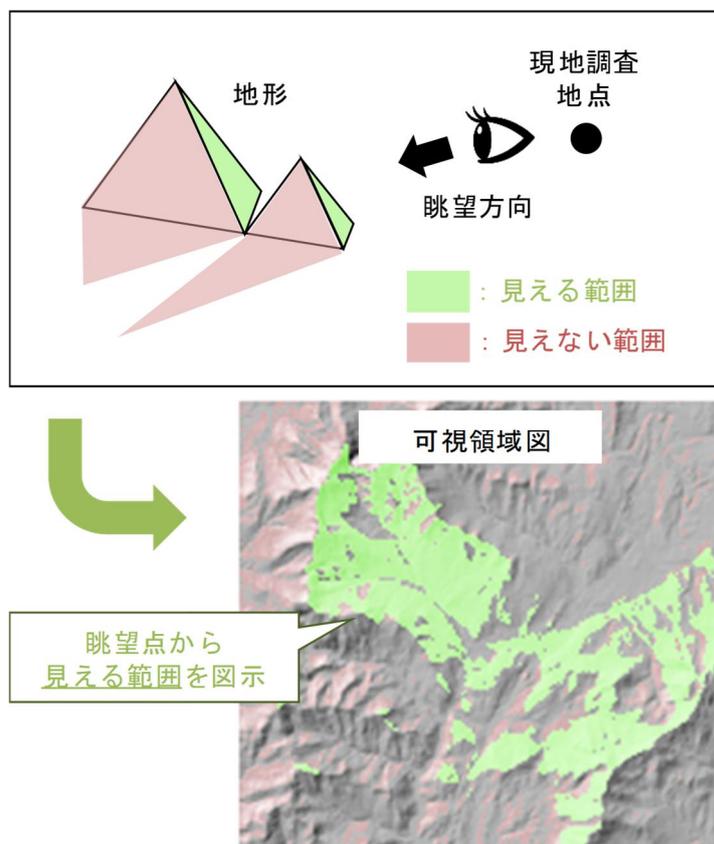
表 5-18 現地調査結果(8/8)

地点	眺望方向
地点 15 藻琴山登山口	<div style="text-align: center;"> <span>北</span>                      <span>東</span>                      <span>南</span>                      <span>西</span>                      <span>北</span> </div>  <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <span>眺望</span>    <span>遮蔽</span> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <span>0°</span>    <span>246°</span>    <span>360°</span> </div>
地点 16 住吉台地	<div style="text-align: center;"> <span>北</span>                      <span>東</span>                      <span>南</span>                      <span>西</span>                      <span>北</span> </div>  <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <span>遮蔽</span>                      <span>眺望</span>                      <span>遮蔽</span> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <span>0°</span>                      <span>66°</span>                      <span>137°</span>                      <span>360°</span> </div>

#### 5.2.4 可視領域図の作成

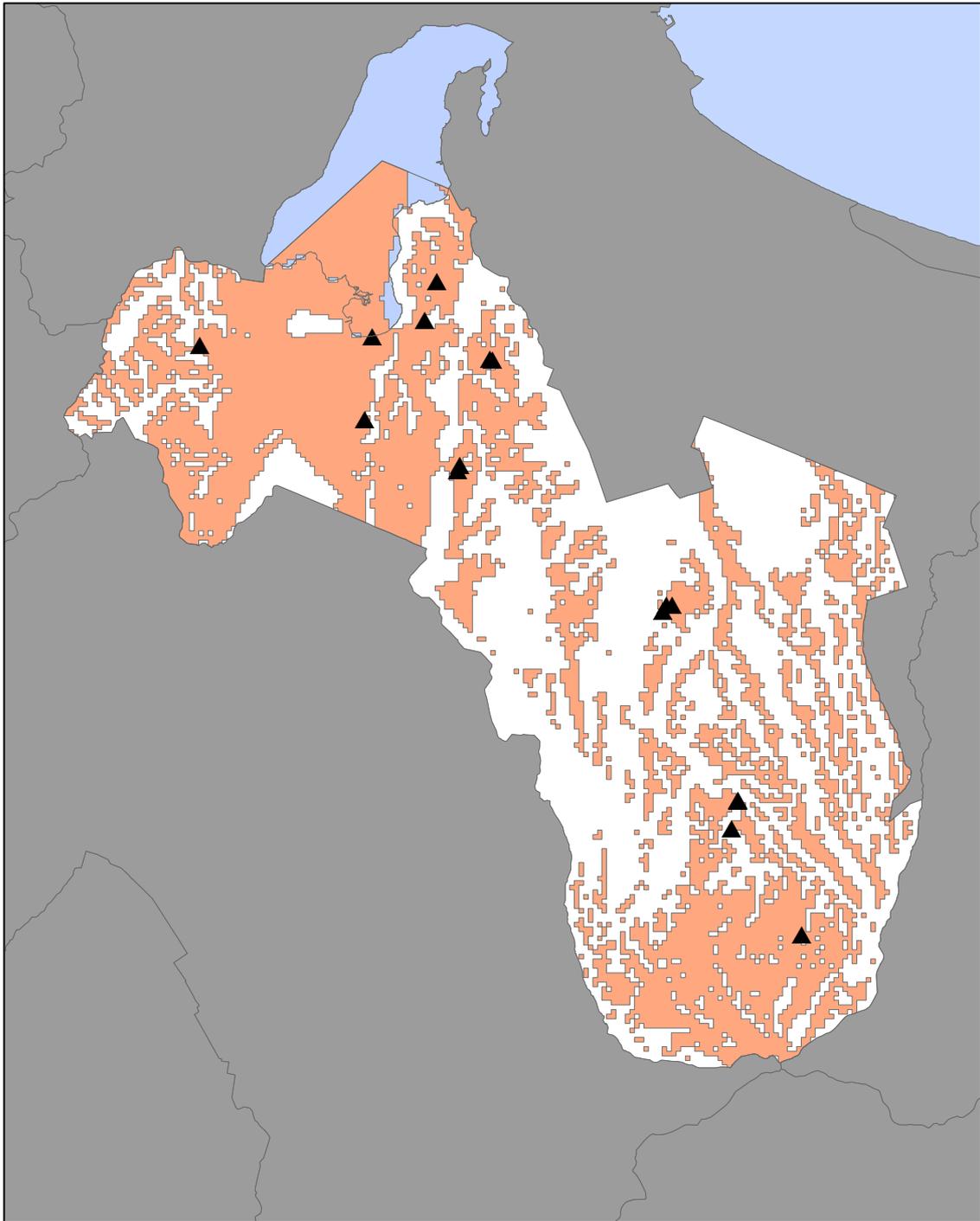
前節における各現地調査地点からの眺望方向をもとに可視領域図を作成した。可視領域図とは、ある地点から見える範囲（可視領域）について、地形や建物などの遮蔽物を考慮して視覚的に示した図のことを指す（図 5-10）。なお、可視領域図の作成にあたり、地形データは国土地理院「数値標高モデル 10m メッシュ」を活用した。

以上の条件をもとに作成した可視領域図を図 5-11 に、現地調査地点別の可視領域図を図 5-12～図 5-27 に示す。



出典：ESRI ジャパン株式会社 HP を基に作成

図 5-10 可視領域図のイメージ



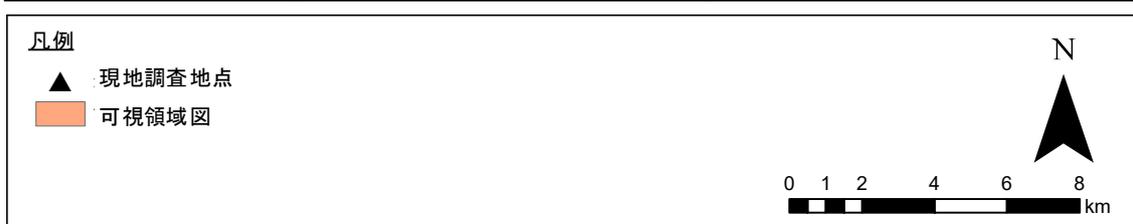
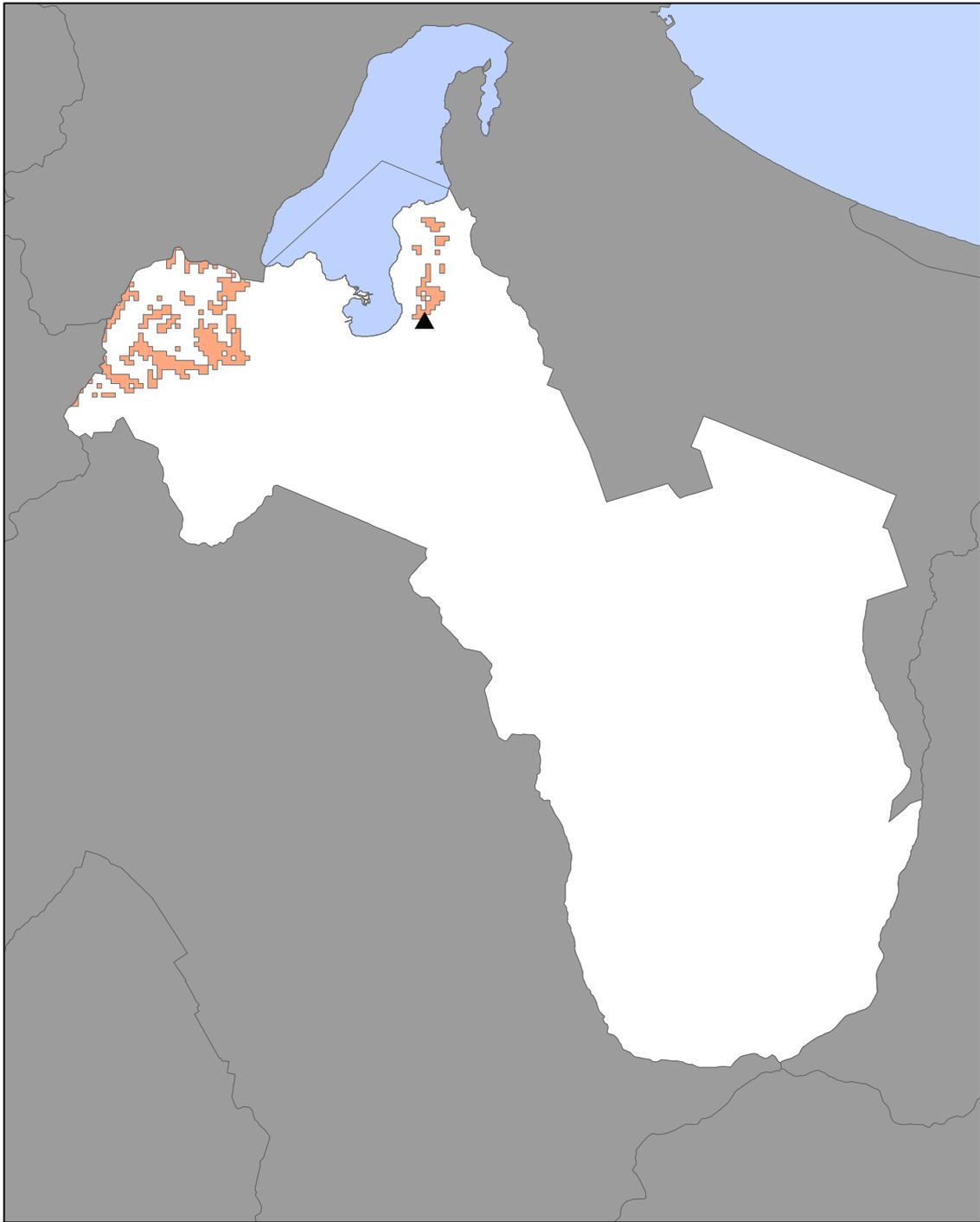
凡例

- ▲ 現地調査地点
- 可視領域図



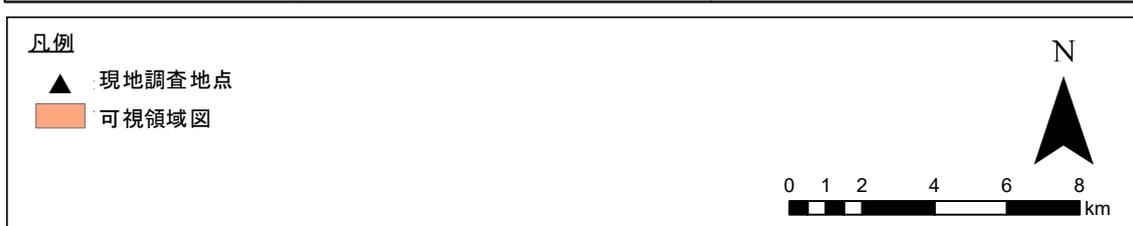
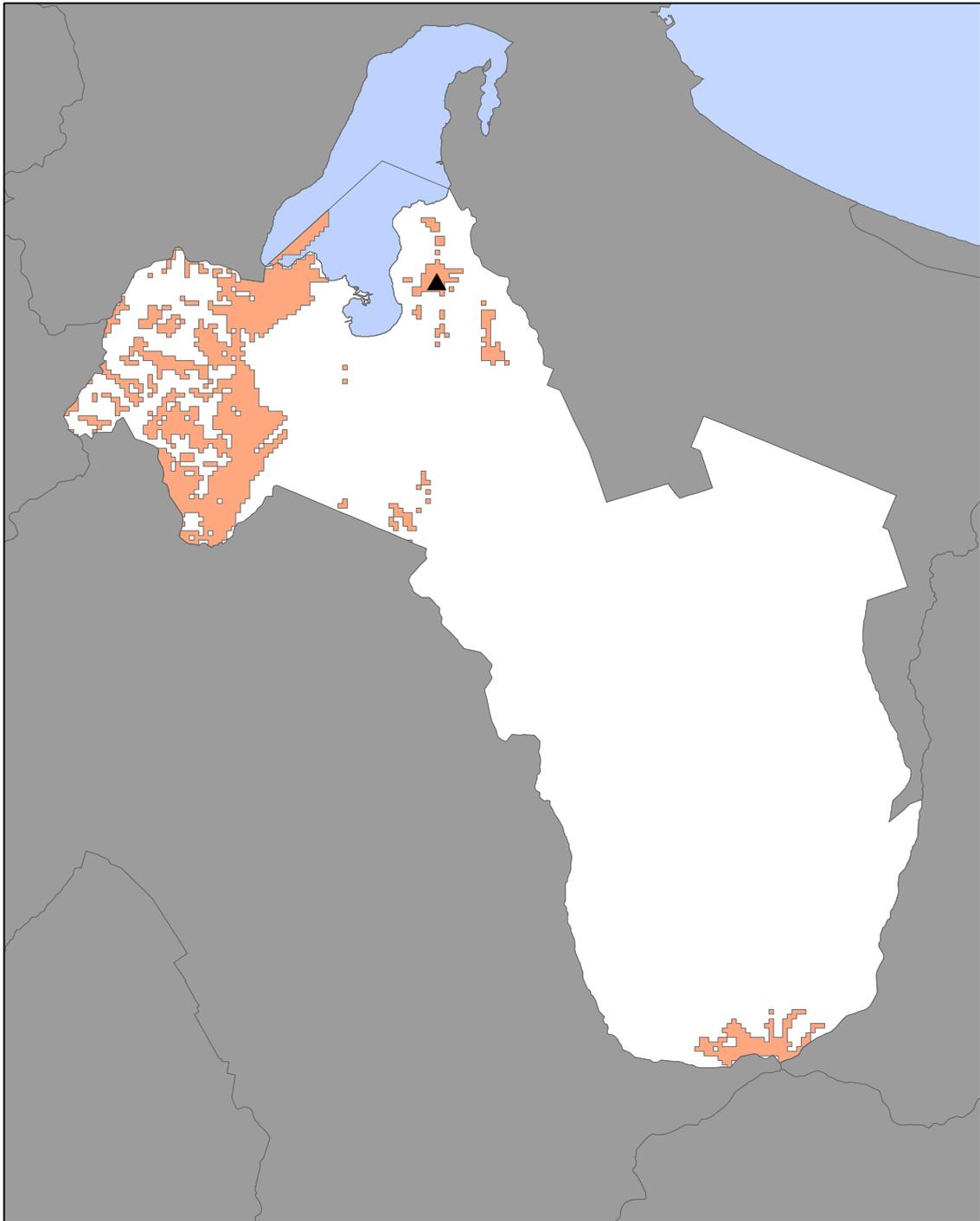
出典：国土地理院「数値標高モデル 10m メッシュ」を基に作成

図 5-11 可視領域図



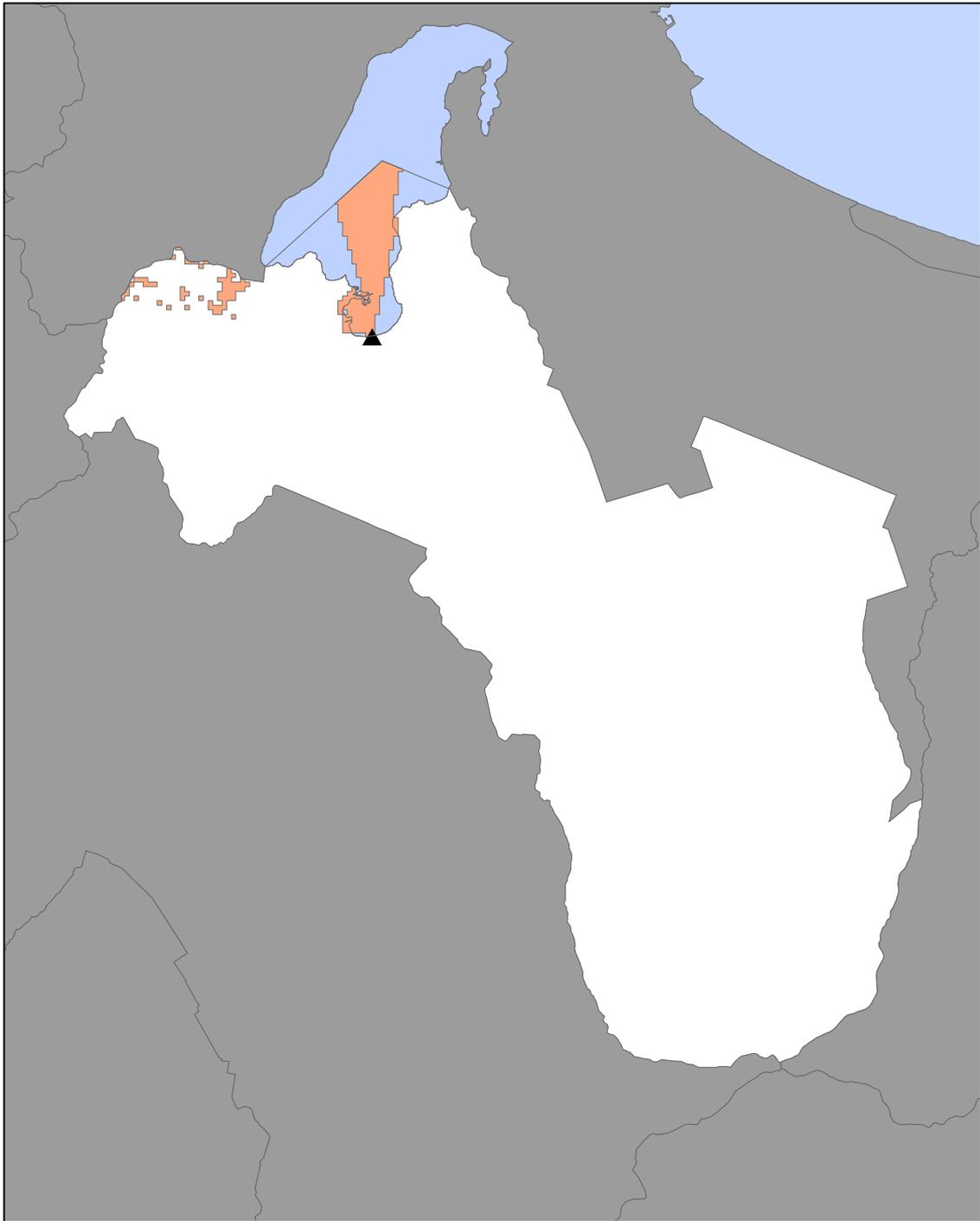
出典：国土地理院「数値標高モデル 10m メッシュ」を基に作成

図 5-12 可視領域図（地点 1：メルヘンの丘）



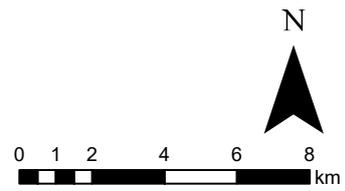
出典：国土地理院「数値標高モデル 10m メッシュ」を基に作成

図 5-13 可視領域図（地点 2：メルヘンの丘北部）



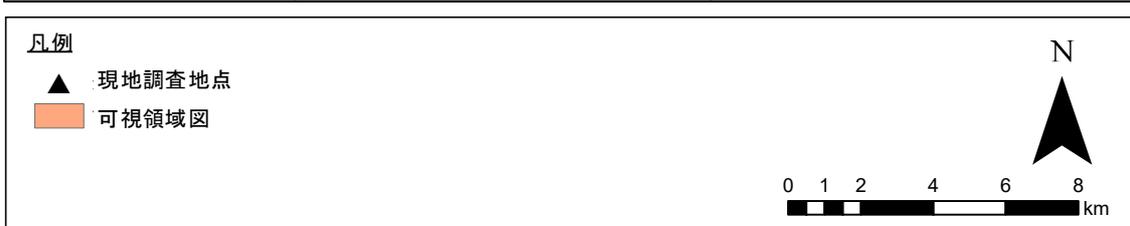
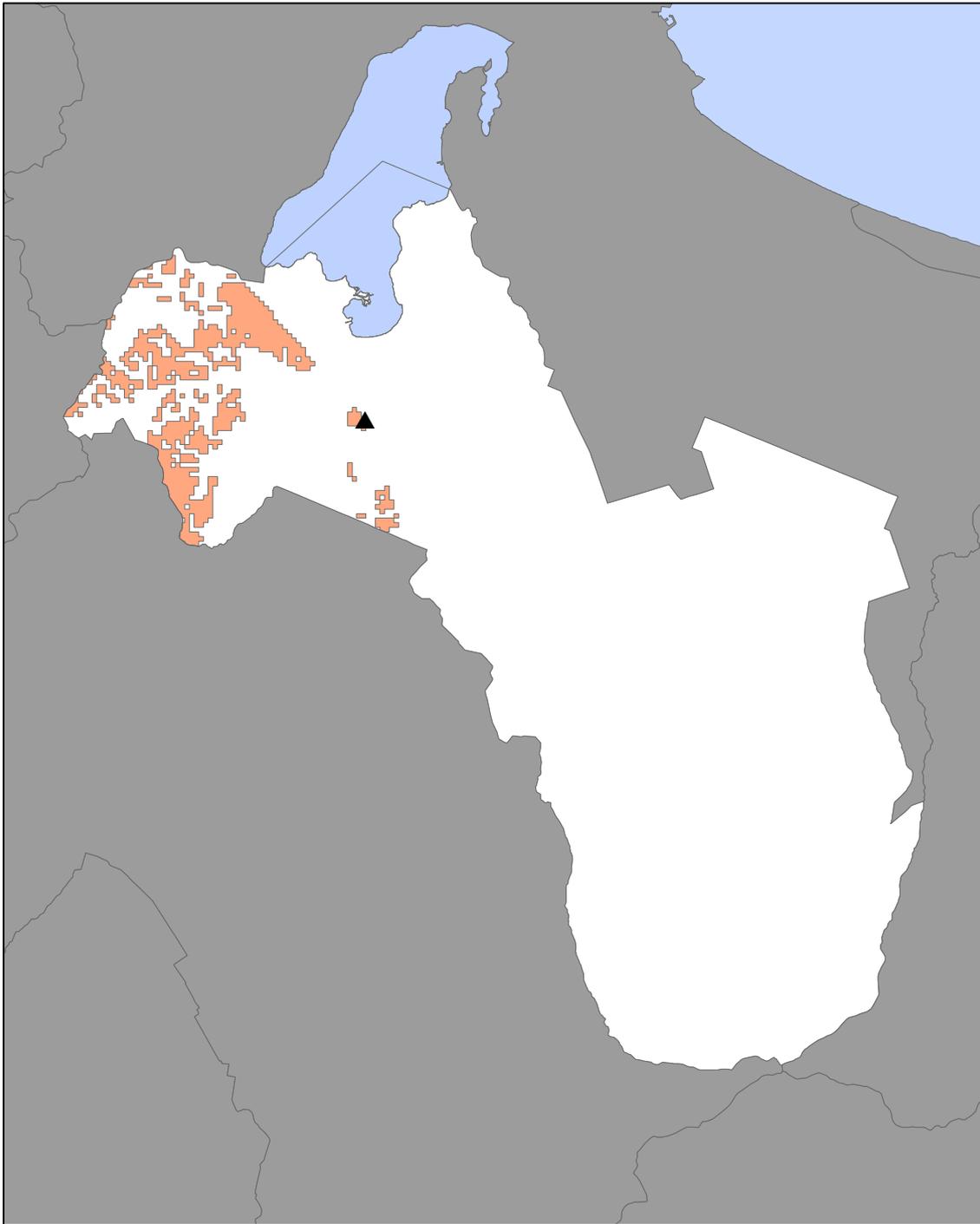
凡例

- ▲ 現地調査地点
- 可視領域図



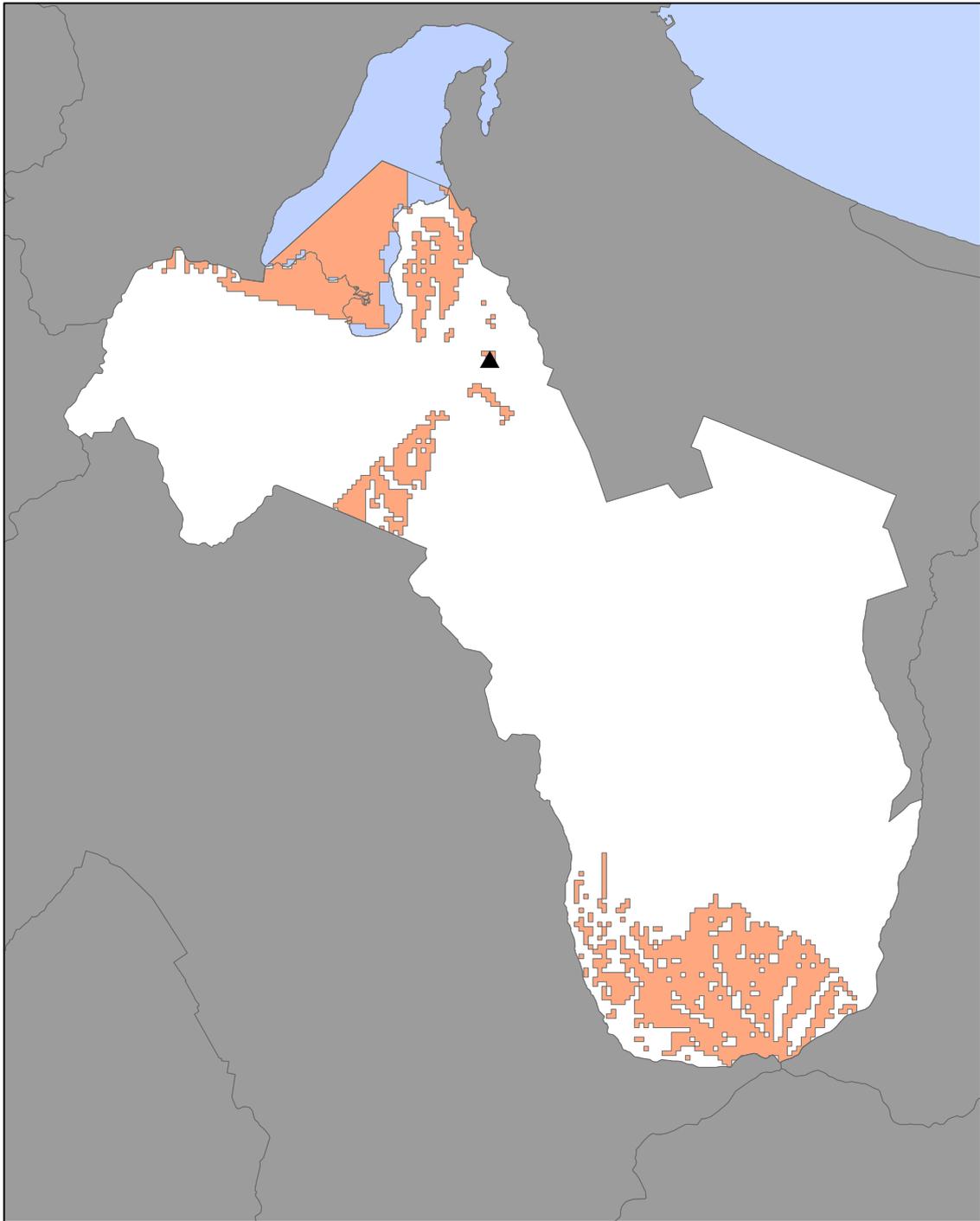
出典：国土地理院「数値標高モデル 10m メッシュ」を基に作成

図 5-14 可視領域図（地点 3：網走湖）



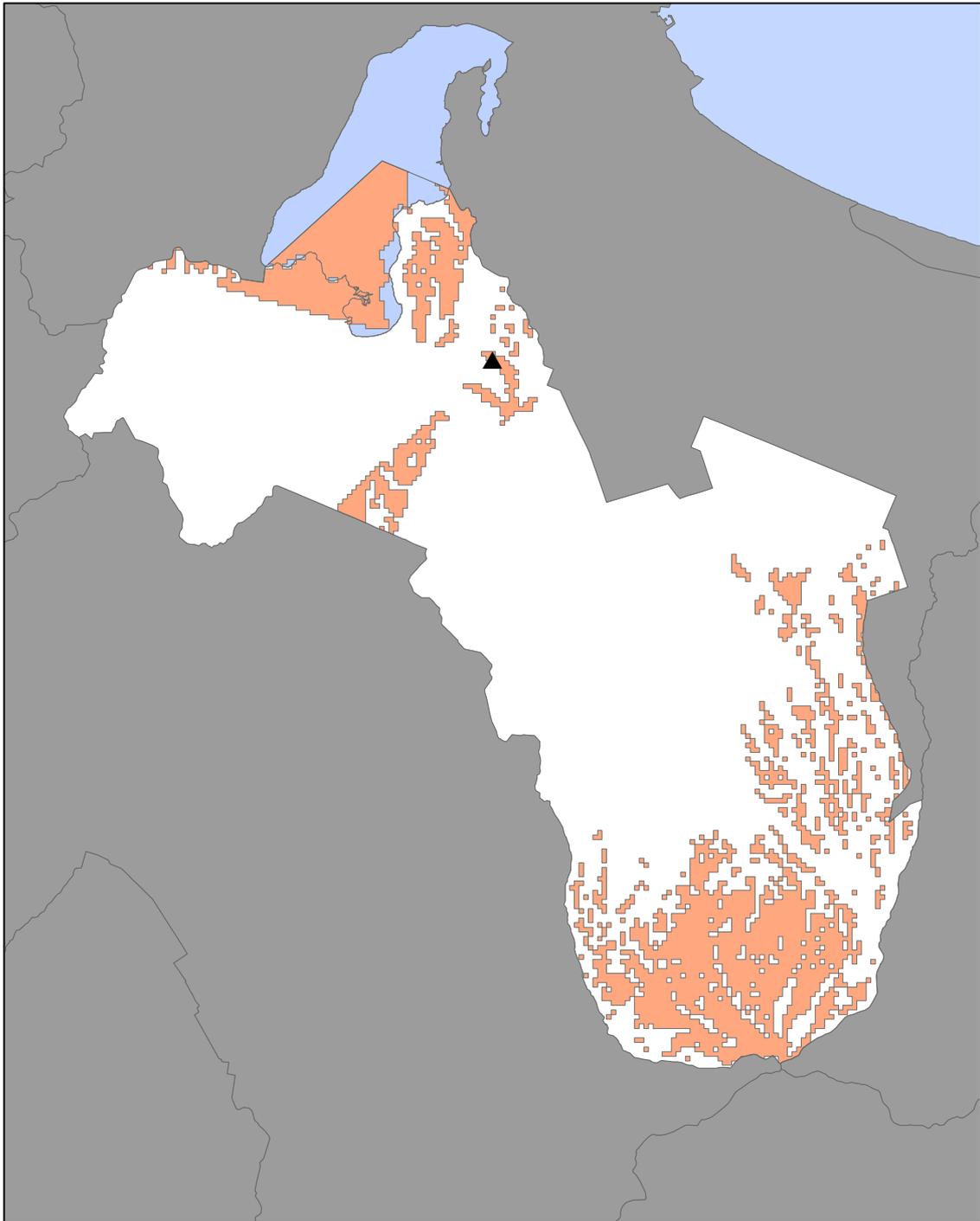
出典：国土地理院「数値標高モデル 10m メッシュ」を基に作成

図 5-15 可視領域図（地点 4：ひまわり畑）



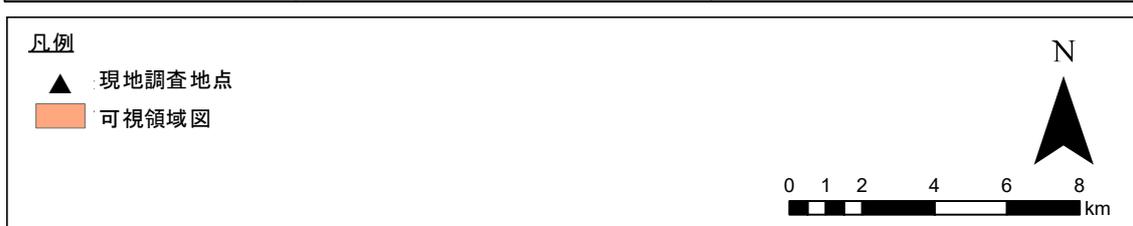
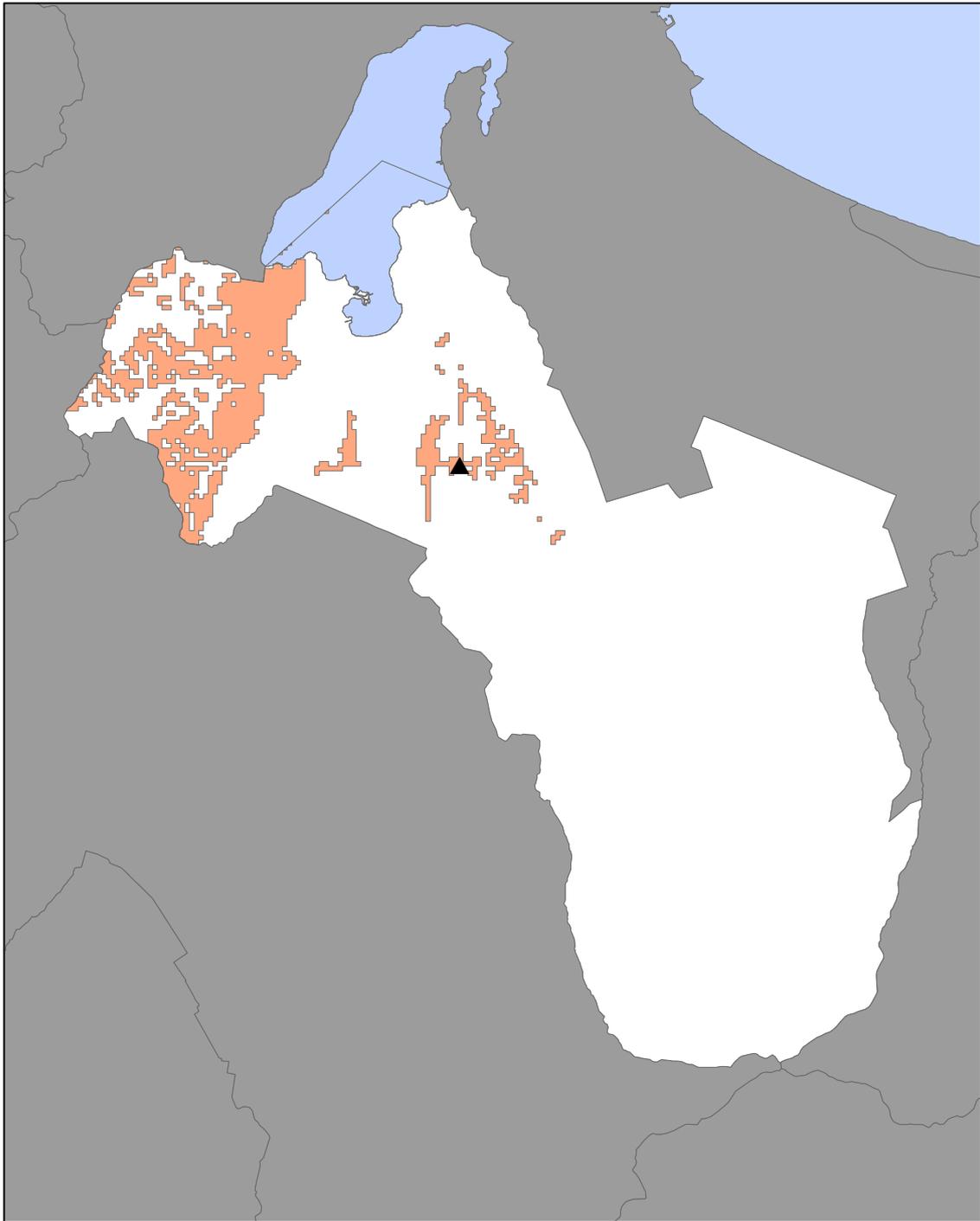
出典：国土地理院「数値標高モデル 10m メッシュ」を基に作成

図 5-16 可視領域図（地点 5：朝日ヶ丘公園西部（展望台））



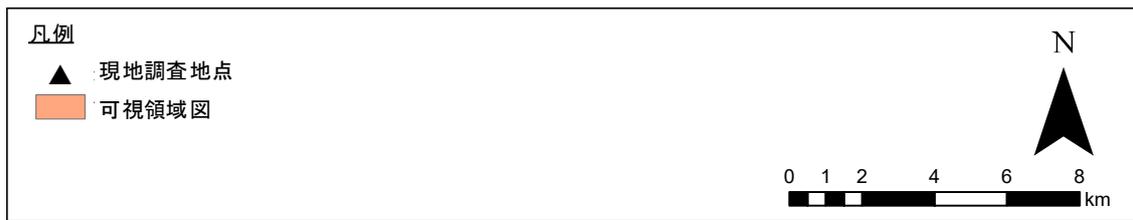
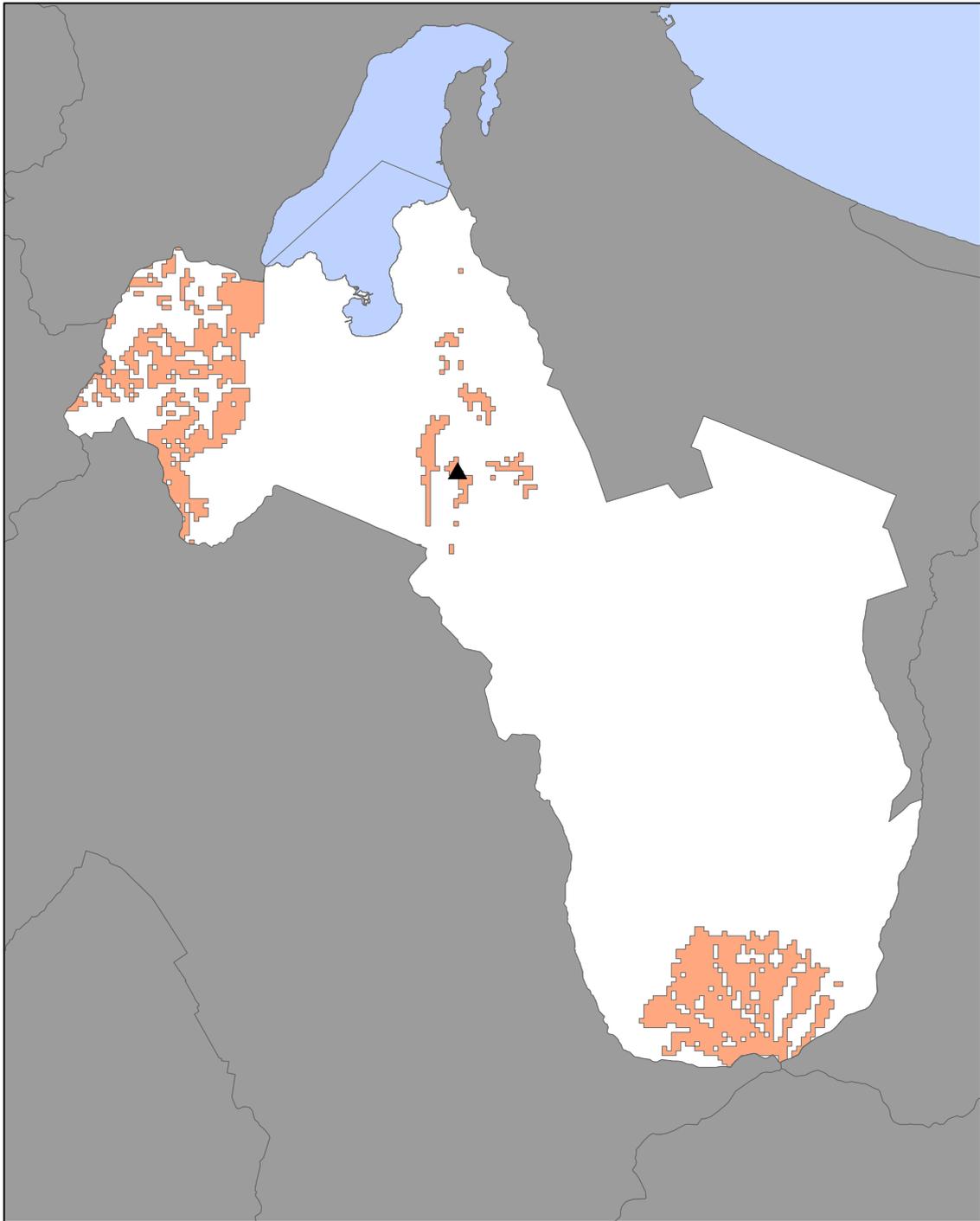
出典：国土地理院「数値標高モデル 10m メッシュ」を基に作成

図 5-17 可視領域図（地点 6：朝日ヶ丘公園東部）



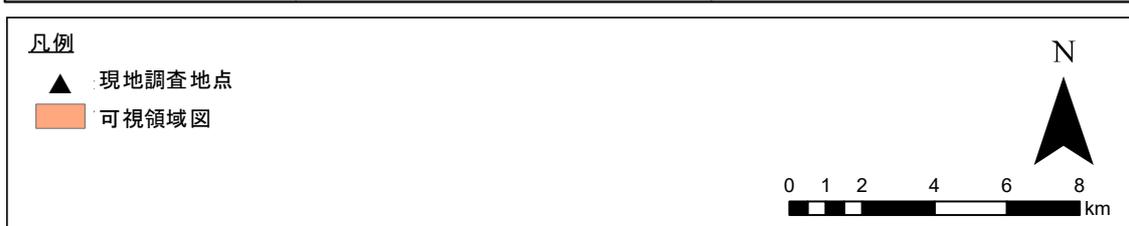
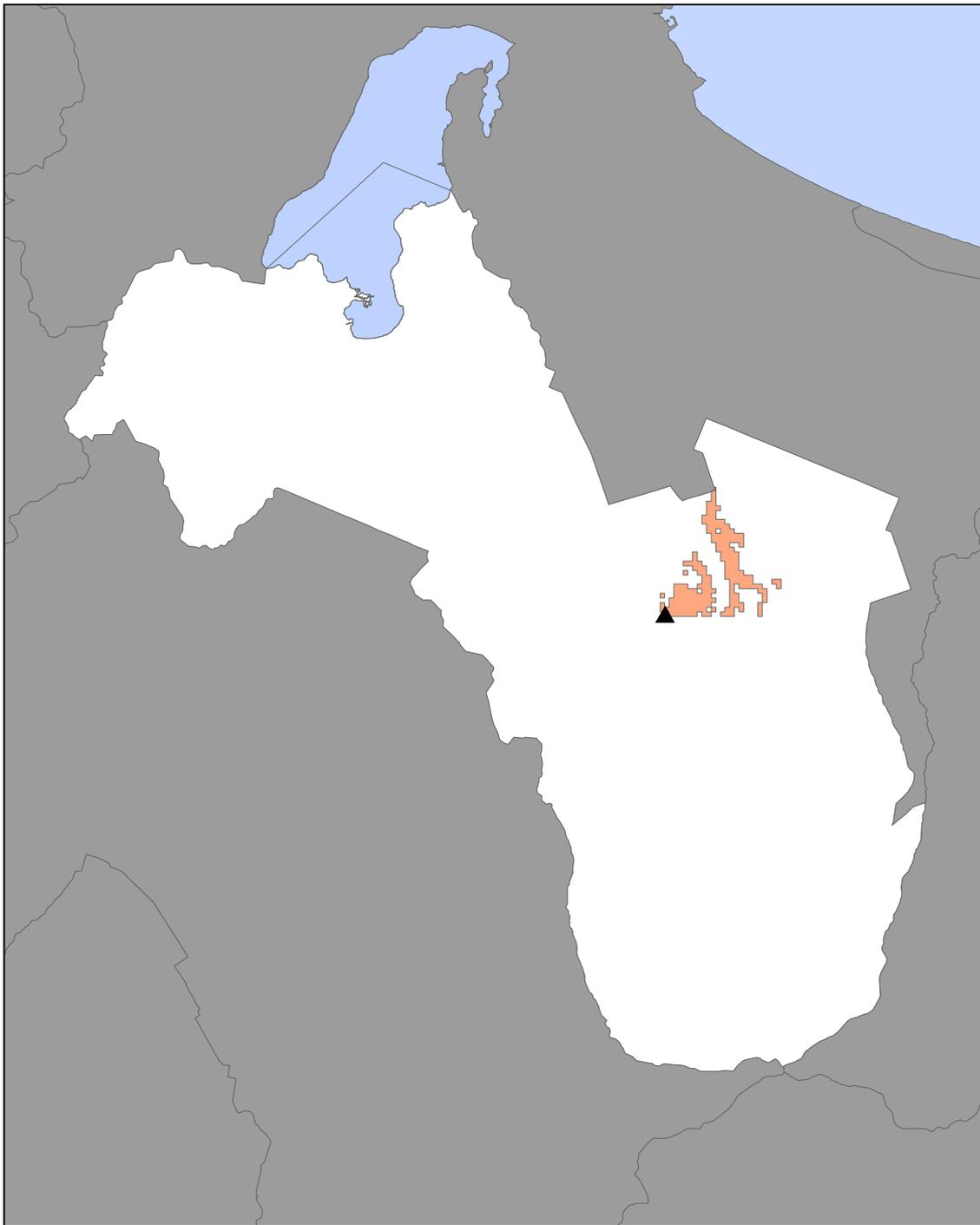
出典：国土地理院「数値標高モデル 10m メッシュ」を基に作成

図 5-18 可視領域図（地点 7：農地周辺 1）



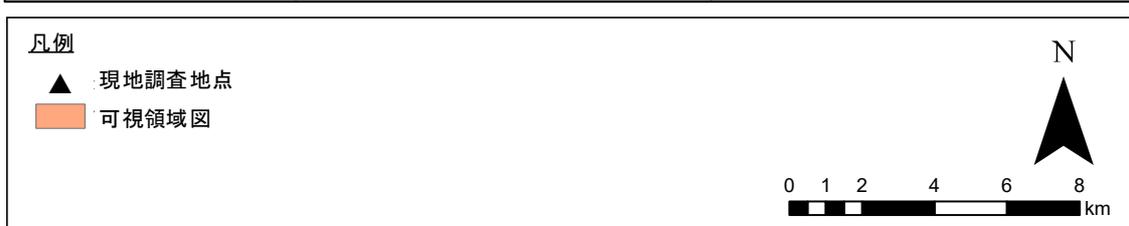
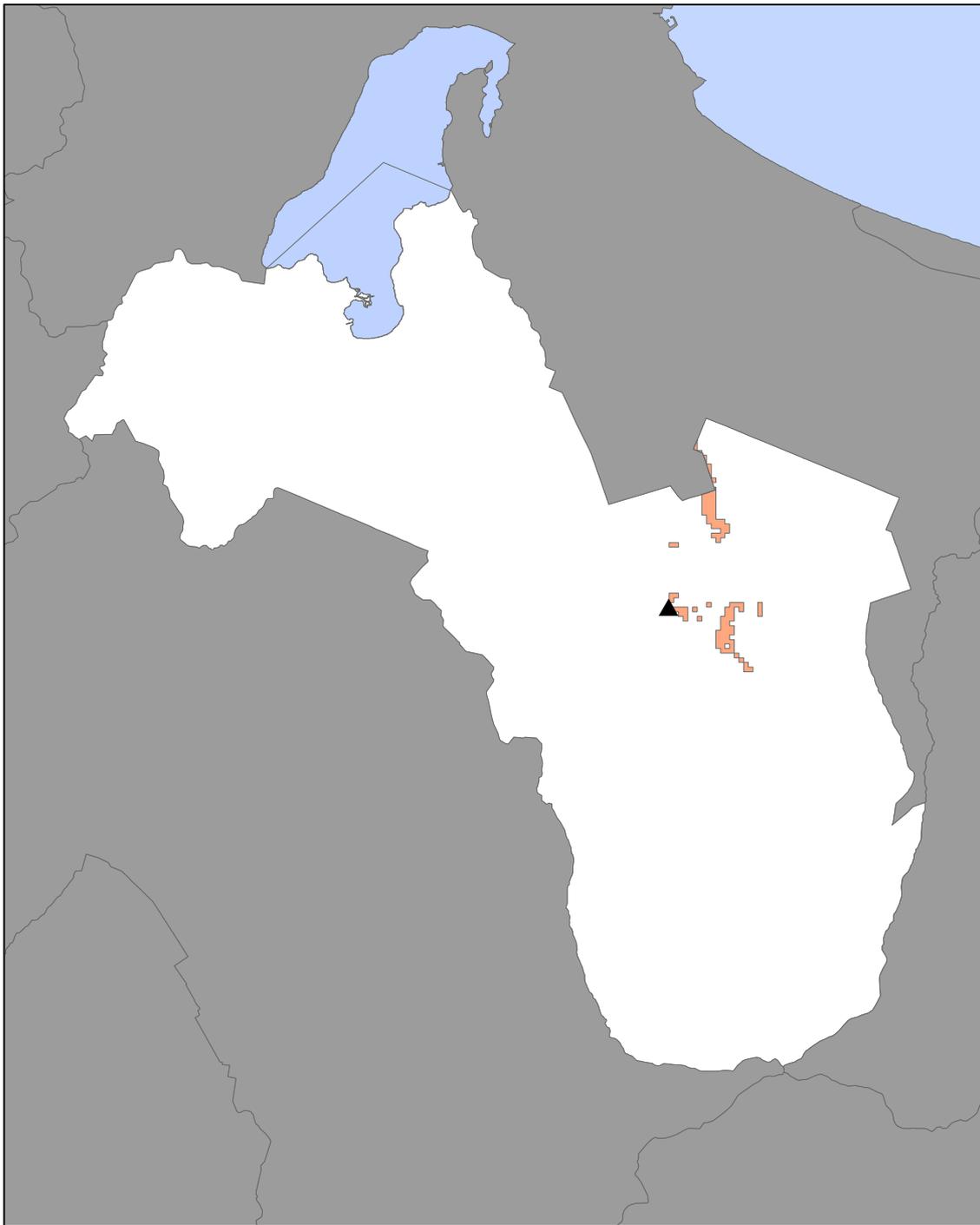
出典：国土地理院「数値標高モデル 10m メッシュ」を基に作成

図 5-19 可視領域図（地点 8：農地周辺 2）



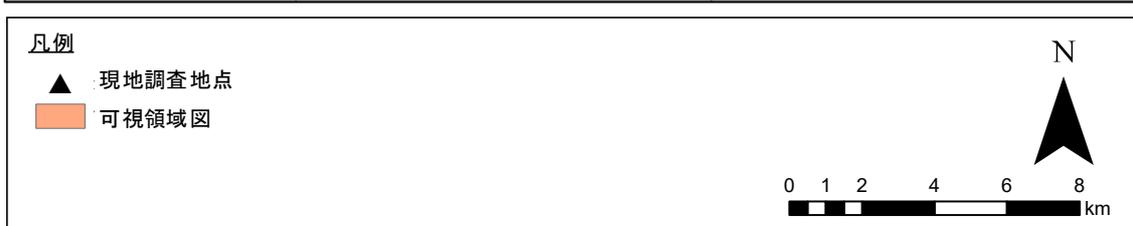
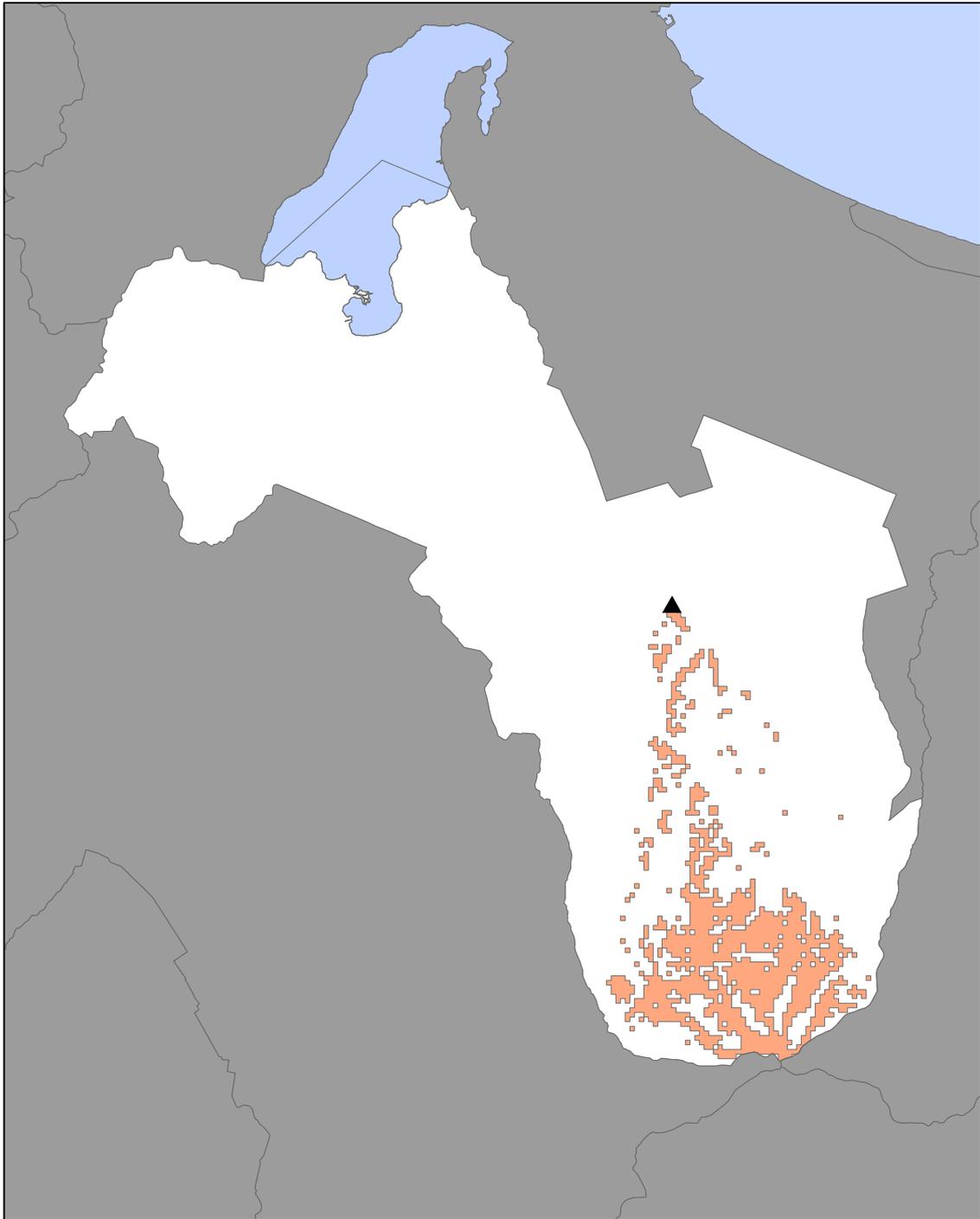
出典：国土地理院「数値標高モデル 10m メッシュ」を基に作成

図 5-20 可視領域図（地点 9：乳酪館 1）



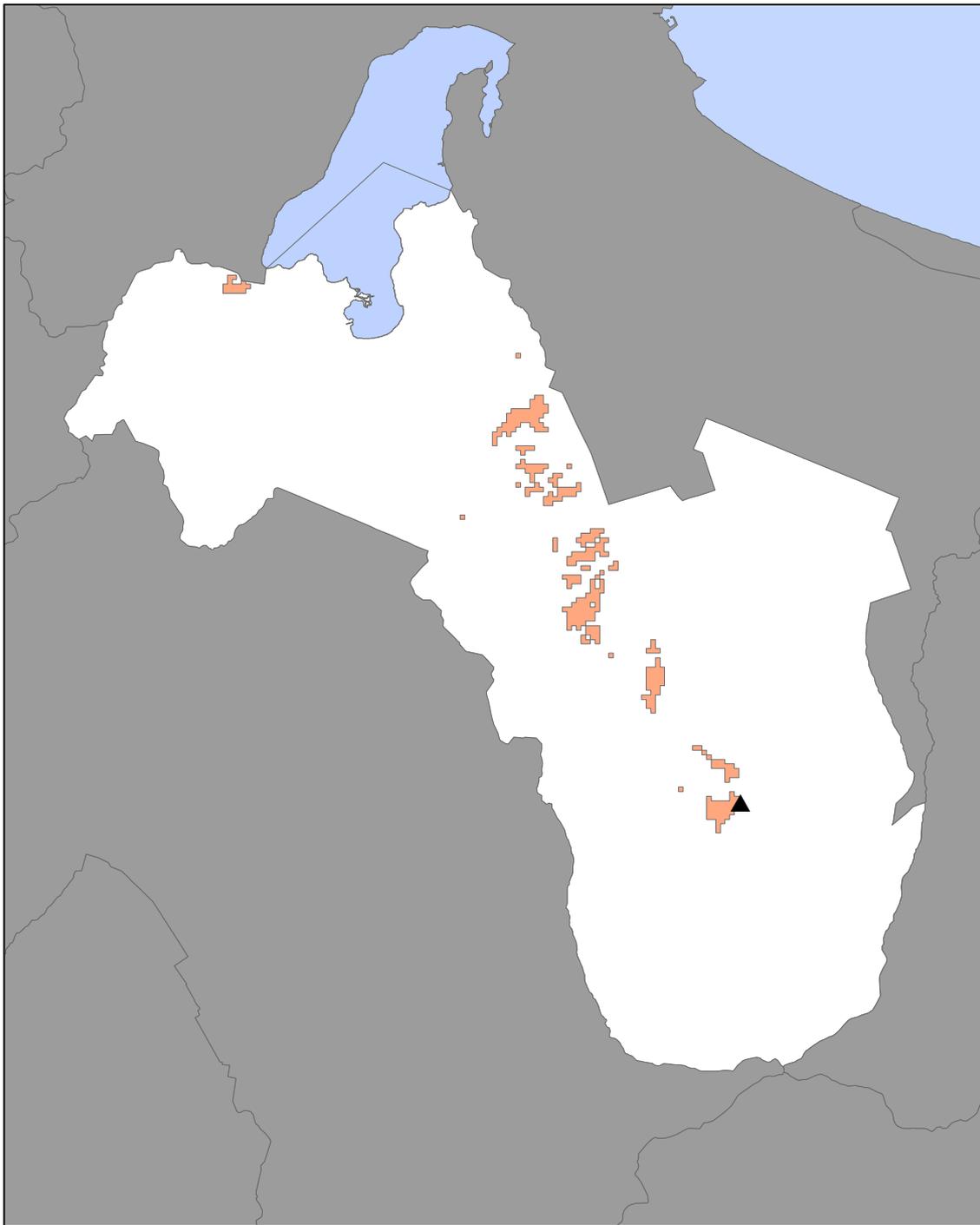
出典：国土地理院「数値標高モデル10mメッシュ」を基に作成

図 5-21 可視領域図（地点10：乳酪館2）



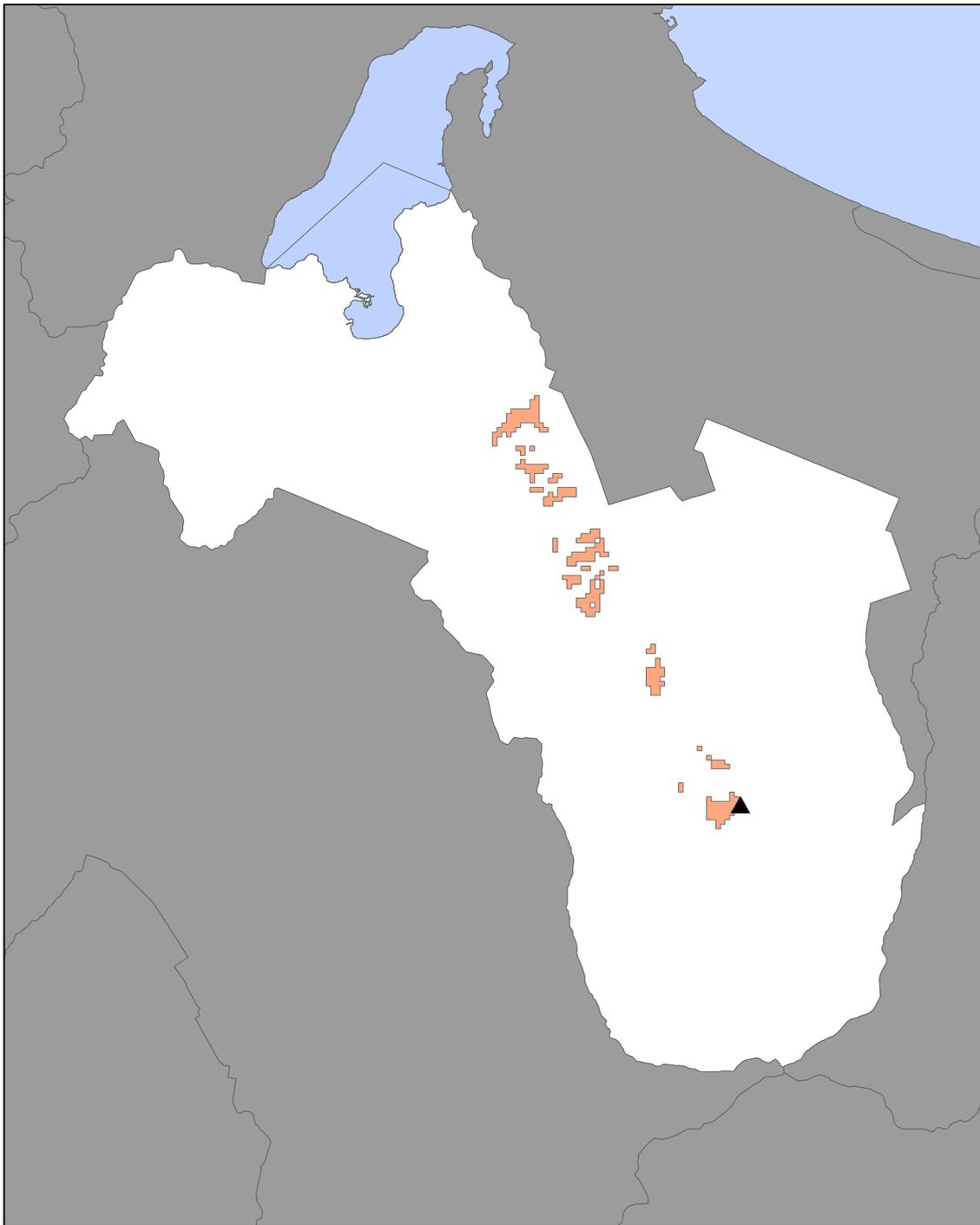
出典：国土地理院「数値標高モデル10mメッシュ」を基に作成

図 5-22 可視領域図（地点11：乳酪館3）



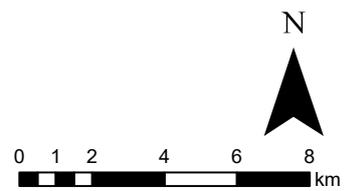
出典：国土地理院「数値標高モデル 10m メッシュ」を基に作成

図 5-23 可視領域図（地点12：芝桜公園1）



凡例

- ▲ 現地調査地点
- 可視領域図



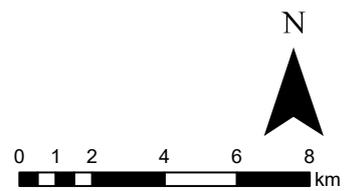
出典：国土地理院「数値標高モデル 10m メッシュ」を基に作成

図 5-24 可視領域図 (地点13：芝桜公園 2)



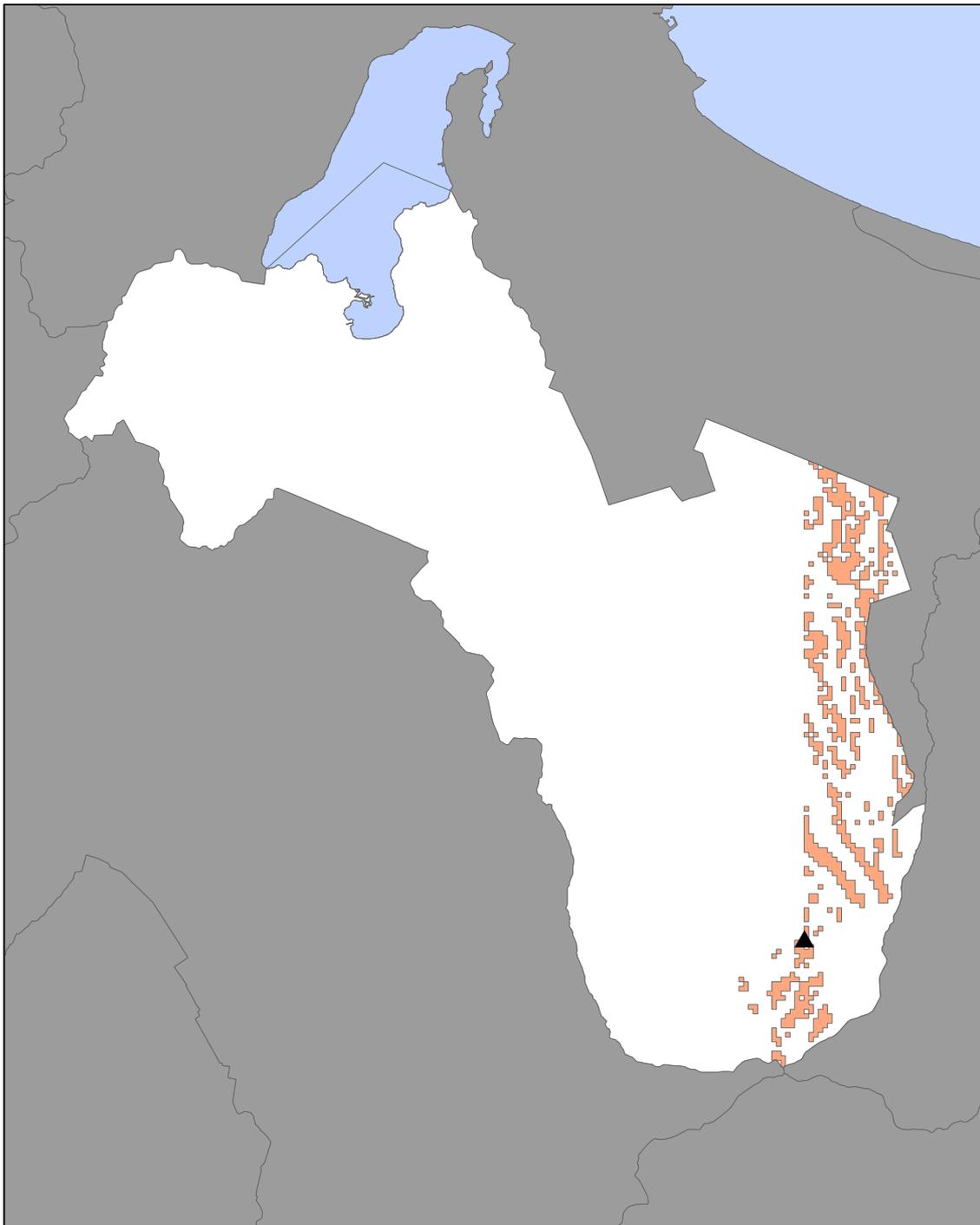
凡例

- ▲ 現地調査地点
- 可視領域図



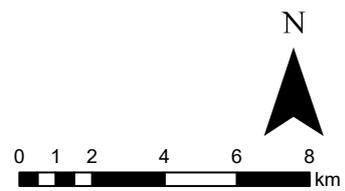
出典：国土地理院「数値標高モデル 10m メッシュ」を基に作成

図 5-25 可視領域図（地点14：芝桜公園対面道路）



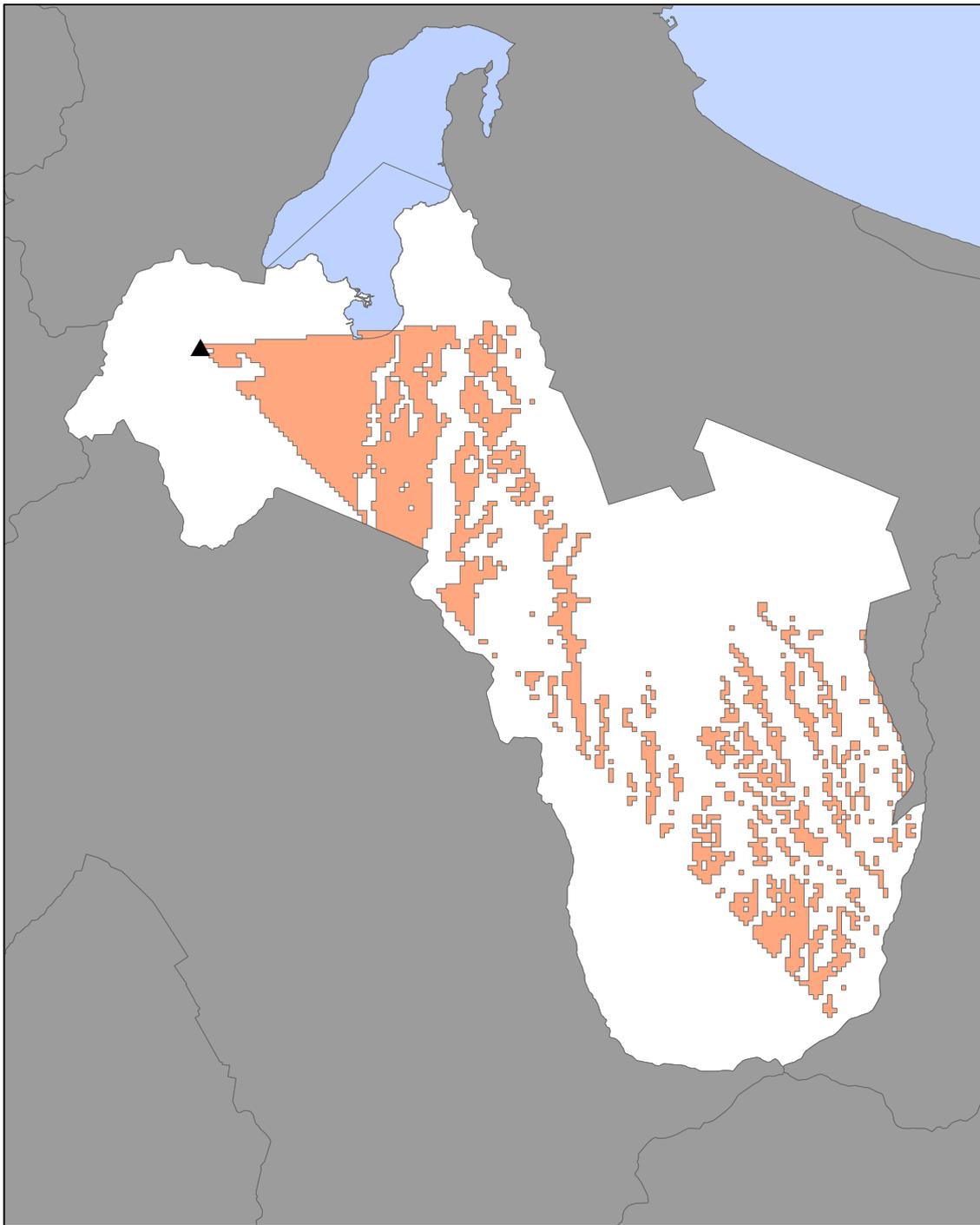
凡例

- ▲ 現地調査地点
- 可視領域図



出典：国土地理院「数値標高モデル 10m メッシュ」を基に作成

図 5-26 可視領域図（地点15：藻琴山登山口）



出典：国土地理院「数値標高モデル 10m メッシュ」を基に作成

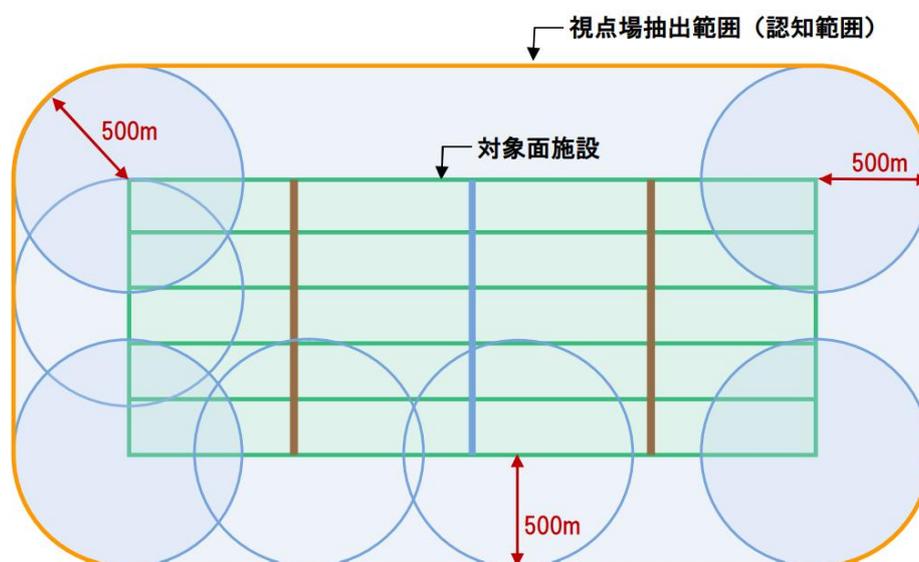
図 5-27 可視領域図（地点16：住吉台地）

## 5.2.5 景観レイヤーの作成

### (1) ゾーニング対象距離の設定

前節で作成した可視領域図をもとに、現地調査地点から何 m 圏内をゾーニング対象とするか（ゾーニング対象距離）を設定した。

陸上風力発電に関しては p. 5-5 の整理より 2,000m をゾーニング対象距離とした。また、太陽光発電についての景観配慮に関する文献として、環境省「太陽光発電の環境配慮ガイドライン」、環境省「国立・国定公園内における太陽光発電施設の審査に関する技術ガイドライン」、北海道「北海道太陽電池・風力発電設備景観形成ガイドライン」等が挙げられるが、ゾーニング対象距離の参考となるような定量的な基準等は示されていない。したがって、太陽光発電に関しては、農林水産省「農村における景観配慮の技術マニュアル」において面施設の認知限界距離とされている 500m をゾーニング対象距離とした（図 5-28）。



出典：農林水産省「農村における景観配慮の技術マニュアル」

図 5-28 面施設における視点場抽出範囲

### (2) 景観レイヤーの作成

太陽光発電、陸上風力発電別の景観レイヤーを図 5-29、図 5-30 に示す。

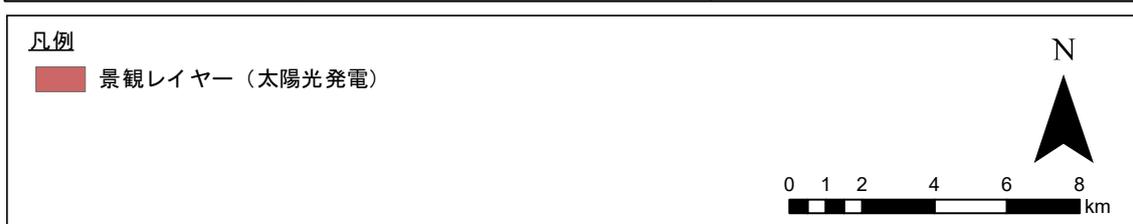
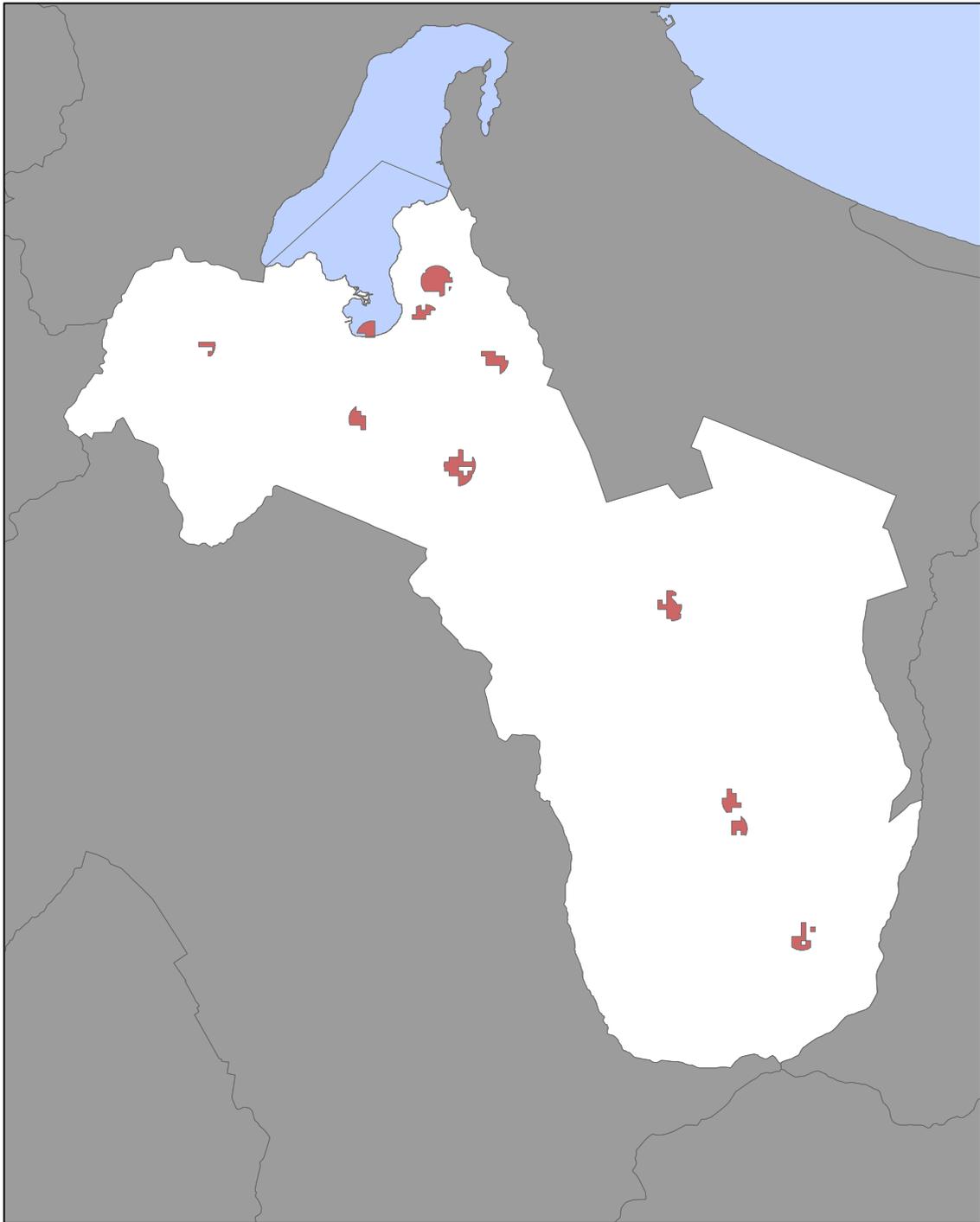


図 5-29 景観レイヤー（太陽光発電）

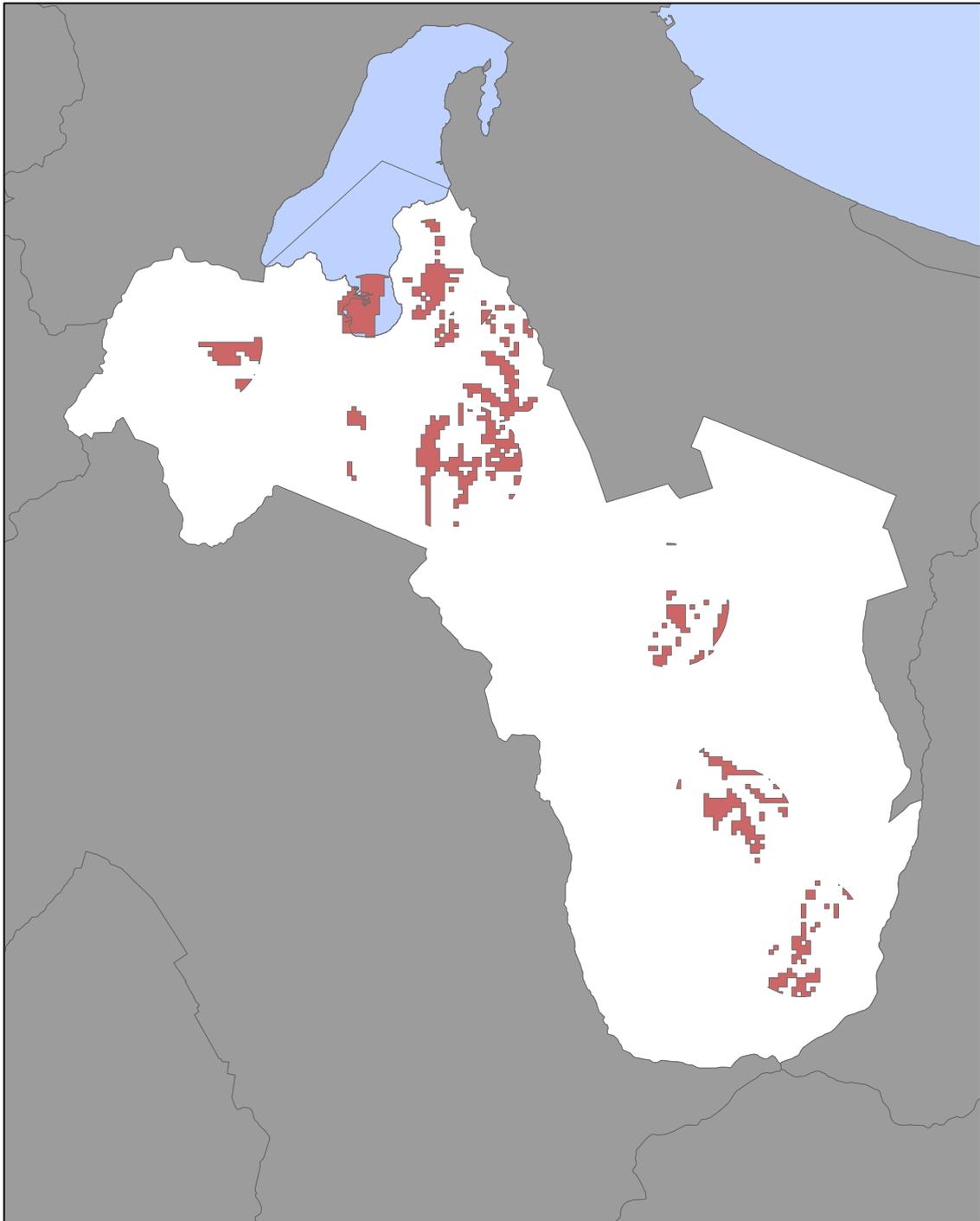


図 5-30 景観レイヤー（陸上風力発電）

### 5.3 動植物調査

#### 5.3.1 動物の生息の状況

動物の生息状況は、当該地域の自然特性を勘案し、大空町及びその周囲を対象に、文献により整理した。

大空町及びその周囲における確認種を抽出した文献と、各文献における調査対象及び調査範囲は、表 5-19 及び図 5-31 に示すとおりである。

表 5-19 文献名及び各文献における調査対象・調査範囲

文献番号	文献名	分類群							調査対象・調査範囲
		哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	昆虫類	底生動物	
1	北海道「北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック2001」	○	○	○	○	○	○		大空町が分布域として記載されている種を対象とした。なお、詳細な分布域の記載がない種も対象とした。
2	環境省「生物多様性情報システム 基礎調査データベース検索（第2～6回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書）（2025年閲覧）」	○	○	○	○	○	○		大空町が含まれるメッシュ内で確認された種を対象とした。
3	環境省「生物多様性情報センター ガンカモ類の生息調査 平成27～令和6年度調査（2025年閲覧）」		○						大空町とその周辺で確認された種を対象とした。
4	環境省「第6回自然環境保全基礎調査 種の多様性調査 鳥類繁殖分布調査報告書」		○						大空町が含まれるメッシュ内で確認された種を対象とした。
5	環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」		○						大空町が含まれるメッシュで確認された種を対象とした。
6	環境省「希少猛禽類調査（イヌワシ・クマタカ）の結果について」		○						大空町が含まれるメッシュ内で確認された種を対象とした。
7	環境省「風力発電立地検討のためのセンシティブティマップ（2025年閲覧）」		○						大空町が含まれるメッシュで確認された種を対象とした。
8	環境省「環境アセスメントデータベース（2025年閲覧）」	○	○						大空町が含まれるメッシュで確認された種を対象とした。
9	環境省「平成25年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」		○						北海道におけるハクチョウ類及びガンカモ類の渡りのルートを対象とした。

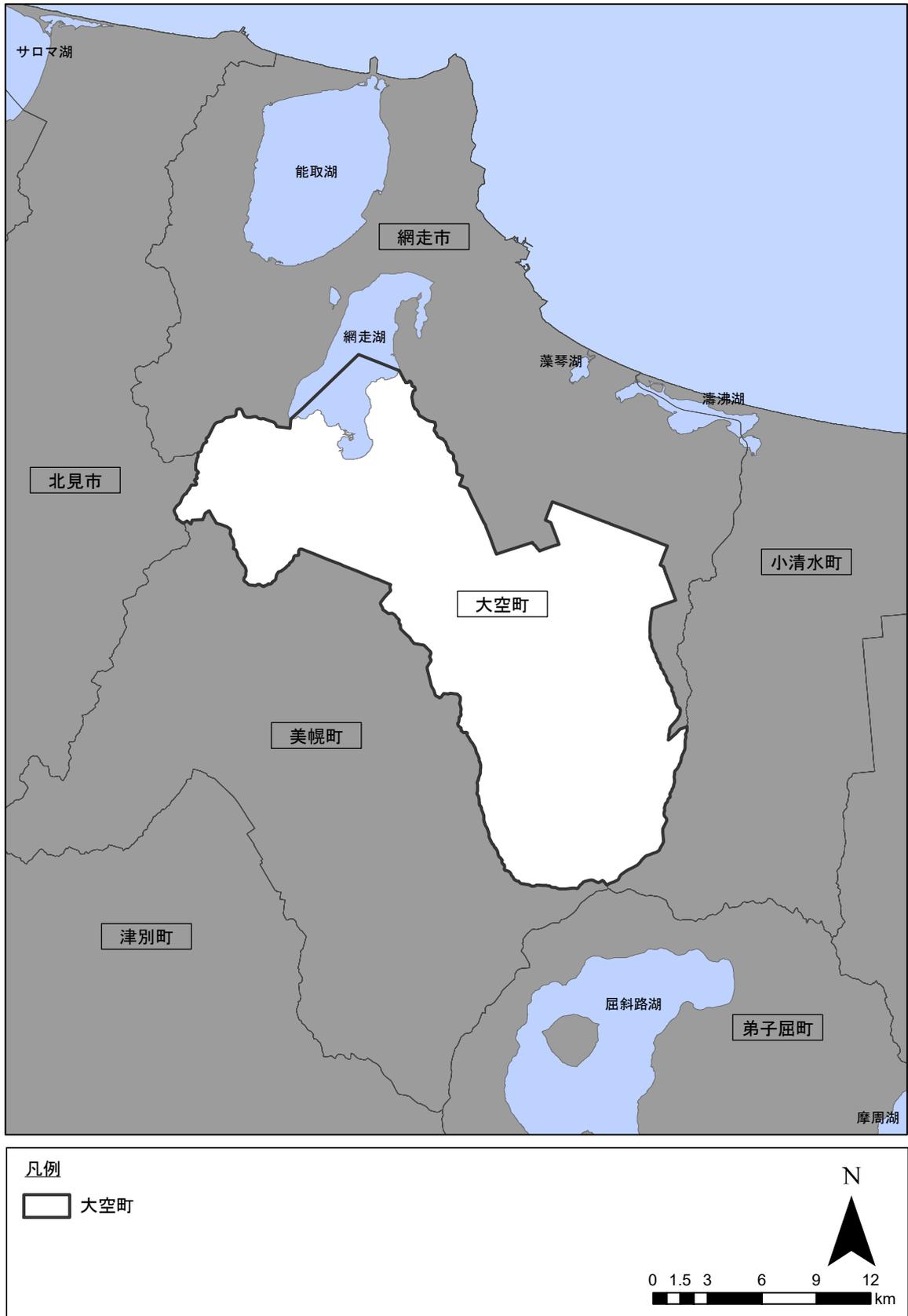


图 5-31 調査対象範囲

### (1) 動物相の概要

表 5-19 に示した文献によると、大空町及びその周囲における動物相の概要は、表 5-20 に示すとおりである。

哺乳類は6目10科24種、鳥類は13目40科98種、爬虫類は1目3科4種、魚類は8目13科32種、昆虫類は14目111科491種が確認されている。

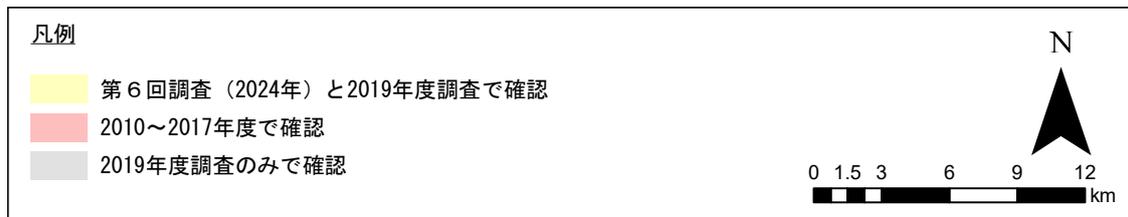
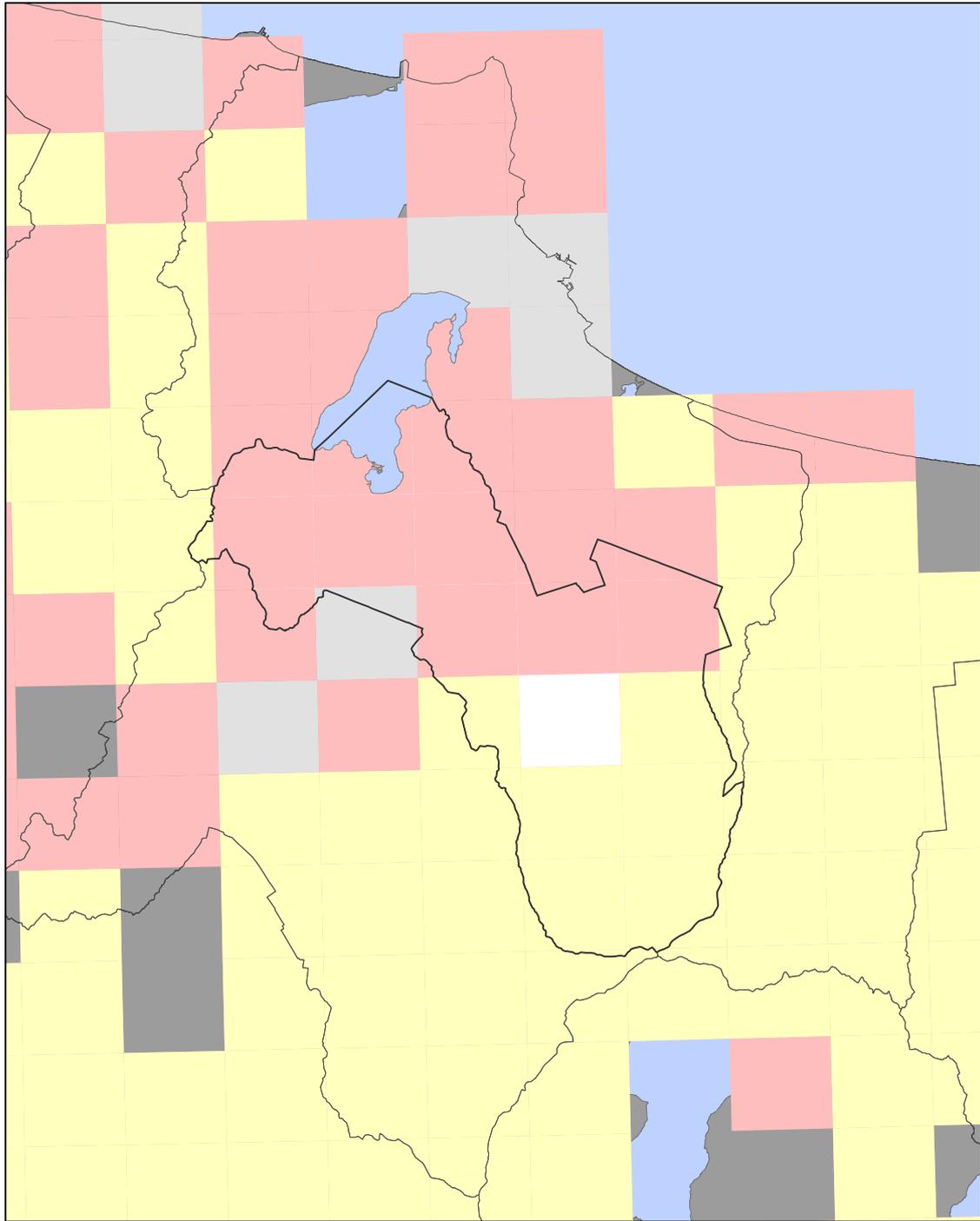
表 5-20 文献による主な動物相の概要

分類群	確認種数	主な確認種
哺乳類	6目10科24種	ジネズミ、モモジロコウモリ、オヒキコウモリ、ユキウサギ、キタリス、ムクゲネズミ、ヒグマ、キツネ、クロテン等
鳥類	13目40科98種	シジュウカラガン、エゾライチョウ、ハリオアマツバメ、カッコウ、キジバト、タンチョウ、カイツブリ、コチドリ、アオサギ、オオワシ、カワセミ、アカゲラ、モズ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ等
爬虫類	1目3科4種	ニホンカナヘビ、シマヘビ、ジムグリ、ニホンマムシ
両生類	0目0科0種	(大空町内に生息情報が確認できなかった。)
魚類	8目13科32種	カワヤツメ、ギンブナ、ドジョウ、ワカサギ、イトヨ、メナダ、ハナカジカ、ルリヨシノボリ、ヌマガレイ等
昆虫類	14目111科491種	ホソミオツネントンボ、ツヅレサセコオロギ、ヤスマツトビナナフシ、コエゾゼミ、オオウスバカゲロウ、ヒメアミメトビケラ、ルリシジミ、クロマルハナバエ、ゲンゴロウ、チャイロスズメバチ等

a) 中大型哺乳類

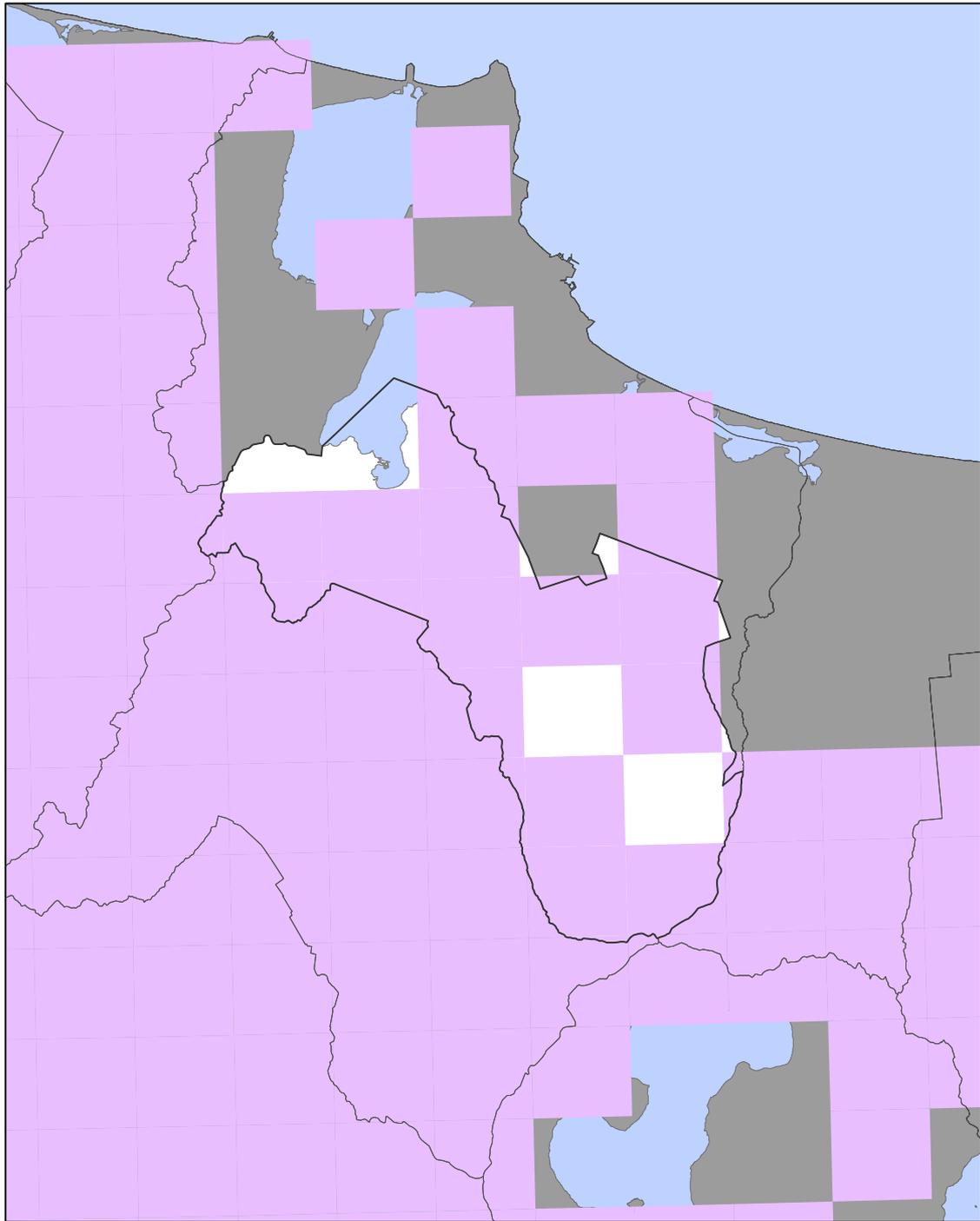
環境省「生物多様性情報システム 基礎調査データベース検索（第2～6回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書）」では、動植物の生息情報を一般公開している。このうち、大空町及びその周囲において、中大型哺乳類の生息情報が確認された場所（2次メッシュ）は図 5-32～図 5-34 に示すとおりである。

大空町及びその周囲には、ヒグマ、タヌキ、キツネの他、アライグマの生息情報がある。



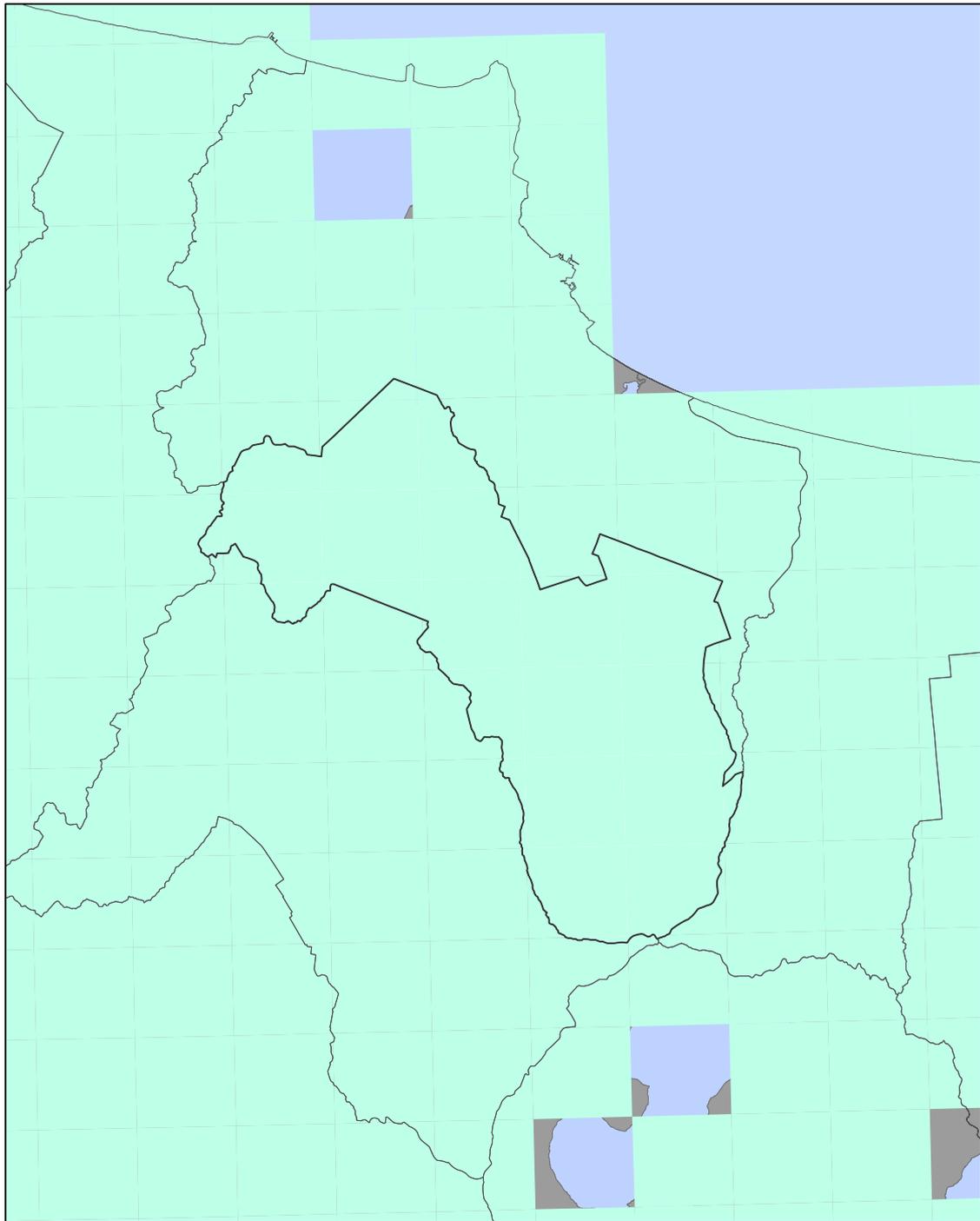
出典：環境省「生物多様性情報システム（第2～6回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書）（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-32 ヒグマが確認された場所（2次メッシュ）



出典：環境省「生物多様性情報システム（第2～6回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書）（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-33 タヌキが確認された場所（2次メッシュ）



出典：環境省「生物多様性情報システム（第2～6回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書）（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-34 キツネが確認された場所（2次メッシュ）

## (2) 高高度を飛翔する動物相の生息情報

風力発電機の設置において影響を受けると懸念されるコウモリ類及び鳥類について、生息情報が確認された場所や移動経路等について整理した。

### a) コウモリ類

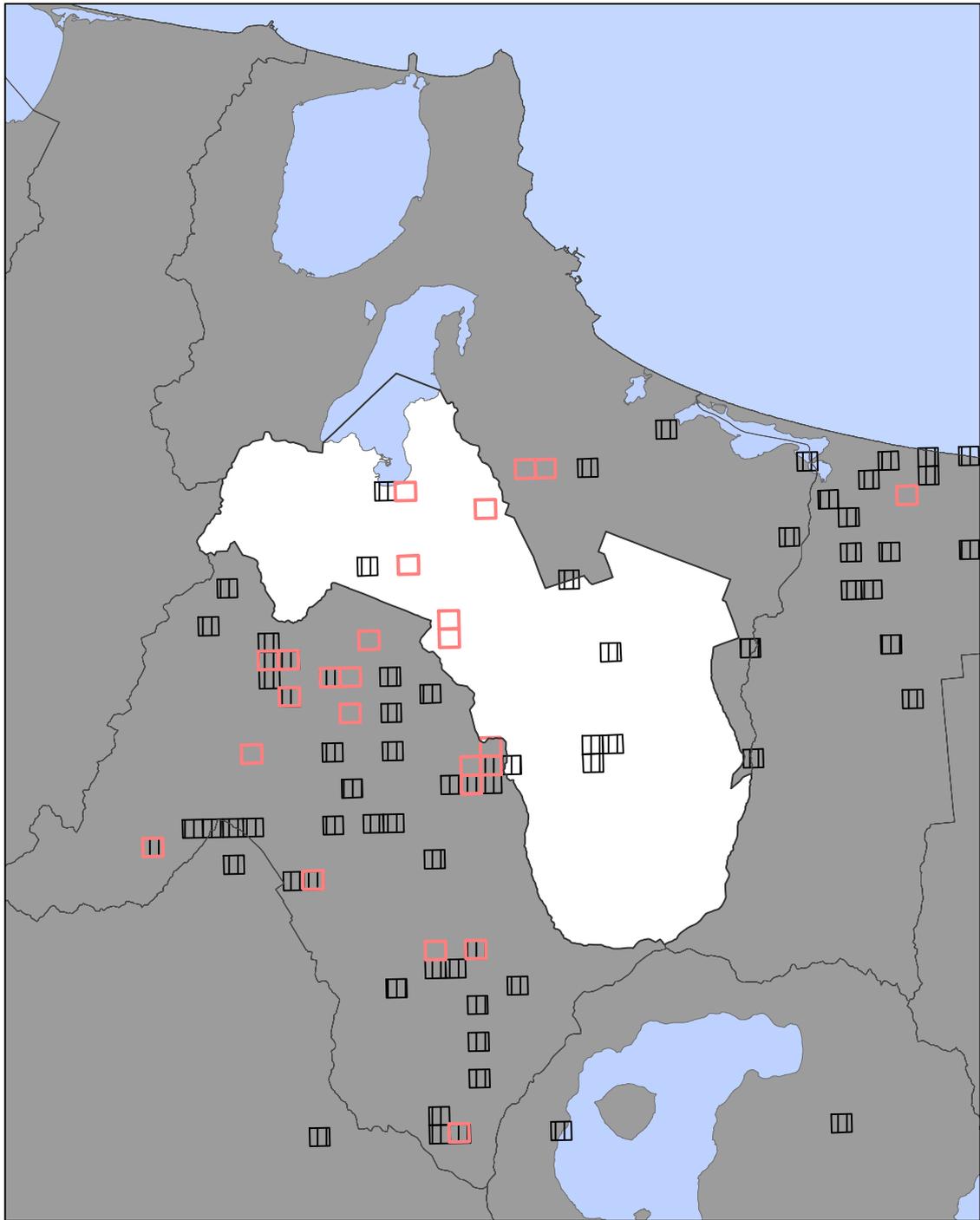
環境省「環境アセスメントデータベース」では、動植物の生息情報を一般公開している。

このうち大空町及びその周囲には、表 5-21 に示す 12 種の生息情報があり、このうち大空町内では、コテングコウモリ、チチブコウモリ、ドーベントンコウモリ、ニホンウサギコウモリ、ヒメヒナコウモリ、モモジロコウモリの生息情報がある。

大空町内においてコウモリ類の生息情報が確認された場所（3次メッシュ）は、図 5-35～図 5-41 に示すとおりである。

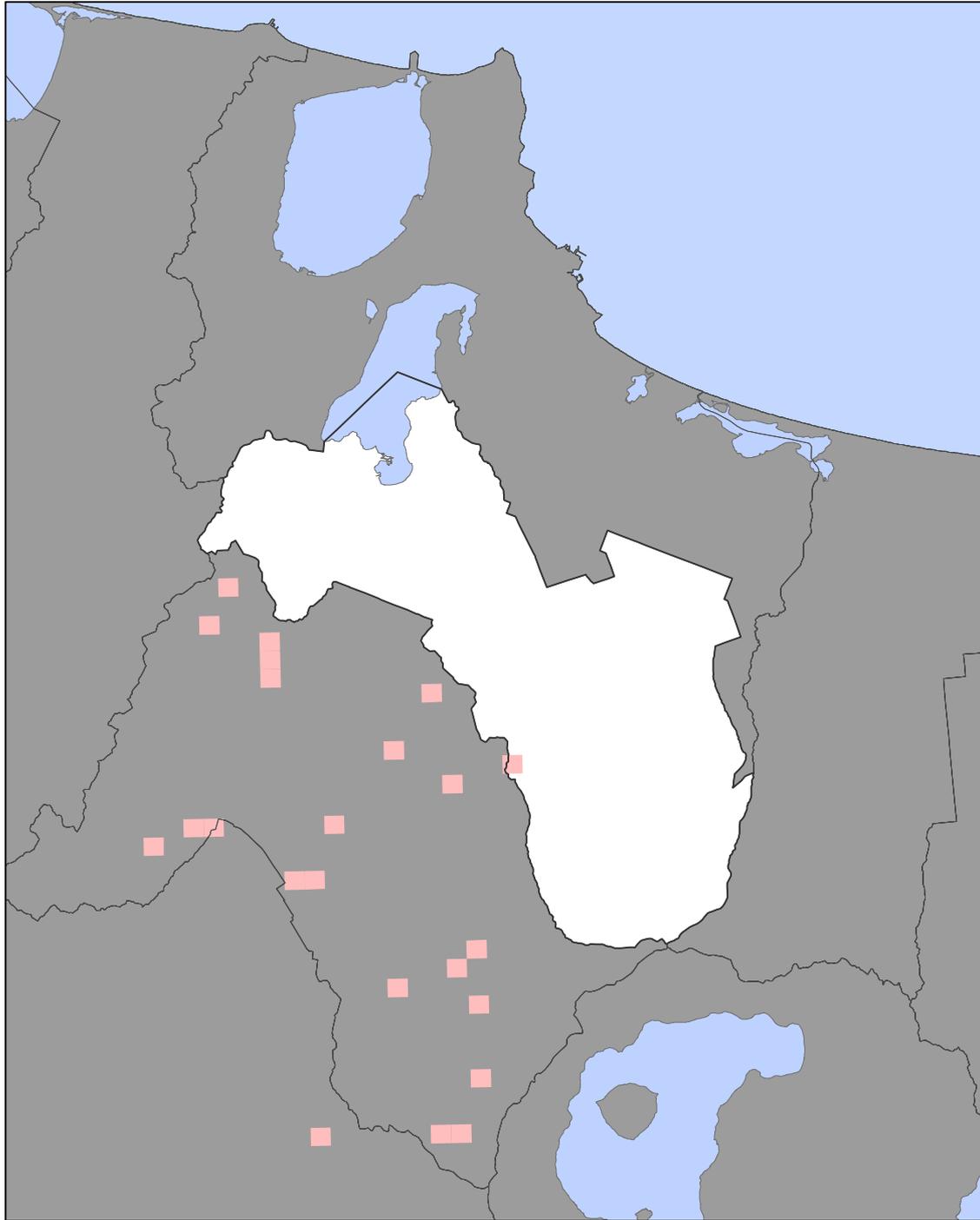
表 5-21 大空町及びその周囲で生息情報が確認されたコウモリ類

種名	大空町内での確認	大空町外での確認
ウスリホオヒゲコウモリ		○
カグヤコウモリ		○
キタクビワコウモリ		○
コテングコウモリ	○	○
チチブコウモリ	○	○
テングコウモリ		○
ドーベントンコウモリ	○	○
ニホンウサギコウモリ	○	○
ノレンコウモリ		○
ヒメヒナコウモリ	○	
ヒメホオヒゲコウモリ		○
モモジロコウモリ	○	○



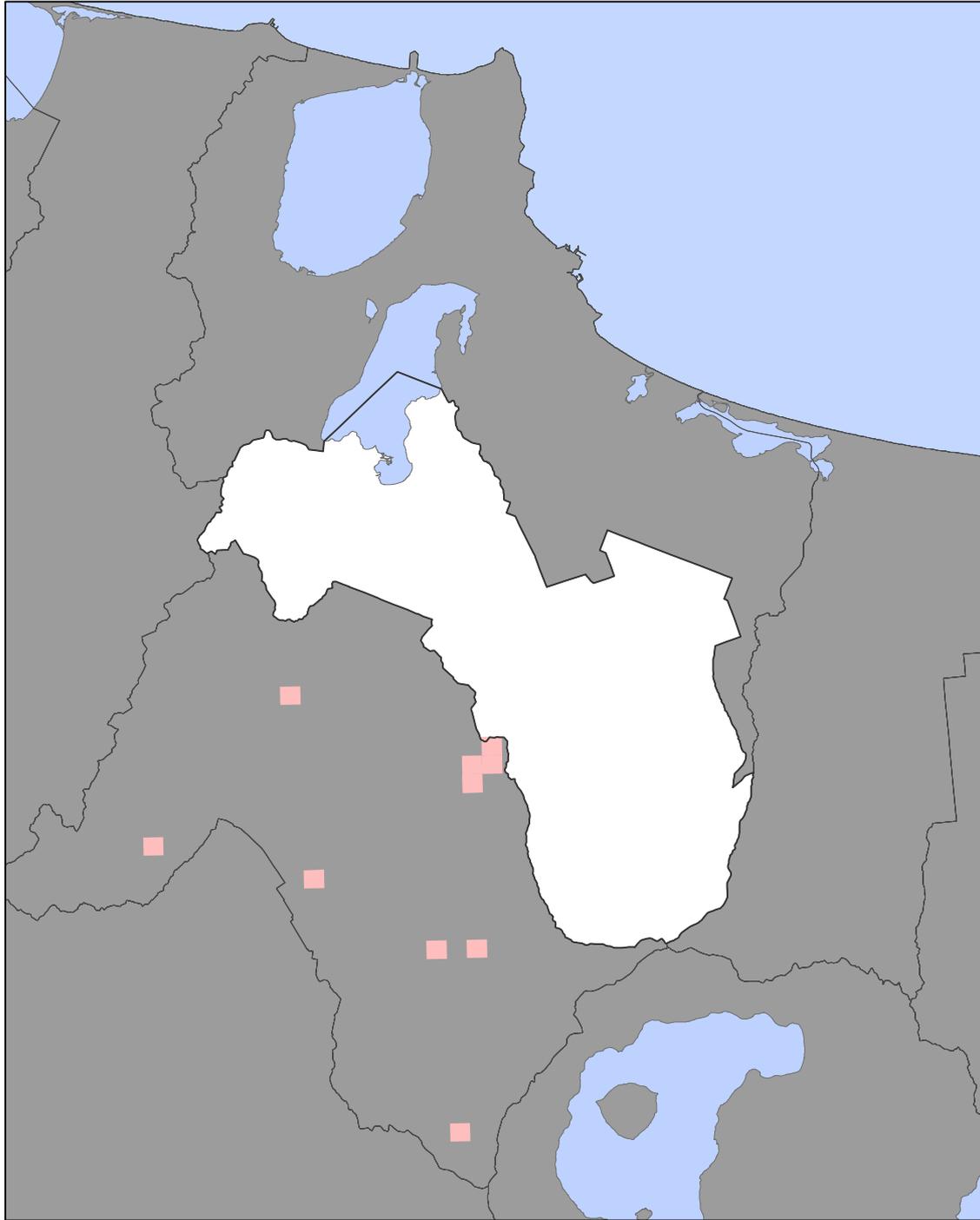
出典：環境省「環境アセスメントデータベース コウモリ生息状況（2025年閲覧）」を基に作成  
 ※) ハイリスク種とは、風力発電施設によるバットストライクを受けやすい種を指す

図 5-35 コウモリ類が確認された場所（3次メッシュ）



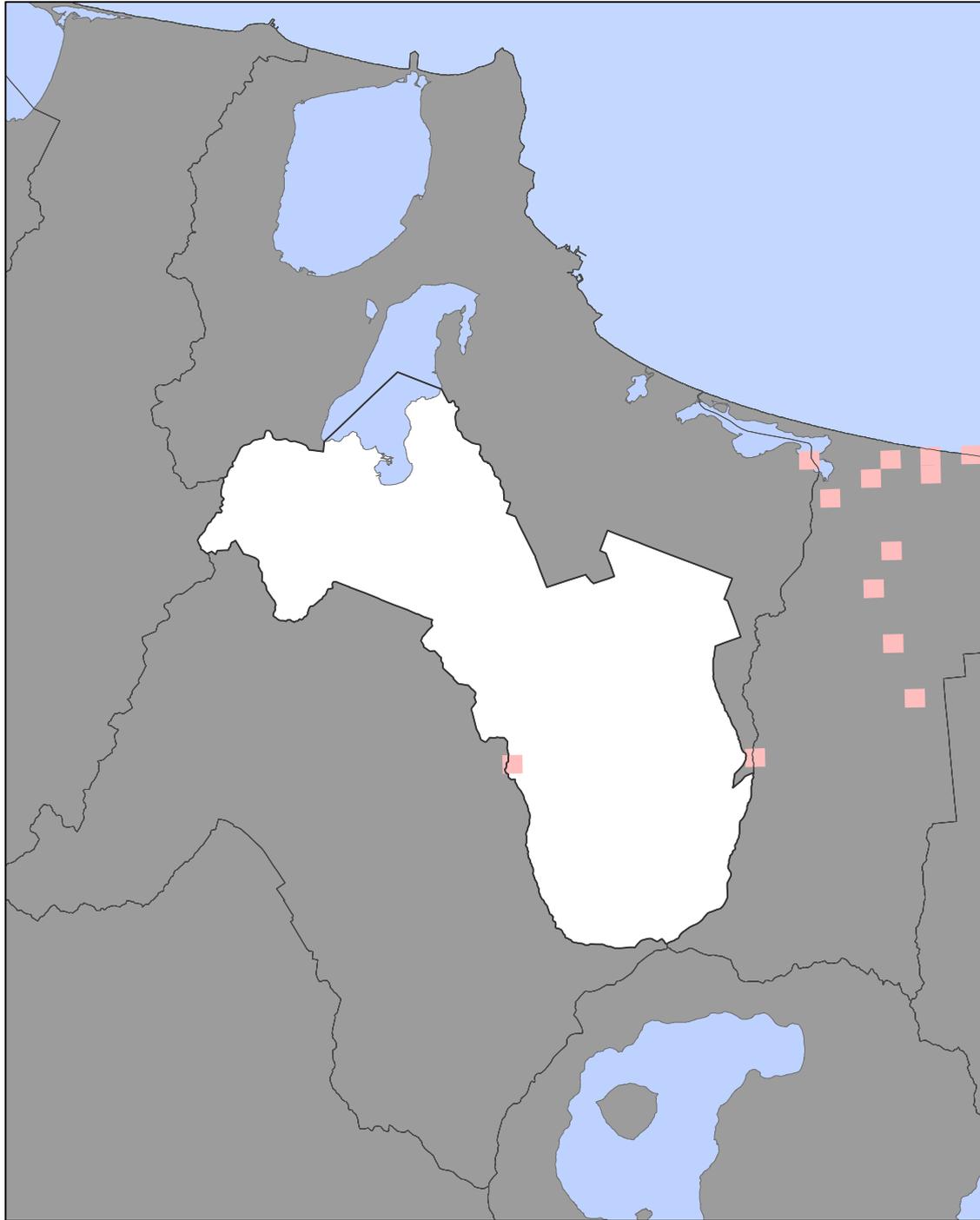
出典：環境省「環境アセスメントデータベース コウモリ生息状況（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-36 コテングコウモリ確認された場所（3次メッシュ）



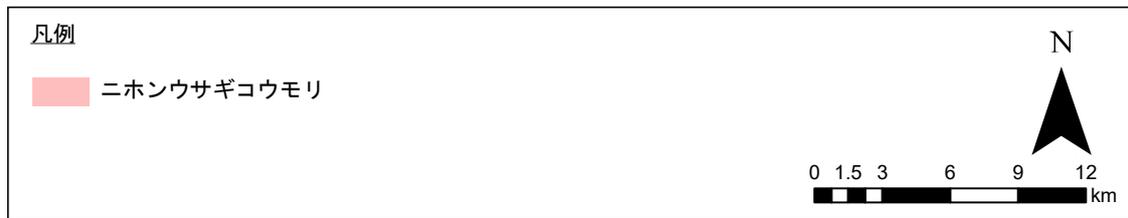
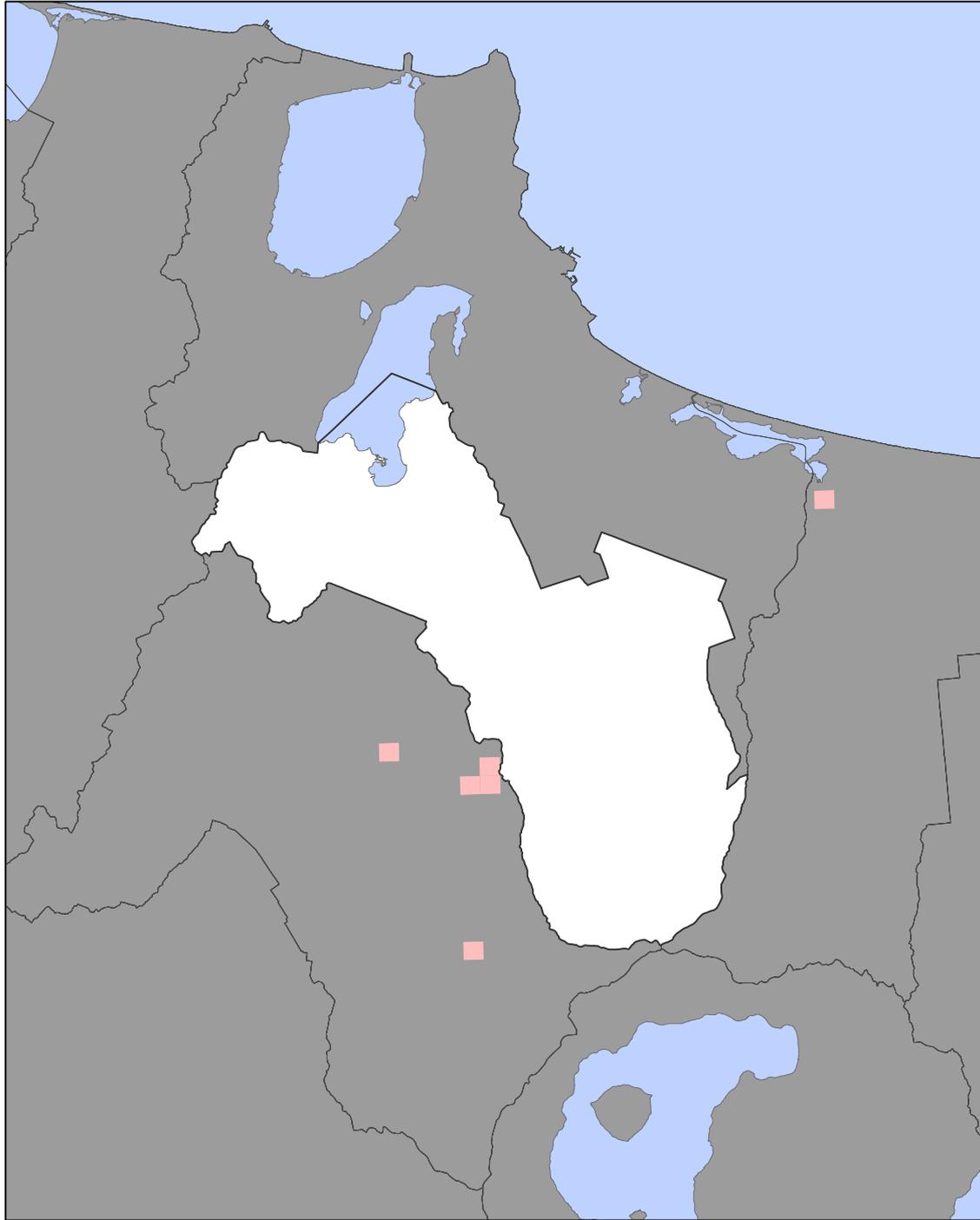
出典：環境省「環境アセスメントデータベース コウモリ生息状況（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-37 チチブコウモリが確認された場所（3次メッシュ）



出典：環境省「環境アセスメントデータベース コウモリ生息状況（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-38 ドーベントンコウモリが確認された場所（3次メッシュ）



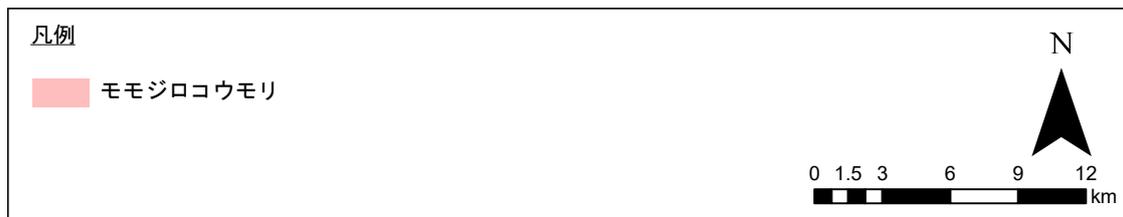
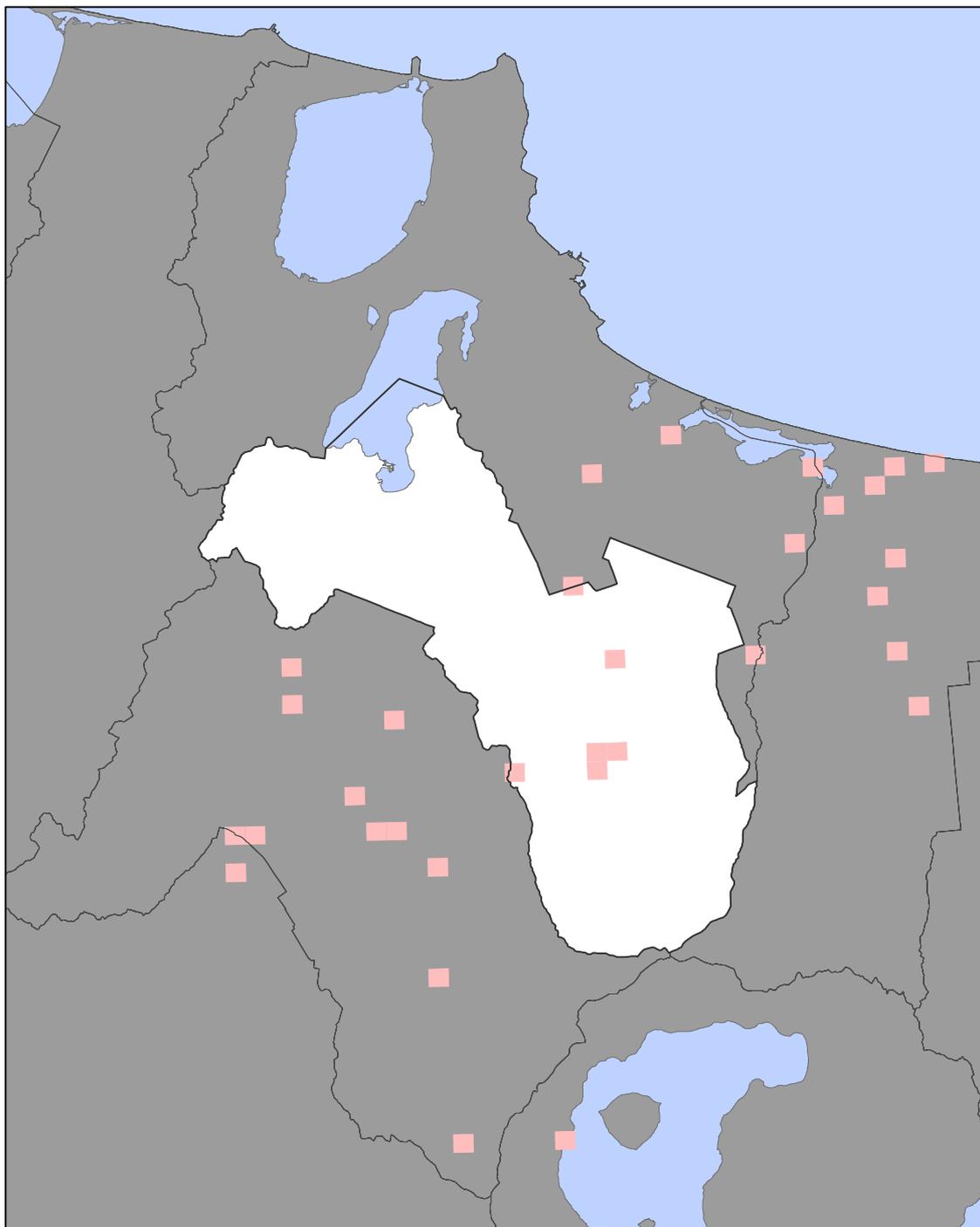
出典：環境省「環境アセスメントデータベース コウモリ生息状況（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-39 ニホンウサギコウモリが確認された場所（3次メッシュ）



出典：環境省「環境アセスメントデータベース コウモリ生息状況（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-40 ヒメヒナコウモリが確認された場所（3次メッシュ）



出典：環境省「環境アセスメントデータベース コウモリ生息状況（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-41 モモジロコウモリが確認された場所（3次メッシュ）

a) 鳥類

環境省「生物多様性情報センター ガンカモ類の生息調査」には、ガンカモ類の渡来数が掲載されている。大空町及びその周囲にはガンカモ類の調査地点が9地点存在しており、図 5-42 に示すとおりである。また、平成27年度～令和6年度までの調査結果は、表 5-22～表 5-24 に示すとおりである。

調査結果によると、計16種のガンカモ類が確認されており、このうち、最も確認例が多い種はオオハクチョウであり、次いでホオジロガモが確認されている。また、調査地点別に見ると、網走川はホオジロガモが最も多く、濤沸湖、藻琴湖及び屈斜路湖ではオオハクチョウの確認数が最も多かった。なお、全ての地点でガン類は確認されなかった。

表 5-22 ガンカモ類の渡来状況 (1/3)

調査地点名	調査年度	種名															
		オオハクチョウ	ハクチョウ類種不明	マガモ	ヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	スズガモ	シノリガモ	コオリガモ	ホオジロガモ	ウミアイサ	カワアイサ	ミコアイサ	ツクシガモ
網走川-2	平成28年度			86								54		14	3		
	平成29年度	14										44		1	2		
	令和元年度											32		107			
	令和元年度	15										8		9			
	令和2年度	25		8								38		97			
	令和3年度											130					
	令和4年度																
	令和5年度			2								20					
	令和6年度							30				2					
網走川-3	平成28年度																
	平成29年度	1		1								18					
	令和元年度									1		17					
	令和元年度											6					
	令和2年度			14								13		1			
	令和3年度											8					
	令和4年度																
	令和5年度													16			
	令和6年度	4		2				3				65					
網走川-4	平成28年度											7		32			
	平成29年度	1										21					
	令和元年度	6										36		42			
	令和元年度			3								56		2			
	令和2年度			4								5		5			
	令和3年度	6										70		4	1		
	令和4年度																
	令和5年度											50					
	令和6年度											12					

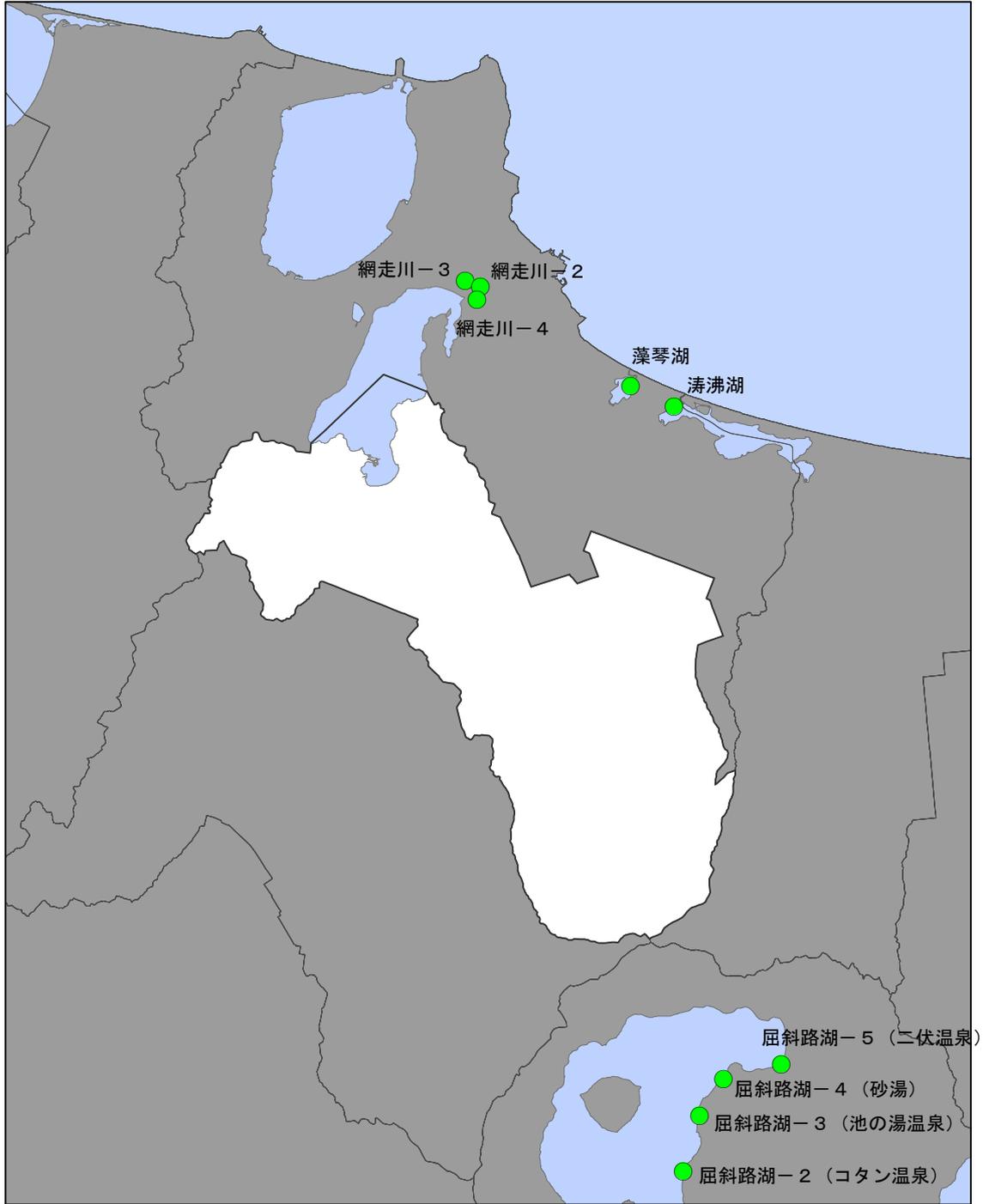
表 5-23 ガンカモ類の渡来状況 (2/3)

調査地点名	調査年度	種名																
		オオハクチョウ	ハクチョウ類種不明	マガモ	ヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	スズガモ	シノリガモ	コオリガモ	ホオジロガモ	ウミアイサ	カワアイサ	ミコアイサ	ツクシガモ	オオホシハジロ
湊沸湖	平成27年度																	
	平成28年度	29						7		4		6		3				
	平成29年度	49		17					3			31		2				
	令和元年度	87		4	7			1	9	2		47	4	10				
	令和元年度	39		29						5		7		49				
	令和2年度	52		3	7				2			6	2	59				
	令和3年度	26		30					3			9		21				
	令和4年度	78		92					7		1	39	1	5				
	令和5年度	36		10								15		5				
令和6年度	35		44			1	4		2				3	1		1	3	
藻琴湖	平成28年度	48							7	3		35						
	平成29年度	11		43						4		30						
	令和元年度	190		2								20						
	令和元年度	101		10								129						
	令和2年度	80										150						
	令和3年度	7	14									30	5					
	令和4年度	50										17						
	令和5年度	6										10						
令和6年度	2								5		25							
屈斜路湖-2 (コタン温泉)	平成27年度	11																
	平成28年度																	
	平成29年度																	
	令和元年度	17																
	令和元年度																	
	令和2年度																	
	令和3年度																	
	令和4年度	3										4						
	令和5年度	11																
令和6年度	63																	
屈斜路湖-3 (池の湯温泉)	平成27年度	130	17															
	平成28年度	108	22	1														
	平成29年度	93	24															
	令和元年度	64	28															
	令和元年度	68	39															
	令和2年度	80	30		10													
	令和3年度	51	26															
	令和4年度	92	8															
	令和5年度	95	13															
令和6年度	98	28									6		7					

表 5-24 ガンカモ類の渡来状況 (3/3)

調査地点名	調査年度	種名																
		オオハクチョウ	ハクチョウ類種不明	マガモ	ヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	スズガモ	シノリガモ	コオリガモ	ホオジロガモ	ウミアイサ	カワアイサ	ミコアイサ	ツクシガモ	オオホシハジロ
屈斜路湖-4 (砂湯)	平成27年度			28								14						
	平成28年度							5										
	平成29年度	16		69														
	令和元年度	27		52								3						
	令和元年度	13												11				
	令和2年度	1																
	令和3年度																	
	令和4年度	0		18														
	令和5年度																	
	令和6年度	2		2									23		47			
屈斜路湖-5 (二伏温泉)	平成27年度	54		214		5												
	平成28年度	50		70														
	平成29年度	35		35														
	令和元年度	32		40														
	令和元年度	33		94														
	令和2年度	46		1														
	令和3年度	22		14								6		1				
	令和4年度	10		34														
	令和5年度	10		24									31					
	令和6年度	51		3					11			7						

出典：環境省「生物多様性情報センター ガンカモ類の生息調査 平成27～令和6年度調査（2025年閲覧）」



出典：環境省「生物多様性情報センター ガンカモ類の生息調査（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-42 ガンカモ類の調査地点

環境省「風力発電立地検討のためのセンシティブティマップ」では、猛禽類の生息状況をメッシュ情報としてとりまとめ、風力発電機の設置において注意を喚起する場所を公開している。

このメッシュ情報による注意喚起レベルは図 5-44 に示すとおりであり、大空町を含むメッシュは、チュウヒ、オジロワシ、クマタカ等の分布及び鳥類の集団飛来地情報により、注意喚起レベル A2～C に該当し、これらは北側に集中している。

根拠となるチュウヒ、オジロワシ、クマタカ等の分布及び鳥類の集団飛来地は図 5-45～図 5-50 に示すとおりであり、いずれも大空町を含むメッシュが該当している。また、環境省「環境アセスメントデータベース」では鳥類の渡りルートが調査結果によりとりまとめられており、その結果は図 5-51 及び図 5-52 に示すとおりである。

鳥類の渡りルートについては、大空町の中央部が、同町の北東部に位置するラムサール条約登録湿地である濤沸湖へ渡来する鳥類の主要な動線となっていると考えられる。

**【注意喚起メッシュとは】**

注意喚起メッシュは、バードストライク等との関連性が高い重要種の分布や、鳥類の集団飛来地を示しており、そのレベルにより 10km メッシュ（標準地域メッシュの 2 次メッシュ）ごとに A、B、C の 3 つのランクで示されているものである（A ランクは A1、A2、A3 に区分される）。

重要種は、バードストライクとの関連性が高い種や生息地の改変に鋭敏な 10 種が選定され、それぞれ程度の高い方から 3、2、1 とランク付けが行われている。また、集団飛来地については、ガン類、ハクチョウ類、カモ類、シギ・チドリ類、カモメ類、ツル類、ウミネコの繁殖地、その他の水鳥類、海ワシ類及びその他の猛禽類が対象とされ、現地調査結果や文献による個体数データについて 10km メッシュごとにランクがつけられている。これら重要種と集団飛来地のランクを合計して、注意喚起レベルが決定されている（下図参照）。

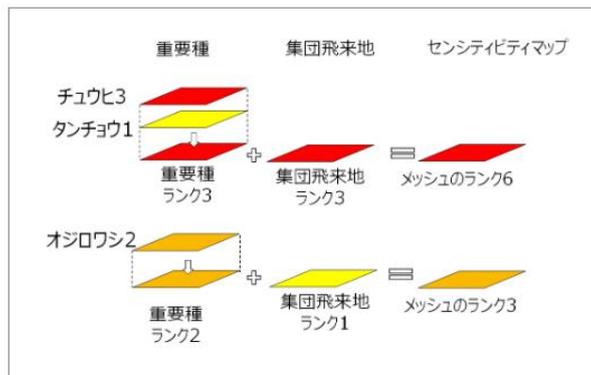
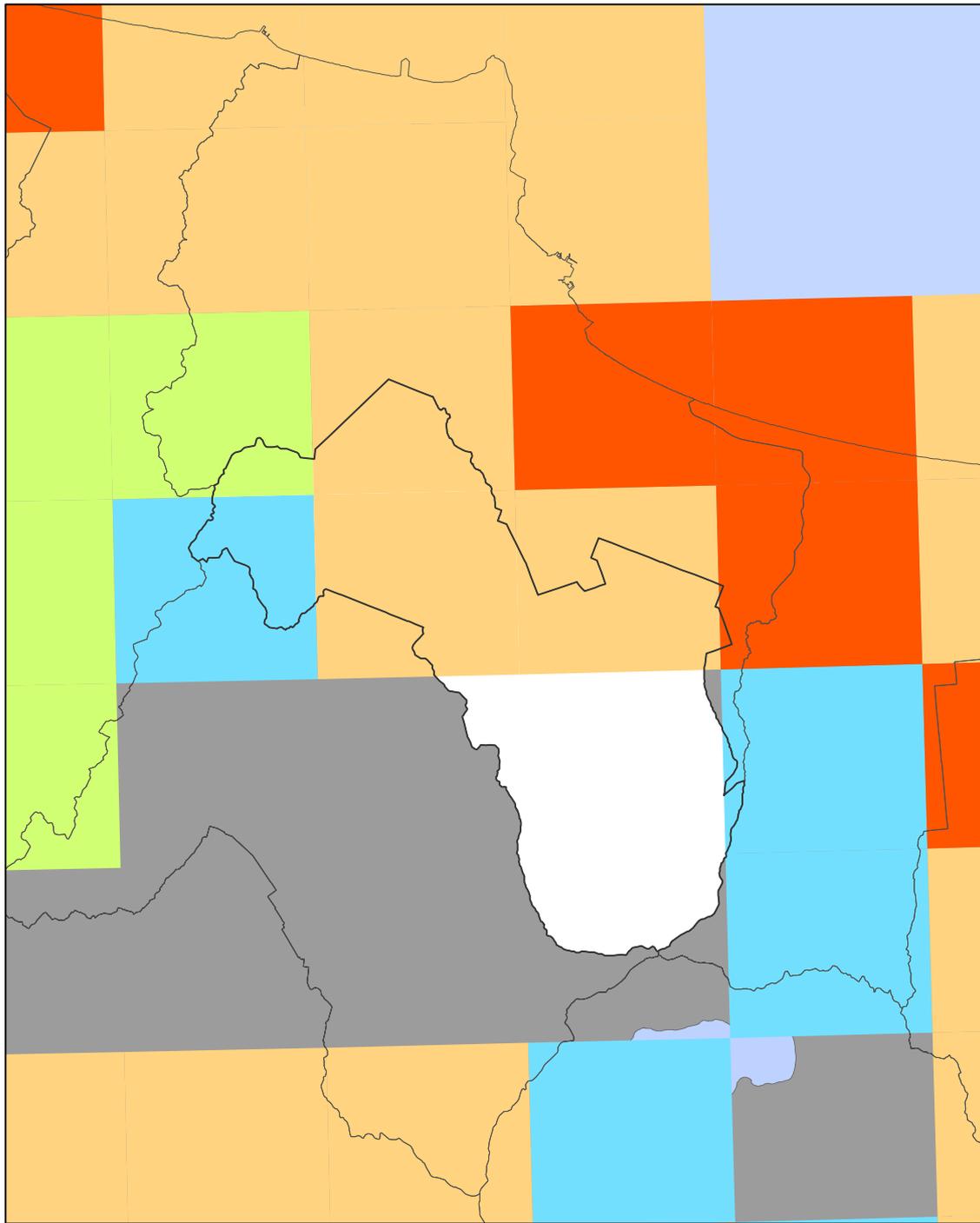
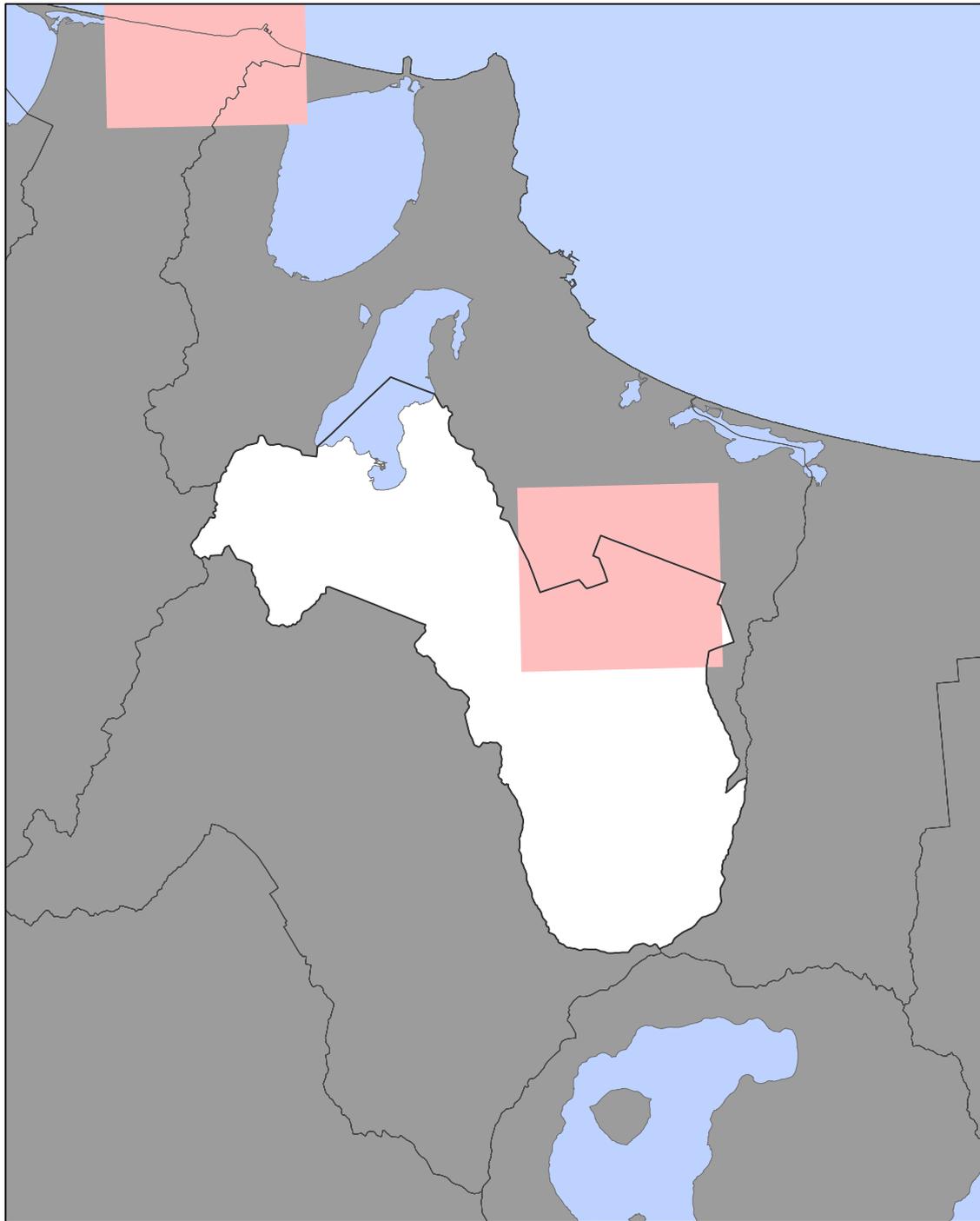


図 5-43 注意喚起レベルの決定方法(重要種と集団飛来地のメッシュの重ね合わせ)



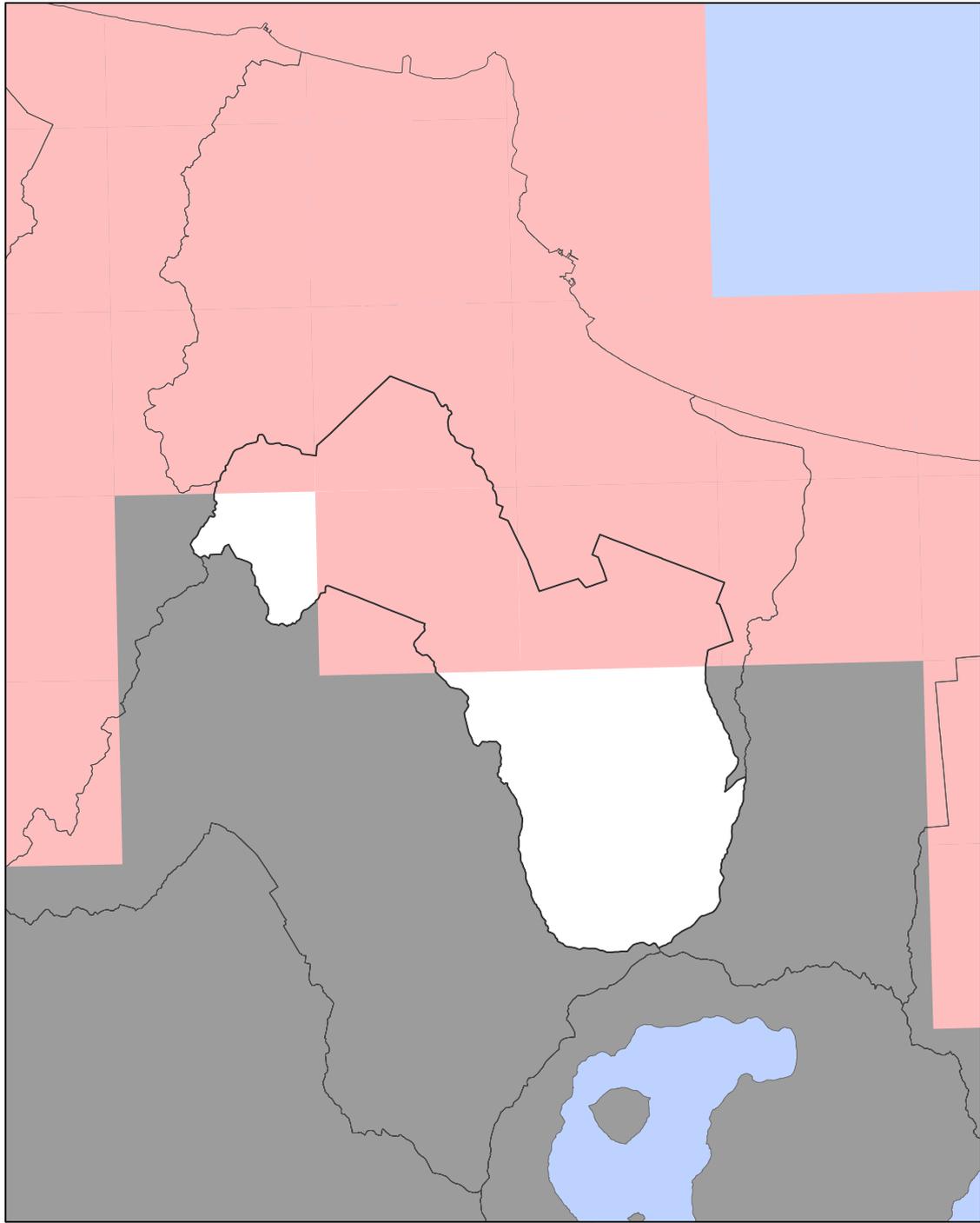
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 注意喚起メッシュ（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-44 センシビリティマップにおける注意喚起メッシュ（陸域）



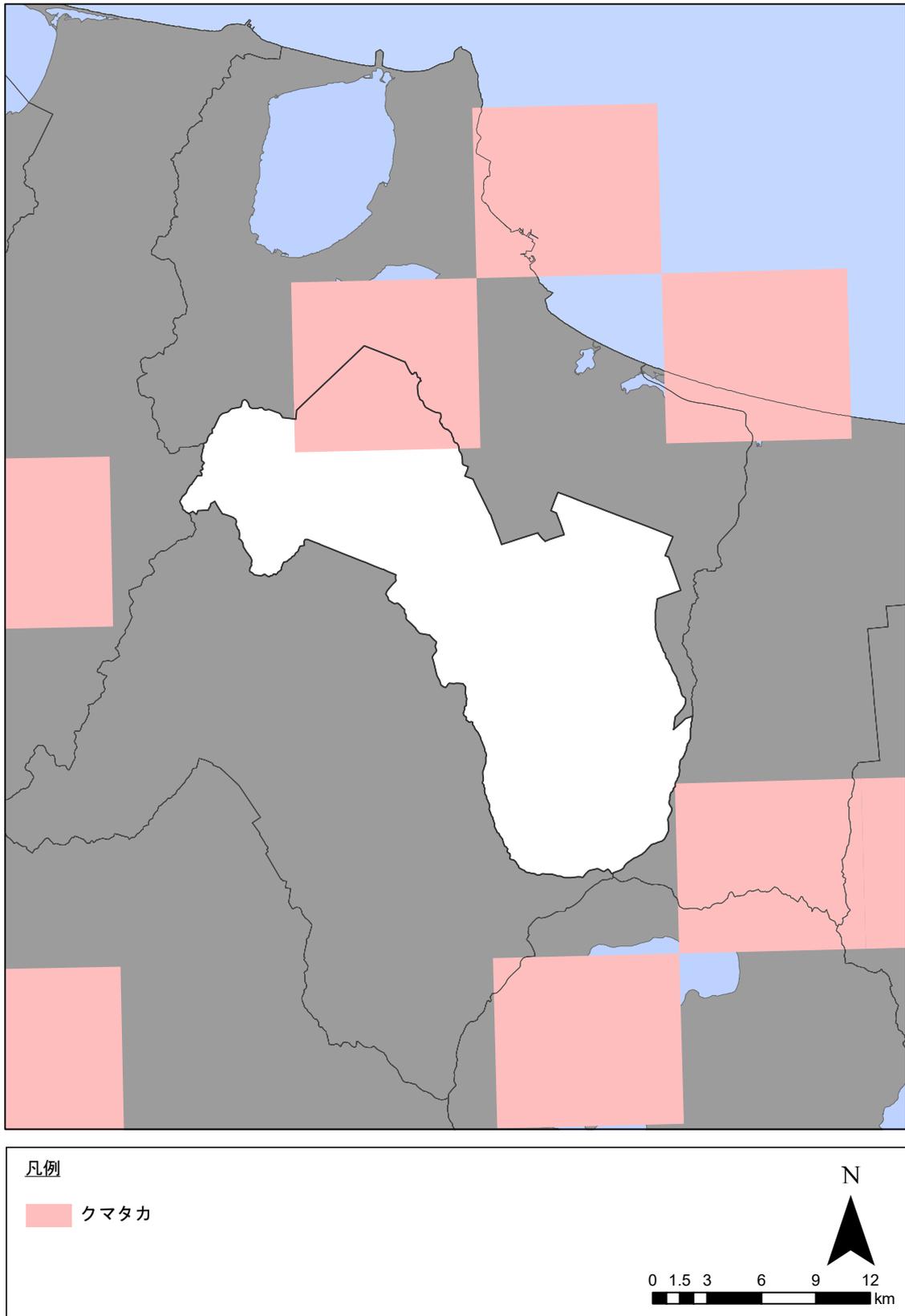
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 注意喚起メッシュ（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-45 センシティブティマップにおけるチュウヒの分布メッシュ



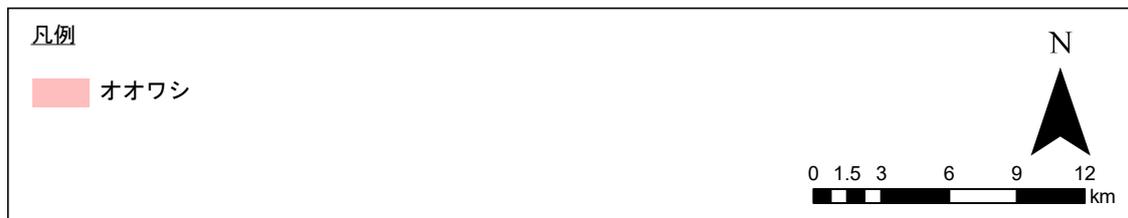
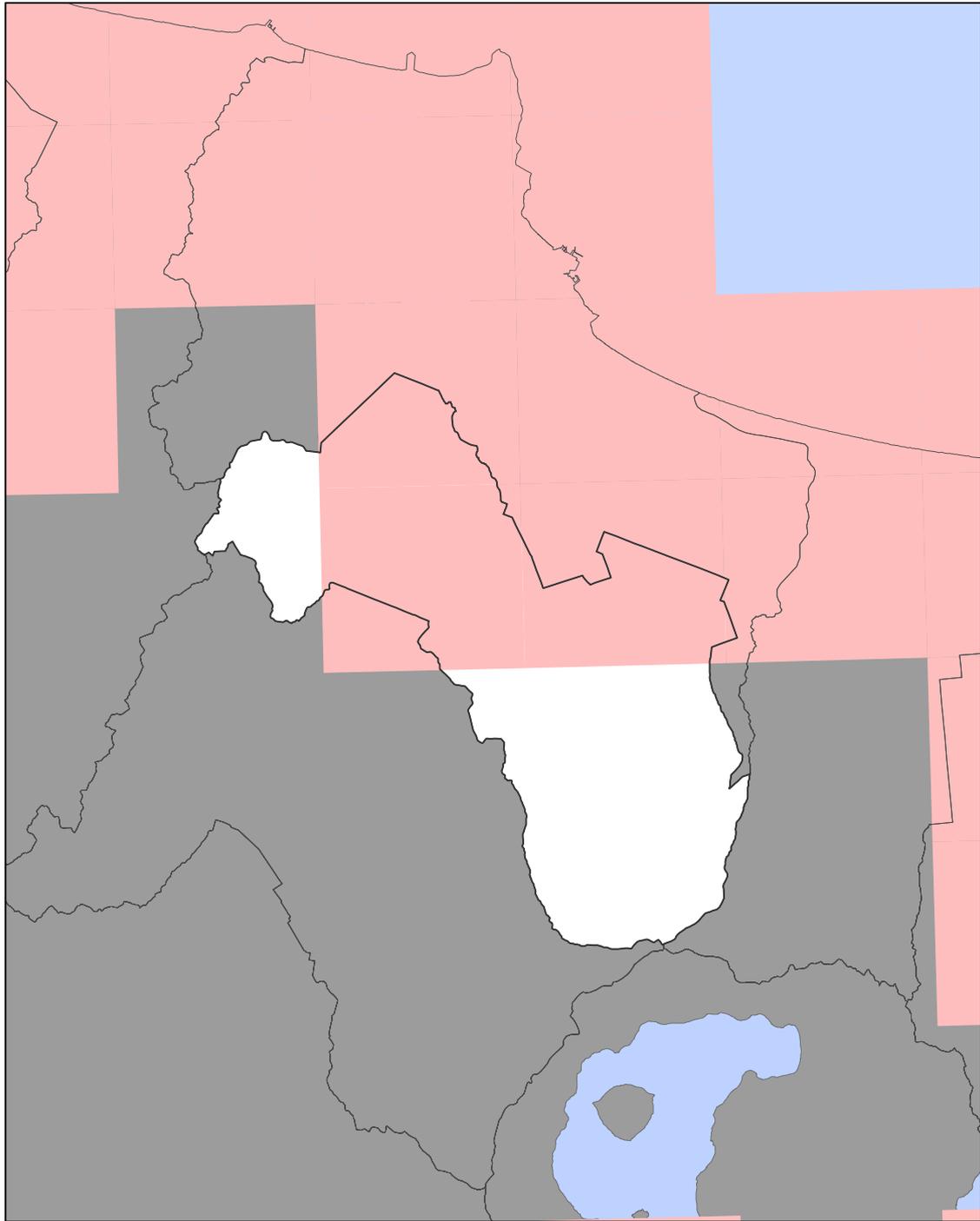
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 注意喚起メッシュ（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-46 センシティブティマップにおけるオジロワシの分布メッシュ



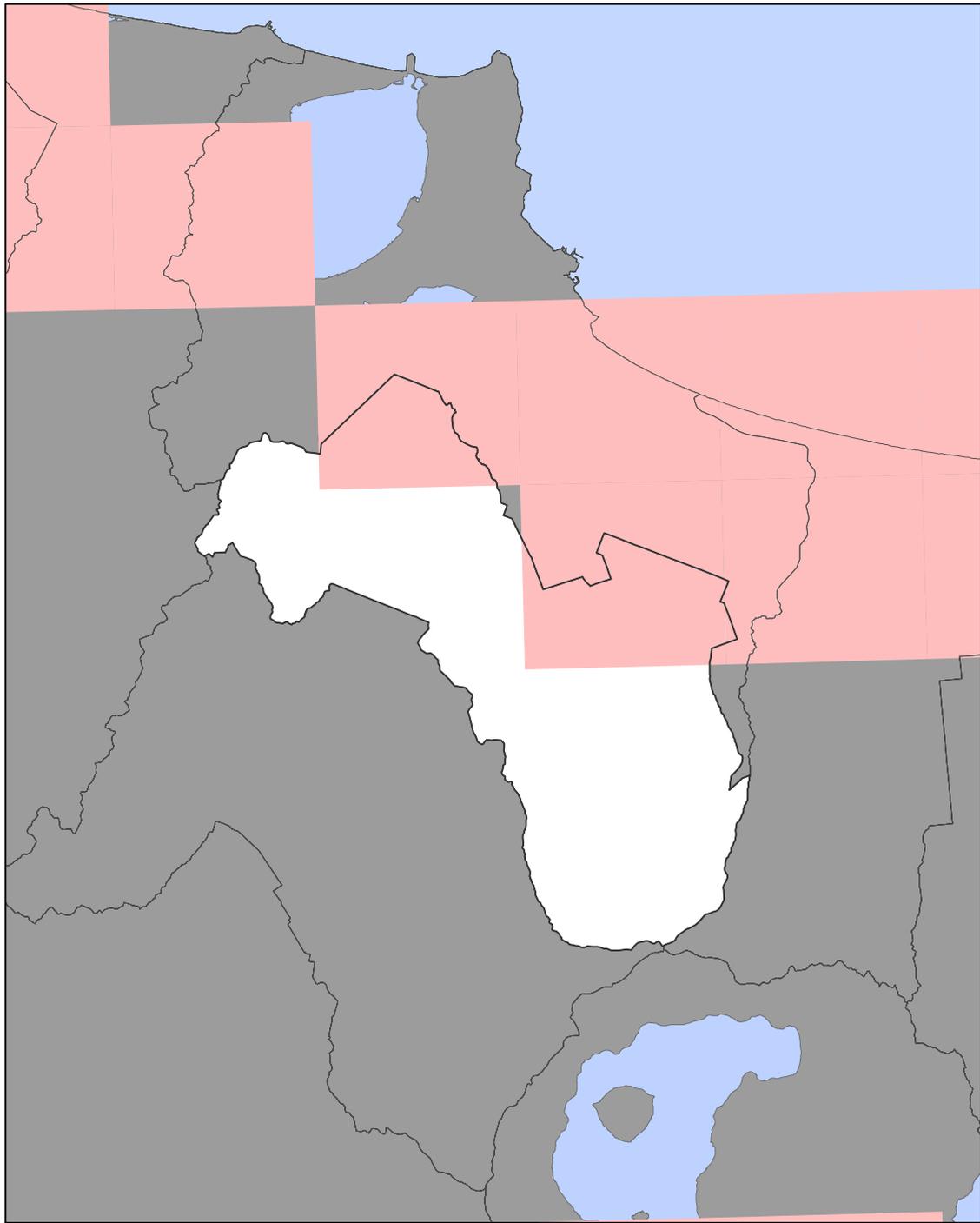
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 注意喚起メッシュ（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-47 センシティブティマップにおけるクマタカの分布メッシュ



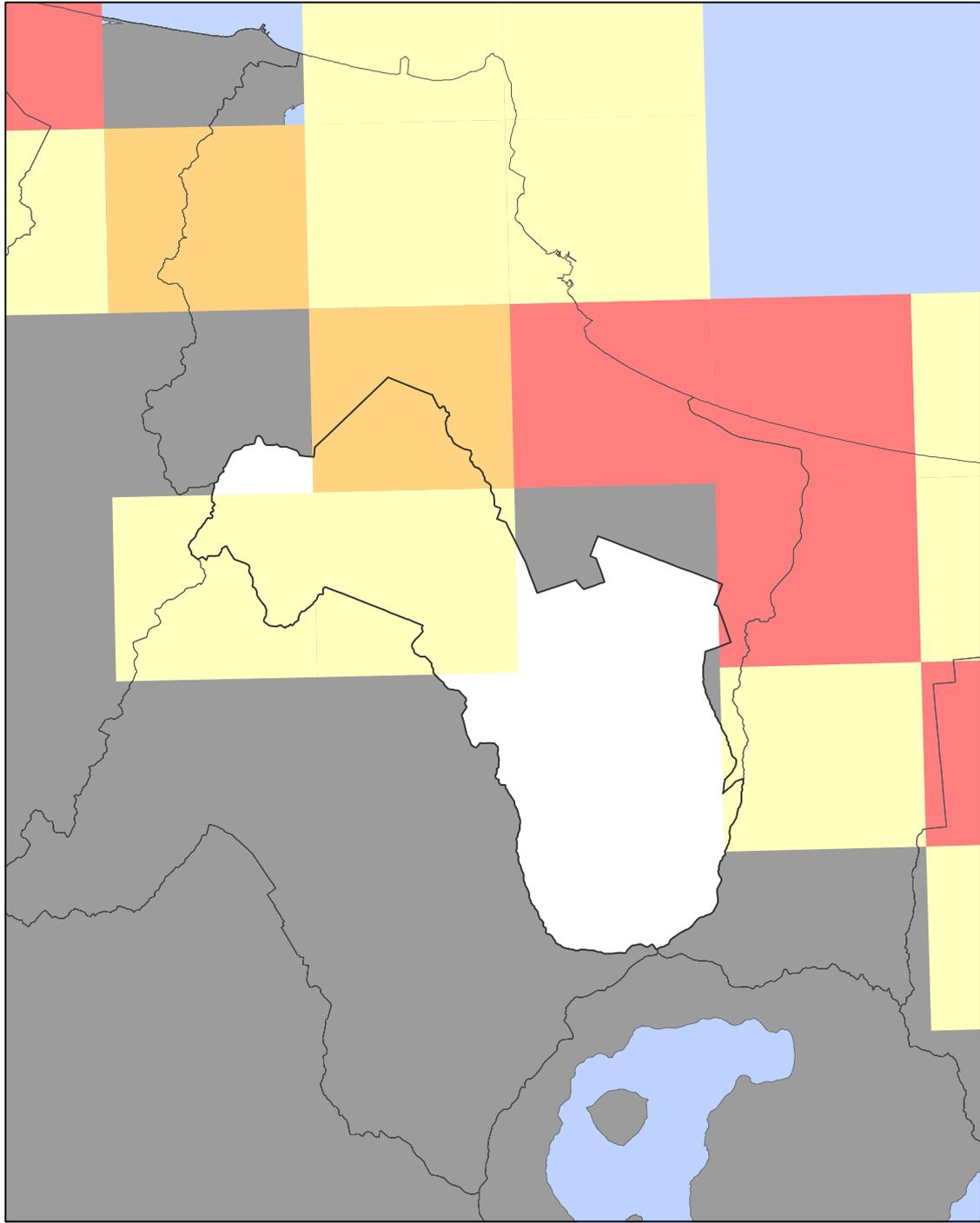
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 注意喚起メッシュ（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-48 センシティブティマップにおけるオオワシの分布メッシュ



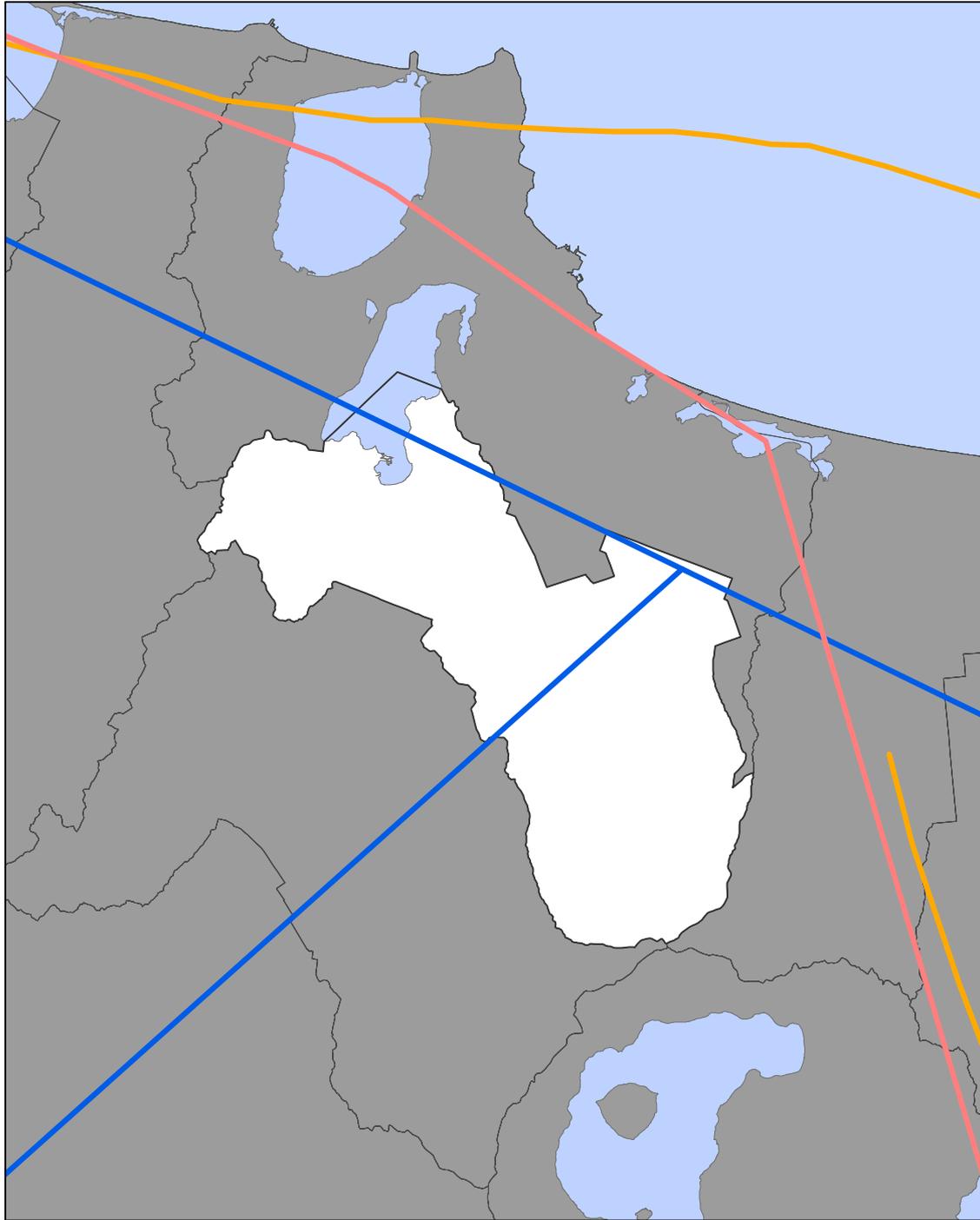
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 注意喚起メッシュ（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-49 センシティブティマップにおけるタンチョウの分布メッシュ



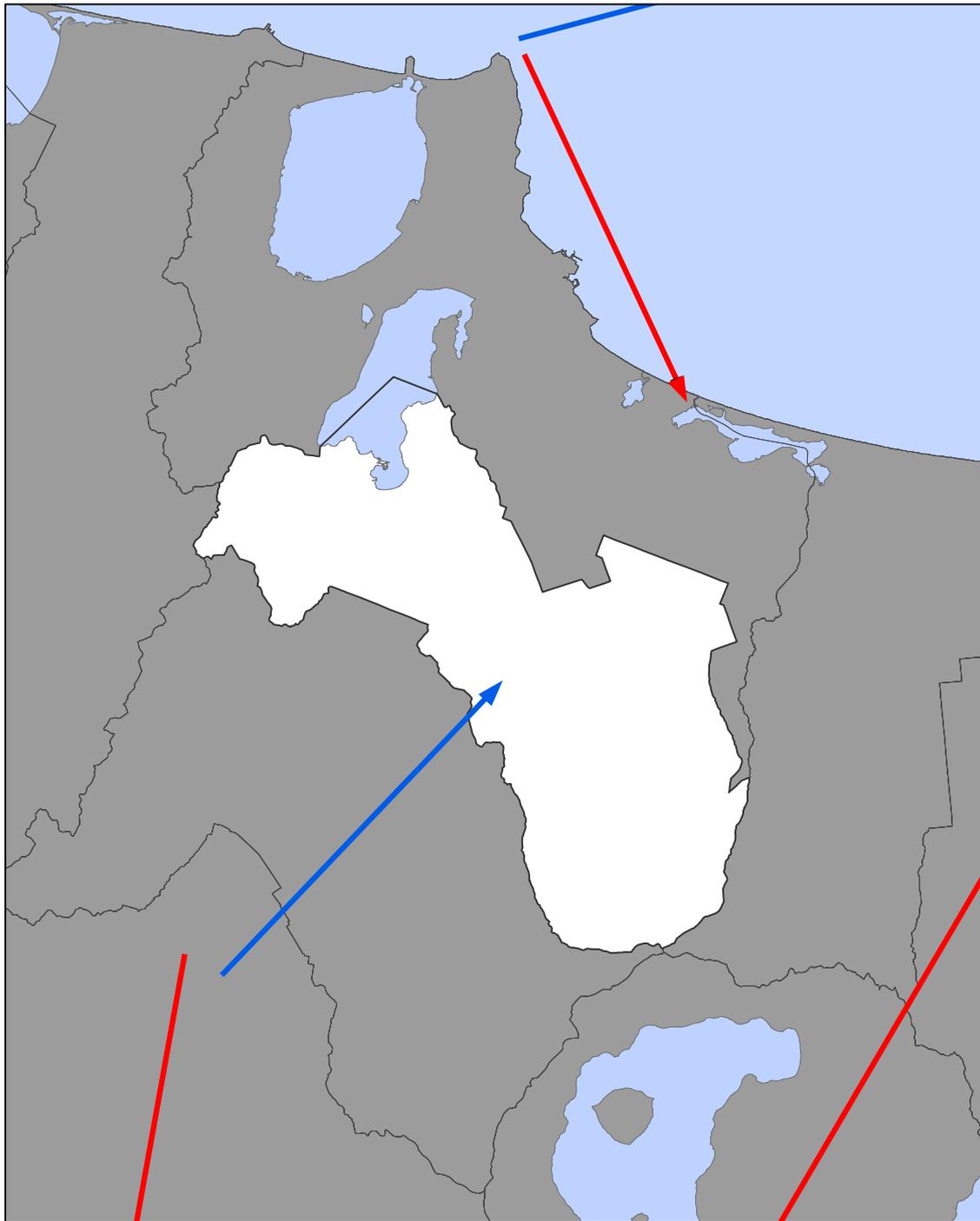
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 注意喚起メッシュ（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-50 センシティブティマップにおける集団飛来地メッシュ



出典：環境省「環境アセスメントデータベース 日中の渡りルート（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-51 センシティブリティマップにおける日中の渡りルート



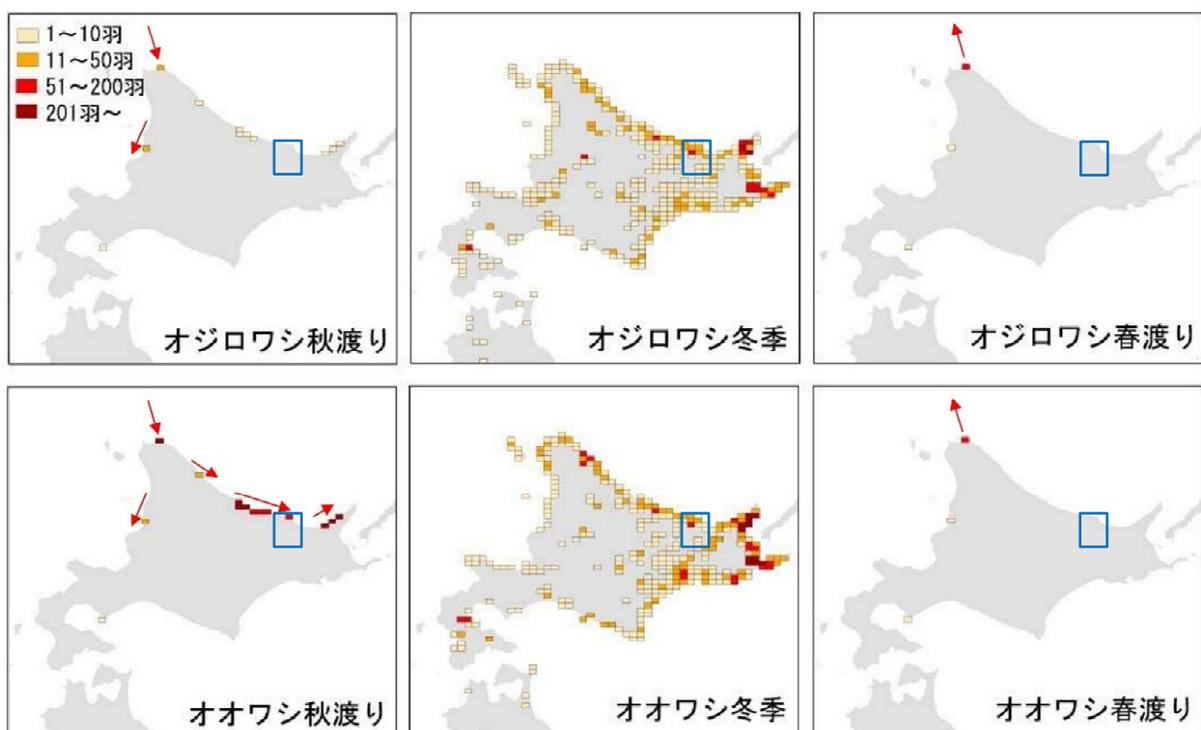
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 夜間の渡りルート（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-52 センシティブティマップにおける夜間の渡りルート

環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」には、猛禽類の渡り情報（渡り経路、タカ類の集結地等）及びガンカモ類の集結状況が掲載されている。猛禽類の渡り情報及びガンカモ類・ハクチョウ類の集結状況は、図 5-53～図 5-60 に示すとおりである。

大空町及びその周囲は、図 5-53 に示すとおり、オジロワシ及びオオワシの越冬地となっている可能性が高い。また、図 5-54、図 5-55 に示すとおり、マガン、ヒシクイ、コハクチョウの渡り期の集結地、オオハクチョウの越冬気及び渡り期の集結地となっている可能性がある。

なお、大空町及びその周囲には、その他の猛禽類の渡り経路や集結地等は確認されていない。

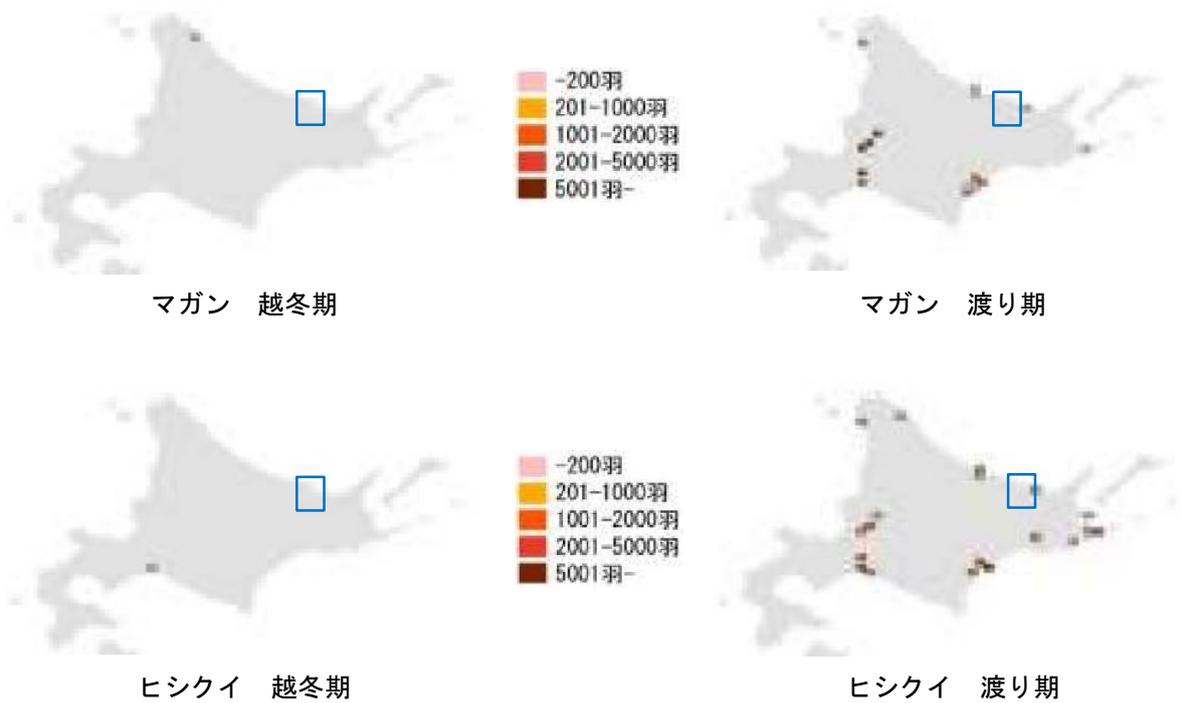


出典：環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」を基に作成

※) 矢印はある程度の規模の渡りが観察された位置を指す

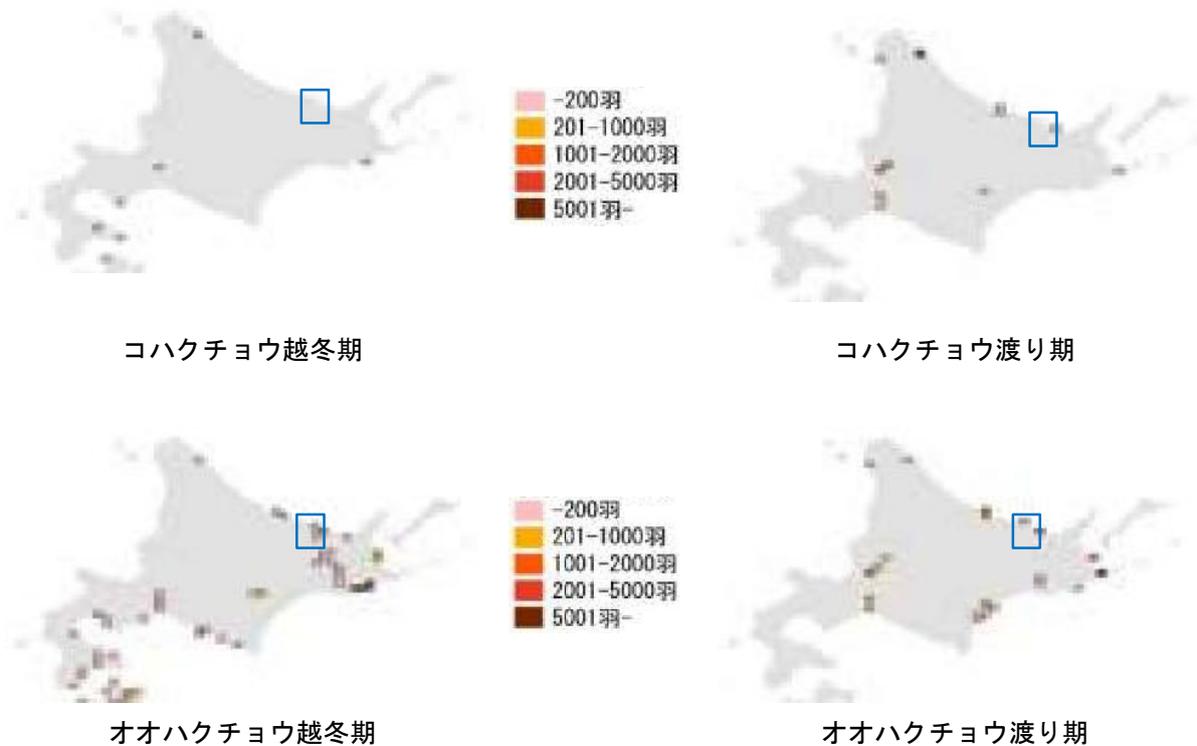
※) 青色の四角は調査対象範囲のおおよその位置を指す

図 5-53 北海道における海ワシ類の渡り調査結果



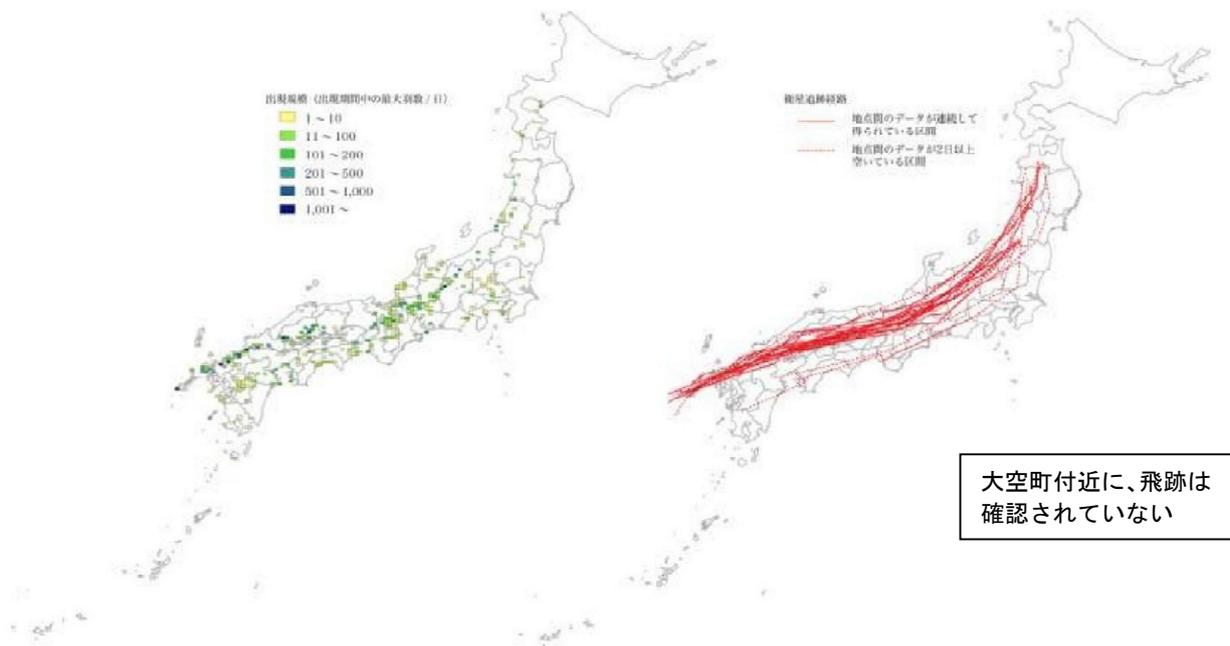
出典：環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」を基に作成  
 ※) 青色の四角は調査対象範囲のおおよその位置を指す

図 5-54 マガン、ヒシクイの集結地



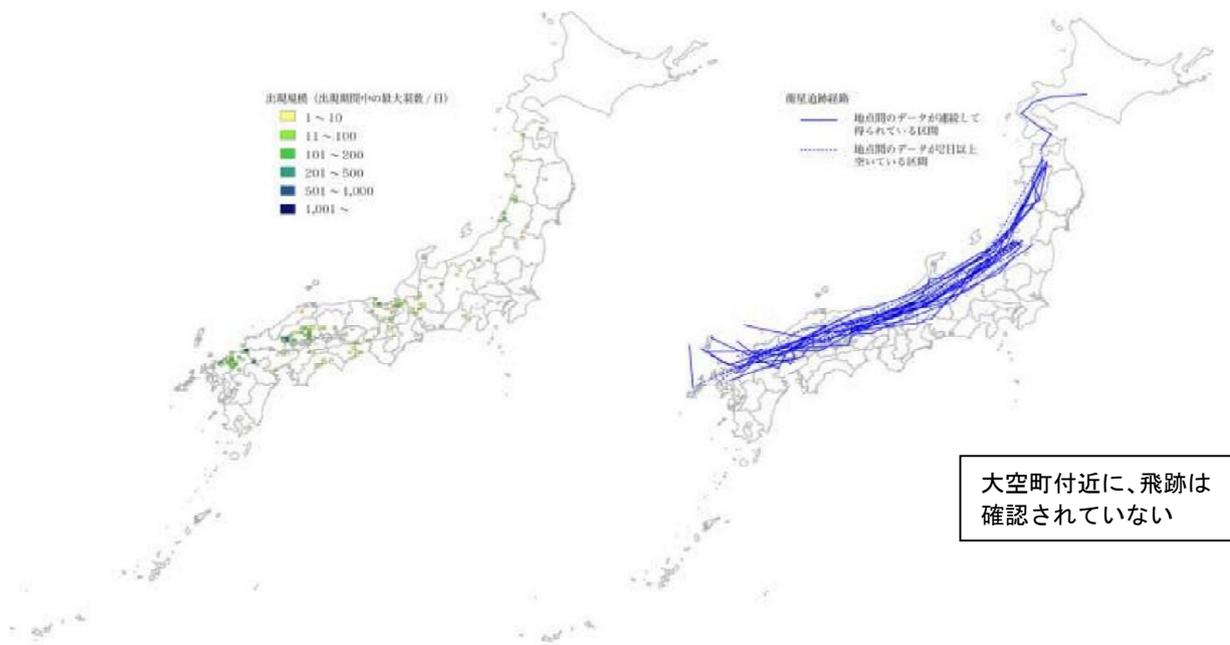
出典：環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」を基に作成  
 ※) 青色の四角は調査対象範囲のおおよその位置を指す

図 5-55 ハクチョウ類の集結地



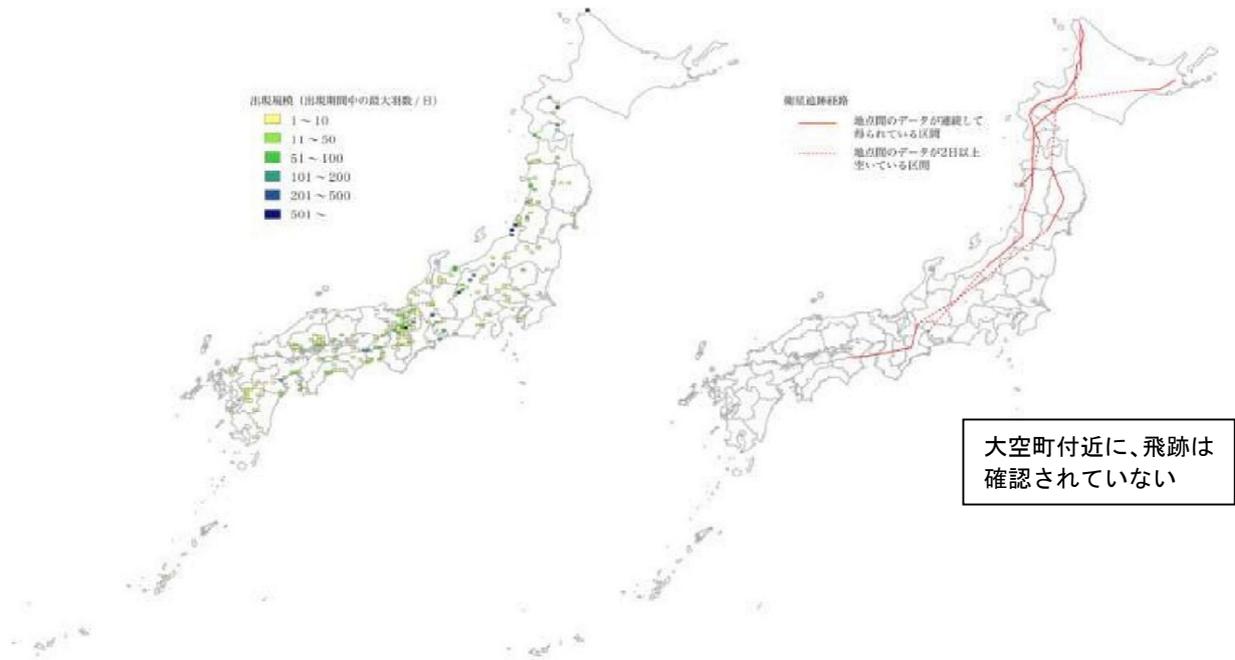
出典：環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」を基に作成  
 ※) 衛星追跡経路図は 20 個体の結果に基づく

図 5-56 ハチクマの秋季の渡り経路



出典：環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」を基に作成  
 ※) 衛星追跡経路図は 20 個体の結果に基づく

図 5-57 ハチクマの春季の渡り経路



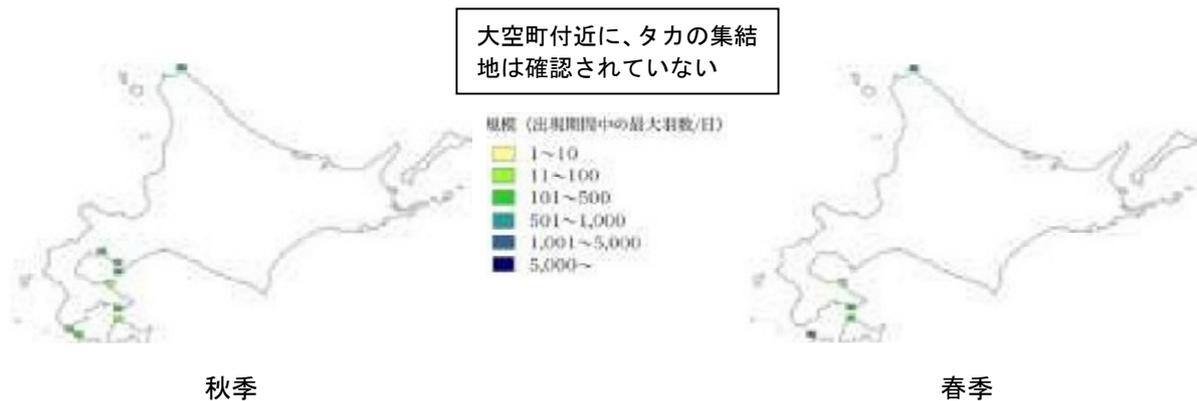
出典：環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」を基に作成  
 ※) 衛星追跡経路図は 14 個体の結果に基づく

図 5-58 ノスリの秋季の渡り経路



出典：環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」を基に作成  
 ※) 衛星追跡経路図は 14 個体の結果に基づく

図 5-59 ノスリの春季の渡り経路

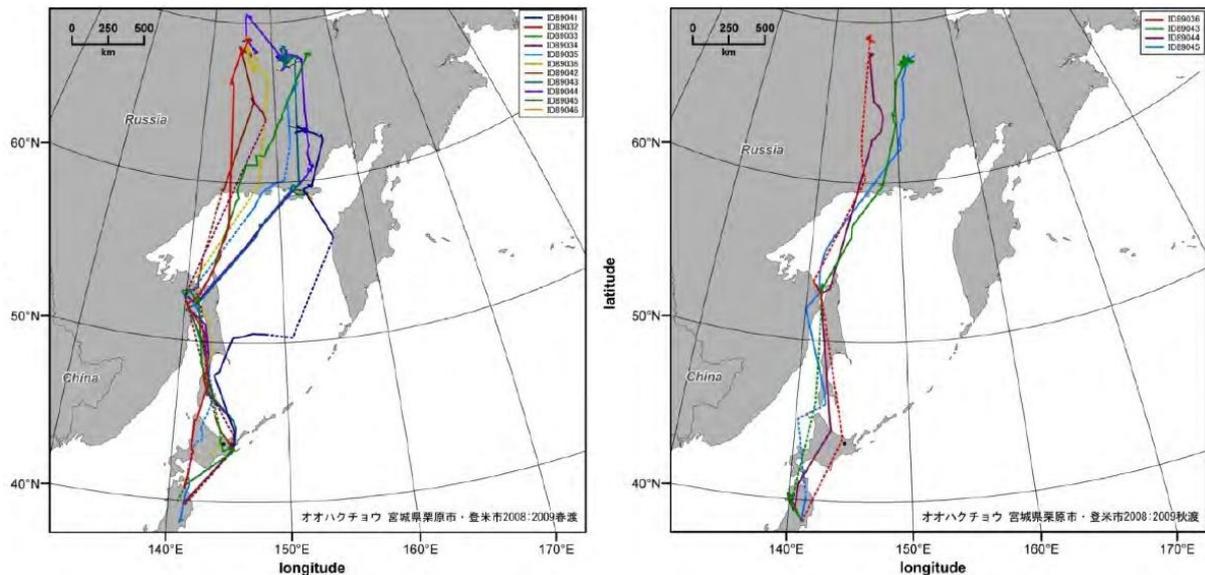


出典：環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」を基に作成

図 5-60 タカ類の集結地

そのほか、環境省「平成 25 年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」には、資料調査及びガンカモ類・海ワシ類の生息状況に詳しい研究者等に対して行ったヒアリング結果、現地調査結果を整理し、渡りの経路を推定した図が掲載されている。ガンカモ類、海ワシ類の渡りの経路等は図 5-61～図 5-69 に示すとおりである。

大空町及びその周囲には、オオハクチョウ、マガン、オオワシの渡り経路等が確認されている。



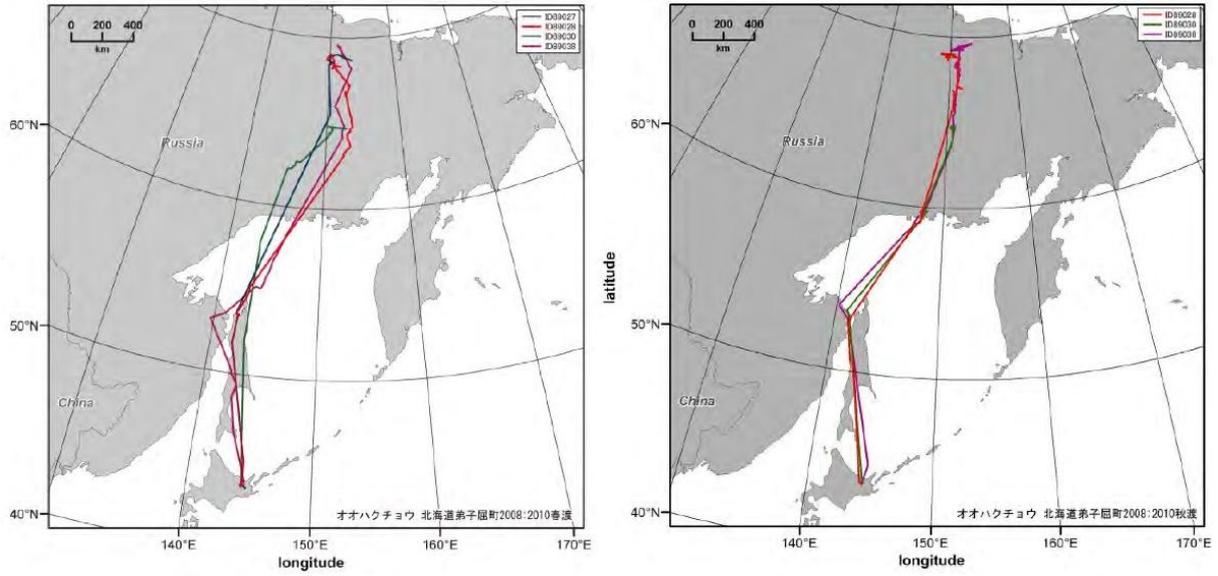
出典：環境省「平成 25 年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」

※) 2008 年度に宮城県栗原市・登米市で送信機を装着した 11 個体 (春) および 4 個体 (秋) の記録である

※) 実線はロケーションクラス 0 以上の測位点、点線はロケーションクラス A, B の測位点をもとに作成されたものである

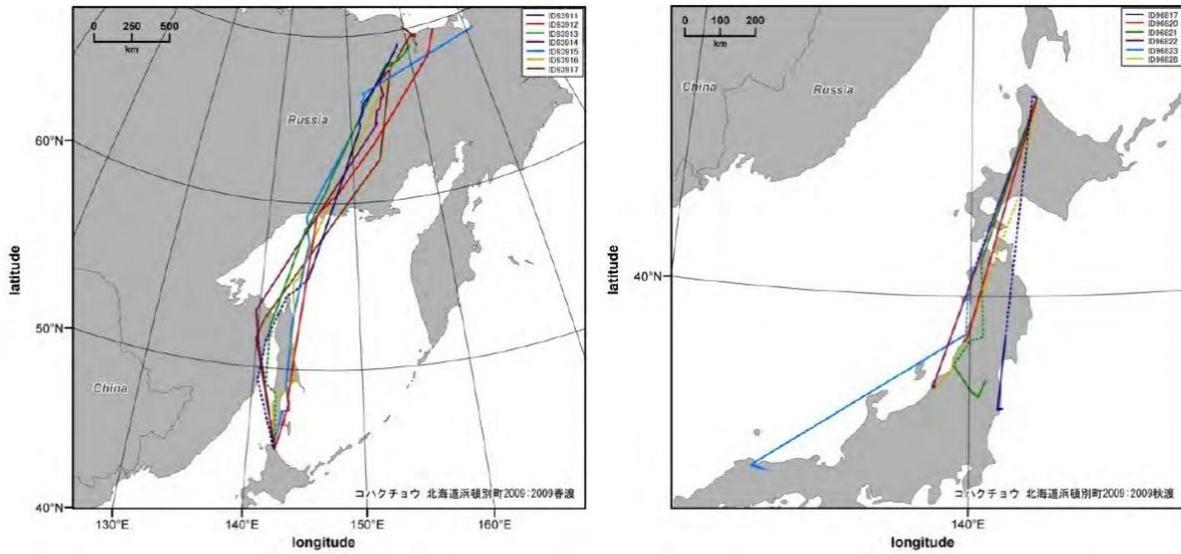
※) ロケーションクラスとは、測位点の精度を示す基準であり、数値の方がアルファベット (A, B) より精度が高い

図 5-61 オオハクチョウの渡り経路 (左 : 2009年春、右 : 2009年秋)



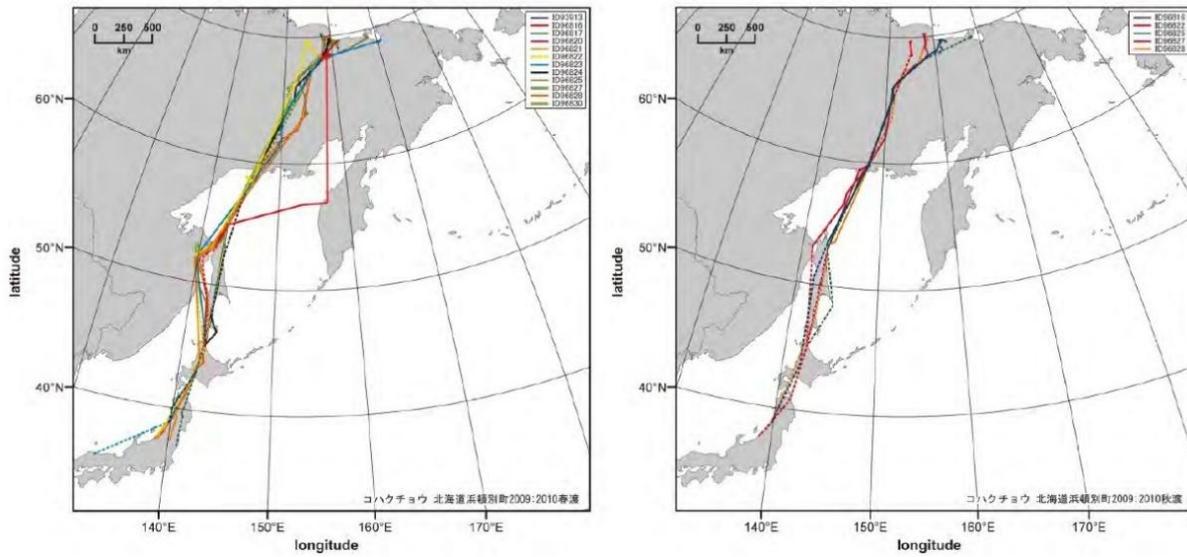
出典：環境省「平成 25 年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」  
 ※) 2008 年度に北海道弟子屈町で送信機を装着した 4 個体 (春) および 3 個体 (秋) の記録である  
 ※) 実線はロケーションクラス 0 以上の測位点、点線はロケーションクラス A, B の測位点をもとに作成されたものである

図 5-62 オオハクチョウの渡り経路 (左：2010年春、右：2010年秋)



出典：環境省「平成 25 年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」  
 ※) 2009 年度に北海道浜頓別町で送信機を装着した 7 個体 (春) および 6 個体 (秋) の記録である  
 ※) 実線はロケーションクラス 0 以上の測位点、点線はロケーションクラス A, B の測位点をもとに作成されたものである

図 5-63 コハクチョウの渡り経路 (左：2009 年春、右：2009 年秋)



出典：環境省「平成 25 年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」

※) 2009 年度に北海道浜頓別町で送信機を装着した 12 個体（春）および 5 個体（秋）の記録である

※) 実線はロケーションクラス 0 以上の測位点、点線はロケーションクラス A, B の測位点をもとに作成されたものである

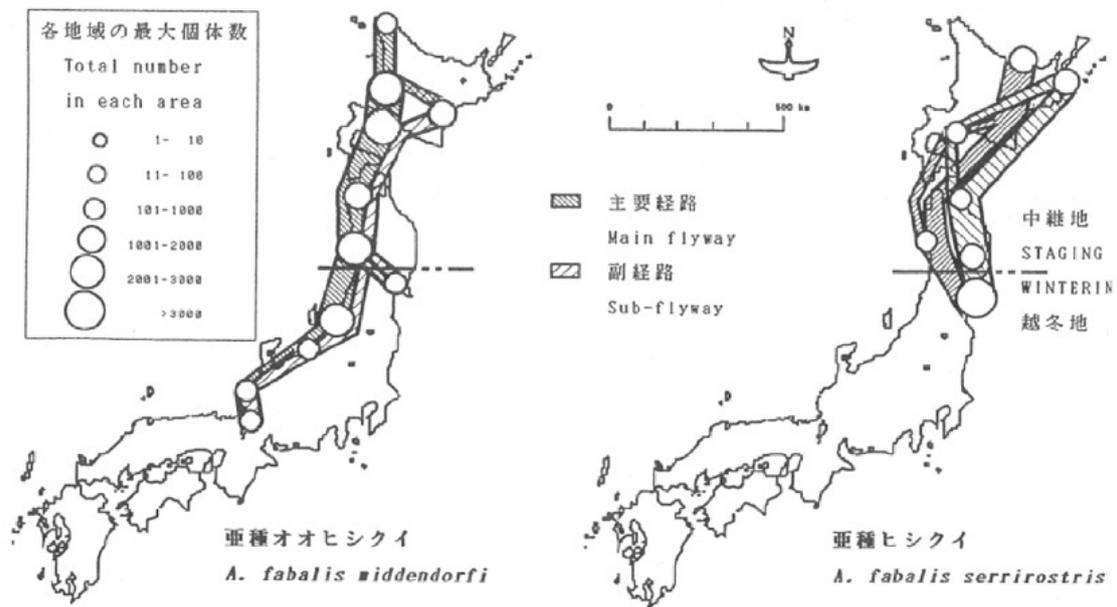
図 5-64 コハクチョウの渡り経路（左：2010年春、右：2010年秋）



ヒシクイ *Anser fabalis*

-  繁殖地  
Breeding area
-  中継地  
Staging area
-  越冬地  
Wintering area

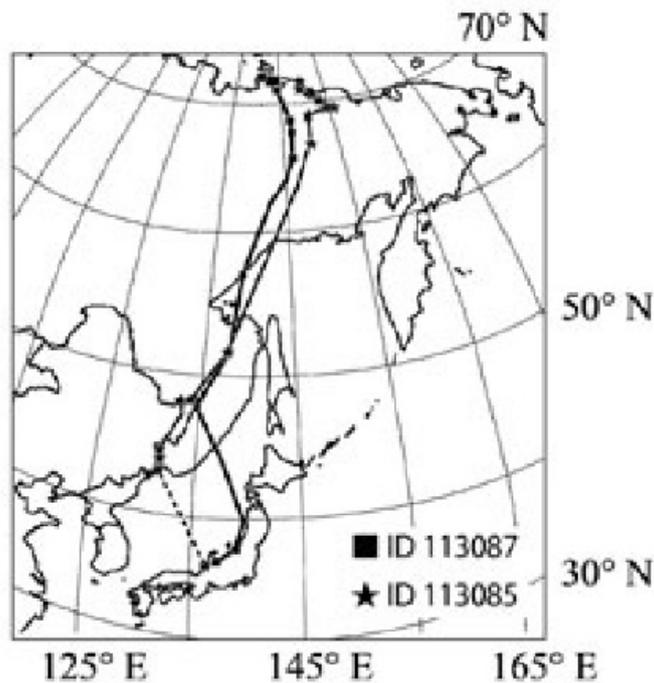
大空町付近は、亜種ヒシクイの渡りルートに含まれている可能性がある。



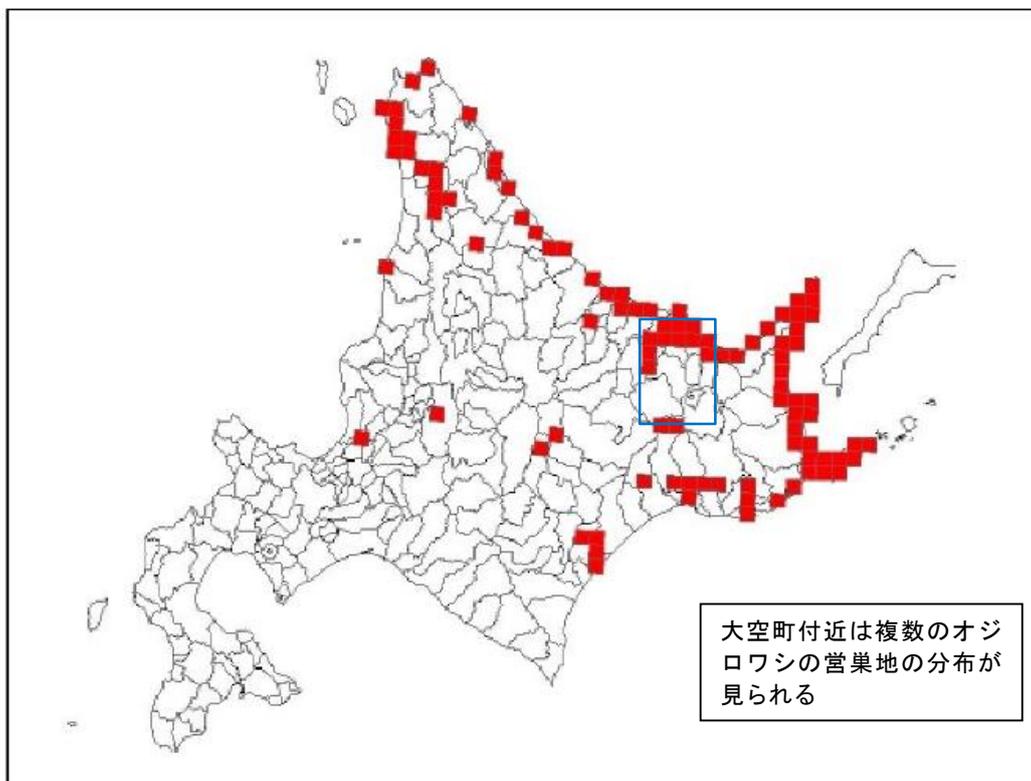
出典：環境省「平成25年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」を基に作成

図 5-65 標識調査から明らかになったヒシクイの渡り経路





出典：環境省「平成25年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」を基に作成  
 図 5-68 衛星追跡調査から明らかになったトモエガモの渡り経路



出典：環境省「平成25年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」を基に作成  
 ※) 赤色は営巣地を1つ以上含む10km×10kmのメッシュを指す  
 ※) 青色の四角は調査対象範囲のおおよその位置を指す

図 5-69 2008年の繁殖期に確認されたオジロワシの営巣地の分布

(3) 動物の重要な種

動物の重要な種は、表 5-19 に示した文献その他の資料で確認された種について、表 5-25 の選定基準に基づき選定した。その結果は表 5-26 に示すとおりであり、哺乳類 16 種、鳥類 16 種、爬虫類 2 種、両生類 0 種、魚類 20 種、昆虫類 418 種が確認されている。

表 5-25 動物の重要な種の選定基準

番号	資料名	カテゴリー
1	「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号) 「北海道文化財保護条例」(昭和30年11月30日 条例第83号) 「大空町文化財保護条例」(平成22年6月16日 条例第24号)	国特：国の特別天然記念物 国天：国の天然記念物 道天：北海道の天然記念物 町天：大空町の天然記念物
2	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」(平成4年6月5日 法律第75号)	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 特一：特定第一種国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
3	「北海道生物の多様性の保全等に関する条例」(平成25年3月29日 条例第9号)	指希：指定希少野生動植物種 特希：特定希少野生動植物種
4	環境省「環境省レッドリスト2020」	CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
5	北海道「北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック2001」 北海道「北海道レッドリスト【両生類・爬虫類編】改訂版(2015年)」 北海道「北海道レッドリスト【昆虫 チョウ目編】改訂版(2016年)」 北海道「北海道レッドリスト【哺乳類編】改訂版(2016年)」 北海道「北海道レッドリスト【鳥類編】改訂版(2017年)」 北海道「北海道レッドリスト【魚類編】改訂版(2018年)」 北海道「北海道レッドリスト【昆虫 コウチュウ目編】改訂版(2019年)」	Ex：絶滅種 Ew：野生絶滅種 Cr：絶滅危機種 En：絶滅危惧種 Vu：絶滅危急種 Nt：準絶滅危惧種 R：希少種 Lp：地域個体群 N：留意種 Dd：情報不足

a) 哺乳類

重要な哺乳類として、ノレンコウモリ、ムクゲネズミ、ヒグマ等が確認されている。

表 5-26 文献による動物の重要な種（哺乳類）

No.	目名	科名	和名	1	2	3	4	5
1	コウモリ目（翼手目）	ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ					Nt
2			ドーベントンコウモリ					N
3			ノレンコウモリ				VU	Nt
4			クロオオブラコウモリ					Nt
5			ヒメヒナコウモリ				DD	Nt
6			ヒナコウモリ					Nt
7			チチブコウモリ					Nt
8			コテングコウモリ					N
9			テングコウモリ					Nt
10				オヒキコウモリ科	オヒキコウモリ			
11	ネズミ目（齧歯目）	リス科	シマリス（エゾシマリス）					Dd
12		ネズミ科	ムクゲネズミ					Nt
13			ハントウアカネズミ（カラフトアカネズミ）					N
14	ネコ目（食肉目）	クマ科	ヒグマ		国際			
15		イタチ科	クロテン（エゾクロテン）					Nt
16			ラッコ				CR	Nt
計	3目	6科	16種	0種	1種	0種	4種	15種

※1) 種名及び配列については原則として国土交通省「令和7年度 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」に準拠した。

※2) 選定基準は表 5-25 に示すとおりである。

b) 鳥類

重要な鳥類として、タンチョウ、オオワシ、シマアオジ等が確認されている。

表 5-27 文献による動物の重要な種（鳥類）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5
1	カモ目	カモ科	シジュウカラガン		国内		CR	Vu
2			オシドリ				DD	Nt
3	キジ目	キジ科	エゾライチョウ				DD	Nt
4	ツル目	ツル科	タンチョウ		国内		VU	Vu
5	チドリ目	シギ科	ヤマシギ					N
6			オオジシギ				NT	Nt
7	タカ目	タカ科	クマタカ		国内		EN	En
8			ハイタカ				NT	Nt
9			チュウヒ		国内		EN	En
10			オオワシ	天然	国内		VU	Vu
11			オジロワシ	天然	国内、国際		VU	Vu
12	キツツキ目	キツツキ科	コアカゲラ					Dd
13			クマガゲラ	天然			VU	Vu
14	スズメ目	モズ科	アカモズ		国内		EN	En
15		センニュウ科	マキノセンニュウ				NT	Nt
16		ホオジロ科	ホオアカ					Nt
17			シマアオジ		国内		CR	Cr
計	7目	9科	17種	3種	8種	0種	14種	17種

※1) 種名及び配列については原則として日本鳥学会「日本産鳥類目録第8版」に準拠した。

※2) 選定基準は表 5-25 に示すとおりである。

c) 爬虫類

重要な爬虫類として、ニホンカナヘビ、ジムグリが確認されている。

表 5-28 文献による動物の重要な種（爬虫類）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5
1	有鱗目	カナヘビ科	ニホンカナヘビ					Lp
2		ナミヘビ科	ジムグリ					Dd
計	1目	2科	2種	0種	0種	0種	0種	2種

※1) 種名及び配列については原則として国土交通省「令和7年度 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」に準拠した。

※2) 選定基準は表 5-25 に示すとおりである。

d) 両生類

重要な両生類は確認されなかった。

e) 魚類

重要な魚類として、カワヤツメ、エゾホトケノドジョウ、ミヤベイワナ等が確認されている。

表 5-29 文献による動物の重要な種（魚類）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5
1	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	カワヤツメ				VU	Nt
2	チョウザメ目	チョウザメ科	チョウザメ				EX	Ex
3	コイ目	コイ科	網走湖のヒブナ個体群					Lp
4			ヤチウグイ				NT	Nt
5			マルタ					N
6			マルタ					N
7			エゾウグイ					N
8		ドジョウ科	ドジョウ				NT	
9		フクドジョウ科	エゾホトケドジョウ				EN	En
10		サケ目	シラウオ科	シラウオ				
11	サケ科		ミヤベイワナ				VU	Nt
12			サクラマス					N
13			サクラマス					N
14		サクラマス（ヤマメ）				NT		
15	トゲウオ目	トゲウオ科	イトヨ					N
16			イトヨ					N
17	スズキ目	カジカ科	ハナカジカ					N
18		ハゼ科	アカオビシマハゼ					Nt
19			ルリヨシノボリ					Nt
20			ジュズカケハゼ				NT	
計	6目	10科	20種	0種	0種	0種	8種	17種

※1) 種名及び配列については原則として国土交通省「令和7年度 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」に準拠した。

※2) 選定基準は表 5-25 に示すとおりである。

f) 昆虫類

重要な昆虫類として、タガメ、ヒメチャマダラセセリ、ゲンゴロウ等、14目105科4,118種が確認されている。

表 5-30 文献による動物の重要な種（昆虫類）（1/8）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5	
1	トンボ目（蜻蛉目）	アオイトトンボ科	ホソミオツネトンボ					En	
2			オオアオイトトンボ					R	
3		イトトンボ科	カラフトイトトンボ				VU	Vu	
4			アカメイトトンボ				CR	Vu	
5			マンシュウイトトンボ					R	
6			カラカネイトトンボ					R	
7			セスジイトトンボ					R	
8			オオイトトンボ					R	
9			ムカシトンボ科	ムカシトンボ					N
10			ヤンマ科	アオヤンマ					NT
11		マダラヤンマ						NT	R
12		イジマルリボシヤンマ						NT	R
13		コシボシヤンマ							R
14		ミルンヤンマ							R
15		サラサヤンマ							R
16		エゾトンボ科	クモマエゾトンボ						R
17			ハネヒロエゾトンボ					VU	R
18		トンボ科	コフキトンボ						R
19			エゾカオジロトンボ					NT	Vu
20			ハラビロトンボ						En
21			ナツアカネ						R
22			エゾアカネ					EN	R
23			マイコアカネ						R
24			ヒメアカネ						R
25			ヒメリスアカネ						R
26	カワゲラ目（セキ翅目）	トワダカワゲラ科	フタカギトワダカワゲラ					R	
27			ヨツカギトワダカワゲラ					R	
28	バッタ目（直翅目）	カマドウマ科	トウホクヒラタクチキウマ					R	
29			ヒダカヒラタクチキウマ					R	
30		キリギリス科	カラフトキリギリス					R	
31		コオロギ科	ハラオカメコオロギ					R	
32			ツツレサセコオロギ					R	
33		イナゴ科	ハヤチネフキバッタ					R	
34	ダイセツタカネフキバッタ						R		
35	ガロアムシ目	ガロアムシ科	エゾガロアムシ					R	
36	ナナフシ目（竹節虫目）	ナナフシ科	ヤスマツトビナナフシ					R	
37	カメムシ目（半翅目）	コガシラウンカ科	<i>Cixidia okunii</i>					R	
38		ウンカ科	サッポロウンカ					R	
39			フタスジオウンカ					R	
40			オゼウンカ					R	
41			ナガウンカ					R	
42		マルウンカ科	キタアカジマウンカ					R	
43		セミ科	和琴半島のミンミンゼミ個体群					Lp	
44			チツチゼミ					R	
45			ヒグラシ					R	
46		ツノゼミ科	マルツノゼミ					R	
47		アワフキムシ科	トドマツアワフキ					R	
48		ヨコバイ科	<i>Anoscopus flavostriatus</i>					R	
49			ヒロオビフトヨコバイ					R	
50			<i>Diplocorenus evansi</i>					R	
51			<i>Empoa albifascia</i>					R	
52			トビイロズキンヨコバイ					R	
53	<i>Limotettix adipatus</i>						R		

表 5-31 文献による動物の重要な種（昆虫類）（2/8）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5			
54	カメムシ目（半翅目）	ヨコバイ科	ホシハトムネヨコバイ					R			
55			ヒシウスバヨコバイ					R			
56			オオイナズマヨコバイ					R			
57			チシマキイロヒメヨコバイ					R			
58			ヨシヨコバイ					R			
59			オオクロヒラタヨコバイ					R			
60			<i>Pithytettix kerzhneri</i>					R			
61			<i>Psammotettix maritimus</i>					R			
62			グンバイムシ科	ヒラシマルグンバイ					R		
63			ハナカメムシ科	オオクロハナカメムシ					R		
64			カスミカメムシ科	ムモンナガカスミカメ					R		
65		クロスジコアオカスミカメ						R			
66		ダルマカメムシ						Vu			
67		ハイマツトビカスミカメ						R			
68		マキバサシガメ科	ツماغロマキバサシガメ					NT	N		
69		アメンボ科	エサキアメンボ						NT	R	
70			ババアメンボ						NT	N	
71		ミズギワカメムシ科	ヒメミズギワカメムシ						NT	R	
72			オオミズギワカメムシ							R	
73			ヒラタミズギワカメムシ							N	
74		コオイムシ科	オオコオイムシ							R	
75			タガメ			国内特二			VU	Cr	
76		アブラムシ科	<i>Hemipodaphis persimilis</i>							En	
77		キジラミ科	エゾイソツツジキジラミ							R	
78			ミヤマヤナギキジラミ							R	
79		タデキジラミ科	ウラジロタデキジラミ							R	
80		ネッタキジラミ科	ヒダカキジラミ							R	
81		フタガタカメムシ科	キタフタガタカメムシ							R	
82		アミメカゲロウ目（脈翅目）	センブリ科	ウスバセンブリ						R	
83			ヒロバカゲロウ科	ブライヤーヒロバカゲロウ							R
84				ウスバカゲロウ科	マダラウスバカゲロウ						R
85	クサカゲロウ科		オオウスバカゲロウ							R	
86			キチジョウクサカゲロウ							R	
87			モンクサカゲロウ							R	
88			ナナホクサカゲロウ							R	
89			セボシクサカゲロウ							R	
90	ヒメカゲロウ科		クビカクシヒメカゲロウ							R	
91			フジモトヒメカゲロウ							R	
92			ムモンヒメカゲロウ							R	
93			サザナミヒメカゲロウ							R	
94			<i>Hemerobius subfalcatus</i>							R	
95			<i>Hemerobius tateyamai</i>							R	
96			<i>Neuronema kuwayamai</i>							R	
97	<i>Wesmaelius ogatai</i>								R		
98	シリアゲムシ目（長翅目）	ユキシリアゲムシ科	エゾユキシリアゲ						R		
99	トビケラ目（毛翅目）	キブネクダトビケラ科	キブネクダトビケラ						R		
100		カメノコヒメトビケラ科	マガリカメノコヒメトビケラ							R	
101			カメノコヒメトビケラ							R	
102		コエグリトビケラ科	カンムリイズミコエグリトビケラ							R	
103			キタコエグリトビケラ							R	
104			チシマコエグリトビケラ							R	
105		カクツツトビケラ科	ツノカクツツトビケラ							Vu	
106		ヒゲナガトビケラ科	ギンボシツツトビケラ							NT	R
107		エグリトビケラ科	オツネントビケラ							R	
108			ユキエグリトビケラ							R	
109		ホソバトビケラ科	イトウホソバトビケラ							R	
110		トビケラ科	タイリクウンモントビケラ							R	
111			ヒメアミメトビケラ							R	
112			ゴマフトビケラ								R
113			カラフトゴマフトビケラ								R

表 5-32 文献による動物の重要な種（昆虫類）（3/8）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5
114	チョウ目（鱗翅目）	セセリチョウ科	ギンイチモンジセセリ				NT	Dd
115			チャマダラセセリ				EN	
116			ヒメチャマダラセセリ	天然	国内		CR	Cr
117			スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種				NT	Nt
118		シジミチョウ科	リンゴシジミ					N
119			カバイロシジミ				NT	
120			キタアカシジミ北日本亜種					N
121			オオゴマシジミ				NT	Dd
122			ゴマシジミ北海道・東北亜種					N
123			アサマシジミ北海道亜種		国内		CR	En
124			カラフトルリシジミ	天然		指希	NT	N
125		タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン				VU	
126			ヒョウモンチョウ東北以北亜種					Dd
127			アサヒヒョウモン	天然		指希	NT	N
128			カラフトヒョウモン				NT	
129			クモバネヒカゲ北海道亜種				NT	N
130			ゴマダラチョウ本土亜種					N
131	キマダラモドキ					NT	N	
132	ツマジロウラジャノメ北海道亜種						N	
133	オオイチモンジ					VU	N	
134	ダイセツタカネヒカゲ		天然		指希	NT	N	
135	オオムラサキ				NT	N		
136	アゲハチョウ科	ヒメギフチョウ北海道亜種				NT	R	
137		ウスバキチョウ	天然		指希	NT	N	
138	シロチョウ科	ヒメシロチョウ北海道・本州亜種					Vu	
139	セセリモドキガ科	ニホンセセリモドキ					Nt	
140	シャクガ科	コウノエダシャク					Nt	
141		シロテンサザナミナミシャク					Nt	
142		アルプスカバナミシャク					Nt	
143		ダイセツタカネエダシャク					Nt	
144		クロモンミヤマナミシャク					Nt	
145		タカネナミシャク					Nt	
146	ヒトリガ科	ダイセツヒトリ				NT	Nt	
147	ドクガ科	ダイセツドクガ					Nt	
148	ヤガ科	エゾサクラケンモン					R	
149		キタノハマヨトウ					Nt	
150		ダイセツキシタヨトウ				NT	Nt	
151		ヒダカミツボシキリガ				NT	Nt	
152		コグレヨトウ					Nt	
153		オーロラヨトウ					Nt	
154		シベチャキリガ					Nt	
155		ウスアオヨトウ					Vu	
156		キタミモンヤガ					Nt	
157		エゾクシヒゲモンヤガ				VU	Nt	
158		ワイギンモンウワバ					R	
159		クロダケタカネヨトウ				NT	Nt	
160	ハマキガ科	ミヤマキハマキ					Nt	
161		ダイセツチビハマキ					Nt	
162		ハイマツコヒメハマキ					Nt	
163		コシモフリヒメハマキ					Nt	
164	ホソハマキガ科	ダイセツホソハマキ					Nt	
165	ハエ目（双翅目）	カ科	トワダオオカ					R
166		ハナアブ科	フタオビアリノスアブ					R
167			ジョウザンナガハナアブ					R
168		クロバエ科	クモオオクロバエ					R
169			タカネクロバエ					R
170			エゾクロバエ					R
171			ホクリクコフキクロバエ					R
172			トリキンバエ					R
173			マルヤマトリキンバエ					R
174			ヤドリトリキンバエ					R

表 5-33 文献による動物の重要な種（昆虫類）（4/8）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5		
175	ハエ目（双翅目）	イエバエ科	マグソチビフンバエ					R		
176			エゾマグソイエバエ					R		
177			クロマルハナバエ					R		
178			タテヤマミドリイエバエ					R		
179			ハイイロトゲアシメマトイ					R		
180			ダイセツトゲアシメマトイ					R		
181			クマガラトゲアシメマトイ					R		
182			エゾカトリバエ					R		
183			キバネクロバエ					R		
184			コシアキトゲアシエバエ					R		
185			コクロイエバエ					R		
186			キイロミヤマイエバエ					R		
187			ミチタニミヤマイエバエ					R		
188			ニクバエ科	ヤチニクバエ						R
189				カスミニクバエ						R
190				Blaesoxipha (Blaesoxipha) takanoi						R
191				ハナバチノスヤチニクバエ						R
192				ハチノスヤドリニクバエ						R
193		エゾハチノスヤドリニクバエ							R	
194		ヤドリニクバエ							R	
195		ゼニゴギンガクニクバエ							R	
196		チビクロニクバエ							R	
197		ビーソンニクバエ							R	
198		シロガネニクバエ							R	
199	メツゲルニクバエ							R		
200	エダガタニクバエ							R		
201	キタシリアカニクバエ							R		
202	ヒフバエ科	ナキウサギヒフバエ							R	
203	マガリスネカ科	クロマガリスネカ							R	
204	ヤドリバエ科	ダマスターヤドリハナバエ						R		
205	コウチュウ目（鞘翅目）	オサムシ科	マツマエメクラチビゴミムシ					Dd		
206			カックミメクラチビゴミムシ						Dd	
207			ヒダカマルガタゴミムシ						Nt	
208			リシリマルガタゴミムシ						Nt	
209			エゾメダカチビカワゴミムシ						Nt	
210			テンリュウメダカチビカワゴミムシ						Nt	
211			セズジカタキバゴミムシ						Nt	
212			シモヤマミズギワゴミムシ						Nt	
213			ウメヤルリミズギワゴミムシ						Nt	
214			アナバネゴミムシ						Nt	
215			ユウパリメクラミズギワゴミムシ						Dd	
216			カリバメクラミズギワゴミムシ						Dd	
217			クマガイクロアオゴミムシ						NT	Nt
218			エゾアオゴミムシ							Nt
219			オオキバナガミズギワゴミムシ						VU	En
220			キバナガミズギワゴミムシ							Nt
221			コヒメヒョウタンゴミムシ							Nt
222			モリキバネホソアトキリゴミムシ							Nt
223			カリパチビゴミムシ							Dd
224			ムイネチビゴミムシ							Dd
225			カックミチビゴミムシ							Dd
226			センゲンチビゴミムシ							Dd
227			ユウパリチビゴミムシ							Dd
228			ヒダカチビゴミムシ							Dd
229			エゾヒサゴミムシ							Nt
230			ダイセツマルクビゴミムシ							Nt
231			キタマルクビゴミムシ							Nt
232			コルリマルクビゴミムシ							Nt
233			キベリマルクビゴミムシ						EN	Dd
234					ルリマルクビゴミムシ					Nt

表 5-34 文献による動物の重要な種 (昆虫類) (5/8)

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5			
235	コウチュウ目 (鞘翅目)	オサムシ科	ヒメミヤマメダカゴミムシ					Nt			
236			オシマメクラチビゴミムシ					Dd			
237			ドウイロハマベゴミムシ					NT	En		
238			ニッポンヒメナガゴミムシ						Nt		
239			アラメナガゴミムシ						Nt		
240			ヒダカメクラチビゴミムシ						Dd		
241			ナカヒダカメクラチビゴミムシ						Dd		
242			ユウバリメクラチビゴミムシ						Dd		
243			ズンドウメクラチビゴミムシ						Dd		
244			ベテガリメクラチビゴミムシ						Dd		
245			ラッコメクラチビゴミムシ						Dd		
246			ワタナベメクラチビゴミムシ						Dd		
247			アトスジチビゴミムシ						Dd		
248			サイハテチビゴミムシ						Dd		
249			シヨカンベツチビゴミムシ						Dd		
250			リシリチビゴミムシ						Dd		
251			マツモトチビゴミムシ						Dd		
252			スガチビゴミムシ						Dd		
253			ハンミョウ科	カワラハンミョウ					EN	Vu	
254				アイヌハンミョウ					NT	Vu	
255				ホソハンミョウ					VU	Nt	
256				マガタハンミョウ						Dd	
257			ゲンゴロウ科	ダイセツマゲンゴロウ						Nt	
258				Agabus japonicus ezo						Dd	
259				キボシケシゲンゴロウ						DD	Nt
260				エゾヒラタヒメゲンゴロウ							Nt
261				ゲンゴロウ			国内特二			VU	Nt
262				エゾゲンゴロウモドキ			国内特二			VU	N
263				ハイイロゲンゴロウ							R
264				マルガタゲンゴロウ			国内特二			VU	
265				カラフトマルガタゲンゴロウ						NT	Nt
266				シマゲンゴロウ						NT	Nt
267				アンガスナガケシゲンゴロウ							Nt
268				サロベツナガケシゲンゴロウ							Nt
269	ワタナベナガケシゲンゴロウ								Nt		
270	ラウスナガケシゲンゴロウ								Nt		
271	キタマダラチビゲンゴロウ								Nt		
272	アラメケシゲンゴロウ							NT	Nt		
273	キベリクロヒメゲンゴロウ							NT			
274	オオクロマメゲンゴロウ								Nt		
275	キボシツブゲンゴロウ							NT	Nt		
276	キタヒメゲンゴロウ								Nt		
277	ミズスマシ科	コミズスマシ						EN	Dd		
278		ミズスマシ							VU	Nt	
279		エゾコオナガミズスマシ							NT	Nt	
280	コガシラミズムシ科	マダラコガシラミズムシ					VU	Nt			
281		チビコガシラミズムシ							Nt		
282	コツブゲンゴロウ科	ヒゲブトコツブゲンゴロウ						Nt			
283	マルドロムシ科	マルドロムシ						R			
284		シワムネマルドロムシ							Nt		
285	ダルマガムシ科	セスジダルマガムシ						Nt			
286	ガムシ科	エゾコガムシ					NT	N			
287	エンマムシ科	チュウジョウチビエンマムシ						R			
288		アカアリツカエンマムシ							R		
289		クロアリツカエンマムシ							R		
290		ヒラタエンマムシ							R		
291		ヒラタカクヒメエンマムシ							R		

表 5-35 文献による動物の重要な種 (昆虫類) (6/8)

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5		
292	コウチュウ目 (鞘翅目)	エンマムシ科	ヘリテンエンマムシ					R		
293			アリクイエンマムシ					R		
294			ノッポロヒメエンマムシ					R		
295			ホソエンマムシ					R		
296			ツノブトホソエンマムシ					R		
297			ヒメホソエンマムシ					R		
298			キノコアカマルエンマムシ					Nt		
299			エンマムシダマシ科	エンマムシダマシ					Nt	
300			タマキノコムシ科	ダイセツチビシテムシ					Nt	
301				ヤスダチビシテムシ					Nt	
302		ハネカクシ科	ホテウミハネカクシ				DD	Nt		
303		マルハナノミ科	オビモンマルハナノミ					Nt		
304		クワガタムシ科	オオクワガタ				VU	Nt		
305		コガネムシ科	ダイセツマゴソコガネ					NT	Nt	
306			キタミヤマゴソコガネ						Nt	
307			ダイコクコガネ					VU	Nt	
308			オオヒラタハナムグリ						Nt	
309			チャバネエンマコガネ					VU	Vu	
310			アラメエンマコガネ					NT	N	
311			ヨツバコガネ						Nt	
312			キタアラメニセマゴソコガネ						Nt	
313			コブスジコガネ科	マルコブスジコガネ					NT	Dd
314			マルトゲムシ科	エカシマルトゲムシ						R
315				カラフトマルトゲムシ						Nt
316				マルモンマルトゲムシ						Nt
317		キタサシゲマルトゲムシ							Nt	
318		ドロムシ科	ハセガワドロムシ						Nt	
319		タマムシ科	エゾアオタマムシ						Dd	
320		コメツキムシ科	シロウズベニコメツキ						Nt	
321			ヒゲナガダシコメツキ						Nt	
322			コニシニセヒラタコメツキ						Nt	
323			コロボックルヒサゴコメツキ						Nt	
324			レブンチビヒサゴコメツキ						Nt	
325			エゾクロクシコメツキ						Nt	
326			ホソツヤミズギワコメツキ						Nt	
327	サロベツツヤミズギワコメツキ							Nt		
328	エゾクシヒゲヒラタコメツキ							Nt		
329	アラコガネコメツキ							Nt		
330	ジョウカイボン科		クロヒゲナガジョウカイ						Nt	
331			セボシジョウカイ						R	
332			タカネクロクビボシジョウカイ						Nt	
333	ベニボタル科		オオツヤバネベニボタル						Nt	
334		<i>Dictyoptera sapporoensis</i>						Nt		
335		ヴァンダイクホソベニボタル						Nt		
336		ベニボタル						R		
337	ホタルモドキ科	ホソホタルモドキ						Nt		
338	シバンムシ科	ホソナガシバンムシ						Nt		
339	カミキリムシ科	ケマダラカミキリ						N		
340		フサヒゲルリカミキリ			国内		CR	Dd		
341		チャバネクロツツカミキリ						R		
342		ヨコグロハナカミキリ						Nt		
343		クロルリハナカミキリ						Nt		
344		ジャコウカミキリ						R		
345		ミドリヒラタカミキリ						Nt		
346		ムツボシアオコトラカミキリ						Nt		
347		キョクトウトラカミキリ						Nt		
348		エトロフハナカミキリ						Nt		
349		コボトケヒゲナガコバネカミキリ						R		
350		エゾカミキリ						Nt		
351			カラフトヨツスジハナカミキリ						Nt	

表 5-36 文献による動物の重要な種（昆虫類）（7/8）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5	
352	コウチュウ目（鞘翅目）	カミキリムシ科	オニホソコバネカミキリ					R	
353			アイヌホソコバネカミキリ					Nt	
354			ヒゲジロホソコバネカミキリ					Nt	
355			エゾスミイロハナカミキリ					Nt	
356			キクスイカミキリ					R	
357			キボシマダラカミキリ					Nt	
358			ビヤクシンカミキリ					R	
359			カッコウメダカカミキリ					R	
360			タカオメダカカミキリ					R	
361			オクエゾトラカミキリ					Nt	
362			ムネモンチャイロトラカミキリ					Nt	
363			クワヤマトラカミキリ					Nt	
364			ハムシ科	キアシツブノミハムシ					R
365				カワカミハムシ					Nt
366				ミヤマヨモギハムシ					R
367				サメハダヨモギハムシ					Nt
368				クロルリハムシ					Nt
369				ルリドロノキハムシ					Nt
370				ツマキクロツツハムシ					Nt
371				ハコネチビツツハムシ					Nt
372				カラフトツツハムシ					Nt
373				ニセセジツツハムシ					Nt
374				ヒナノウスツボアシナガトビハムシ					Nt
375				タツナミソウアシナガトビハムシ					Nt
376				アオバアシナガハムシ					Nt
377				ヒラシマミズクサハムシ					Nt
378		キスジホソハムシ						Nt	
379		ミソハギハムシ						Nt	
380		コニシケブカハムシ						Nt	
381		クロホシモモトハムシ						R	
382		アオグロモモトハムシ						Nt	
383		ムナキモモトハムシ						R	
384		ヒゲナガゾウムシ科		チャマダラヒゲナガゾウムシ					Nt
385				シロオビクチボソヒゲナガゾウムシ					Nt
386				シリジロヒゲナガゾウムシ					Nt
387				キスジヒゲナガゾウムシ					Nt
388	エグリバネヒゲナガゾウムシ							Nt	
389	エゾシロモンヒゲナガゾウムシ						Nt		
390	マダラフトヒゲナガゾウムシ						R		
391	シロモンヒゲナガゾウムシ						Nt		
392	ツツケナガヒゲナガゾウムシ						Nt		
393	ナガアシヒゲナガゾウムシ						R		
394	シロマダラネフトヒゲナガゾウムシ						Nt		
395	シロヒゲナガゾウムシ						R		
396	オオマダラヒゲナガゾウムシ						Nt		
397	ゾウムシ科		シラクモアナアキゾウムシ					Nt	
398			オナガカツゾウムシ					Nt	
399		ヌタツカゾウムシ					Nt		
400	ハチ目（膜翅目）	ヒラタハバチ科	<i>Pamphilus leucocephalus</i>					R	
401		コンボウハバチ科	ウスキモモトハバチ					R	
402		アリ科	ケブカクロオオアリ					R	
403			ツヤクシケアリ					R	
404			アミアリ					R	
405			ノコギリハリアリ					R	
406			ヒラフシアリ					R	
407			カドムネボソアリ					R	
408			スズメバチ科	エゾオオスジドロバチ					R
409		チャイロスズメバチ						R	
410		ギングチバチ科	クラゲギングチ					R	
411	フタモントゲアナバチ						R		

表 5-37 文献による動物の重要な種（昆虫類）（8/8）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5
412	ハチ目（膜翅目）	ドロバチモドキ科	ニッポンハナダカバチ				VU	N
413		ミツバチ科	ノサップマルハナバチ				NT	R
414			キムネクマバチ					R
415		ケアシハナバチ科	ツヤクサレダマバチ					R
416			シロアシクサレダマバチ					R
417		セダカヤセバチ科	キンケセダカヤセバチ					R
418		ナギナタハバチ科	オナガナギナタハバチ					R
計		14 目	105 科	418 種	5 種	7 種	4 種	68 種

※1) 種名及び配列については原則として国土交通省「令和7年度 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」に準拠した。

※2) 選定基準は本文中に示すとおりである。

(4) 注目すべき生息地

注目すべき生息地の選定基準は、表 5-38～表 5-40 に示すとおりとした。

表 5-38 動物の注目すべき生息地の選定基準 (1/3)

番号	選定基準	カテゴリー
1	「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号) 「北海道文化財保護条例」(昭和30年11月30日 条例第83号) 「大空町文化財保護条例」(平成22年6月16日 条例第24号)	国特：国の特別天然記念物 国天：国の天然記念物 道天：北海道の天然記念物 町天：大空町の天然記念物
2	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」	生息：生息地等保護区
3	「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（ラムサール条約）」 (昭和55年10月17日条約第28号) 環境省「国際的に重要な湿地の基準（2025年閲覧）」	基準1：適切な生物地理区における「自然状態の」又は「自然状態に近い」代表的、希少又は特有な湿地タイプを含む湿地 基準2：危急種、絶滅危惧種又は近絶滅種、又は絶滅のおそれのある生態学的群集を支えている湿地 基準3：特定の生物地理区における生物多様性の維持に重要な動植物種を支えている湿地 基準4：動植物種の生活環の重要な段階を支えている湿地。又は悪条件下において動植物種に避難場所を提供している湿地 基準5：2万羽以上の水鳥を定期的に支えている湿地 基準6：水鳥の一種または一亜種の一個体群の個体数の1%を定期的に支えている湿地 基準7：湿地の恩恵や価値を代表する固有な魚類の亜種、種、又は科、生活史の諸段階、種間相互作用、個体群の相当な割合を支えており、それによって地球規模の生物多様性に貢献している湿地 基準8：採餌場、産卵場、稚魚の生育場、回遊路として湿地内外の魚類資源が依存している湿地 基準9：湿地に依存する、鳥類以外の動物の一種又は一亜種の一個体群の個体数の1%を定期的に支えている湿地
4	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」 (平成14年7月12日法律第88号)	国指定鳥獣保護区 特：特別保護地区 特指：特別保護指定区域 道指定鳥獣保護区
5	環境省「生物多様性の観点から重要度の高い湿地(重要湿地)（2025年閲覧）」	基準1：湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・マングローブ林、藻場、サンゴ礁のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合 基準2：希少種、固有種等が生育・生息している場合 基準3：多様な生物相を有している場合 基準4：特定の種の個体群のうち、相当数の割合の個体数が生息する場合 基準5：生物の生活史の中で不可欠な地域（採餌場、産卵場等）である場合

表 5-39 動物の注目すべき生息地の選定基準 (2/3)

番号	選定基準	カテゴリー
6	日本野鳥の会HP「重要野鳥生息地 (IBA) (2025年閲覧)」	<p>A1 : 世界的に絶滅が危惧される種、または全世界で保護の必要がある種が、定期的・恒常的に多数生息している生息地。</p> <p>A2 : 生息地域限定種 (Restricted-range species) が相当数生息するか、生息している可能性がある生息地。</p> <p>A3 : ある1種の鳥類の分布域すべてもしくは大半が1つのバイオーム (それぞれの環境に生きている生物全体) に含まれている場合で、そのような特徴をもつ鳥類複数種が混在して生息する生息地、もしくはその可能性がある生息地。</p> <p>A4 i : 群れを作る水鳥の生物地理的個体群の1%以上が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト。</p> <p>A4 ii : 群れを作る海鳥または陸鳥の世界の個体数の1%以上が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト。</p> <p>A4 iii : 1種以上で2万羽以上の水鳥、または1万つがい以上の海鳥が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト。</p> <p>A4 iv : 渡りの隘路にあたる場所で、定められた閾値を超える渡り鳥が定期的に利用するボトルネックサイト。</p>
7	コンサベーション・インターナショナル・ジャパンHP「生物多様性の保全の鍵になる重要な地域 (KBA) (2025年閲覧)」	<p>危機性 : 国際自然保護連合 (IUCN) のレッドリストの地域絶滅危惧種 (CR、EN、VU) に分類された種が生息/生育する</p> <p>非代替性 : a) 限られた範囲にのみ分布している種 (RR) が生息/生育する  b) 広い範囲に分布するが特定の場所に集中している種が生息/生育する  c) 世界的にみて個体が一時的に集中する重要な場所  d) 世界的にみて顕著な個体の繁殖地  e) バイオリージョンに限定される種群が生息/生育する</p>

表 5-40 動物の注目すべき生息地の選定基準 (3/3)

番号	選定基準	カテゴリー
8	「北海道自然環境等保全条例」 (昭和48年12月11日 条例第64号)	<p>原生自然環境保全地域：その区域における自然環境が人の活動によって影響を受けることなく原生の状態を維持しており、当該自然環境を保全することが特に必要な地域。</p> <p>自然環境保全地域：原生自然環境保全地域以外の区域で、自然的社会的諸条件からみてその区域における自然環境を保全することが特に必要な地域。</p> <p>道自然環境保全地域：自然環境保全地域に準ずる土地の区域で、その区域の周辺の自然的社会的諸条件からみて、自然環境を保全することが特に必要な地域。</p> <p>環境緑地保護地区：市町村の市街地及びその周辺地のうち、環境緑地として維持又は造成することが必要な地区。</p> <p>自然景観保護地区：森林、草地、山岳、丘陵、溪谷、湖沼、河川、海岸等の所在する地域のうち、良好な自然景観地として保護することが必要な地区。</p> <p>学術自然保護地区：動物の生息地、植物の生育地及び地質鉱物の所在地のうち、学術上価値のあるものとして保護することが必要な地区。</p> <p>記念保護樹木：由緒・由来のある樹木又は住民に親しまれている樹木のうち、郷土の記念樹木として保護することが必要なもの。</p>

大空町及びその周囲には、注目すべき生息地の選定基準に該当するものとして、表 5-41 に示すとおり、表 5-38 の番号 1、3、5、6、7、8 に該当する地域が存在する。

大空町及びその周囲における注目すべき生息地の選定基準に該当するものを表 5-41～表 5-43 に、分布は図 5-70～図 5-73 に示すとおりである。

表 5-41 動物の注目すべき生息地 (1/3)

番号	区分	名称	カテゴリー	選定理由・特徴
1	「文化財保護法」	女満別湿生植物群落	国天	低湿地にヤチダモ・ヤチハンノキをおもな上木とする落葉広葉樹の自然林が約2kmにわたって帯状に続いている。その林床にはミズバショウが繁殖し、5月中・下旬の開花期には壮観を呈する。わが北部の低湿地林として、またミズバショウの群落として代表的なもの。
3	「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（ラムサール条約）」	濤沸湖	基準1、2、3、5、6	2005年、濤沸湖は、ガンカモ類が毎年6万羽以上飛来し、中でもヒシクイ、オオハクチョウ、ヒドリガモ、ミコアイサ、ウミアイサは東アジア地域個体群の個体数の1%以上を支えていることから、ラムサール条約湿地として登録された。ガンカモ類の重要な中継地や越冬地となっているほか、オジロワシ（一部留鳥）、オオワシも越冬におとずれ、タンチョウは数つがい繁殖している。濤沸湖は海と一部でつながっており、湖口と湖奥では塩分濃度が異なる。湖岸には塩性湿地と淡水湿地があり、湖の中央部にはコアマモの藻場が形成されているなど、多様な環境を有している。魚類についても、海水・汽水魚、回遊魚、淡水魚と約40種が確認され、エビ、カニ、貝類等の底生生物も多数確認されている。湖岸の低地には塩性湿地帯が発達し、オオシバナ、ホソバナシバナ、エゾツルキンバイ、アッケシソウの群落が分布している。淡水湿地帯にはヨシ群落、ヤラメスゲ群落、ヌマガヤヤチヤナギ群落、ハンノキ林が分布している。

表 5-42 動物の注目すべき生息地 (2/3)

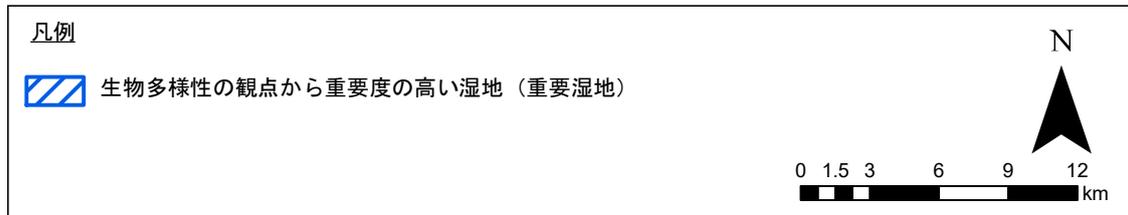
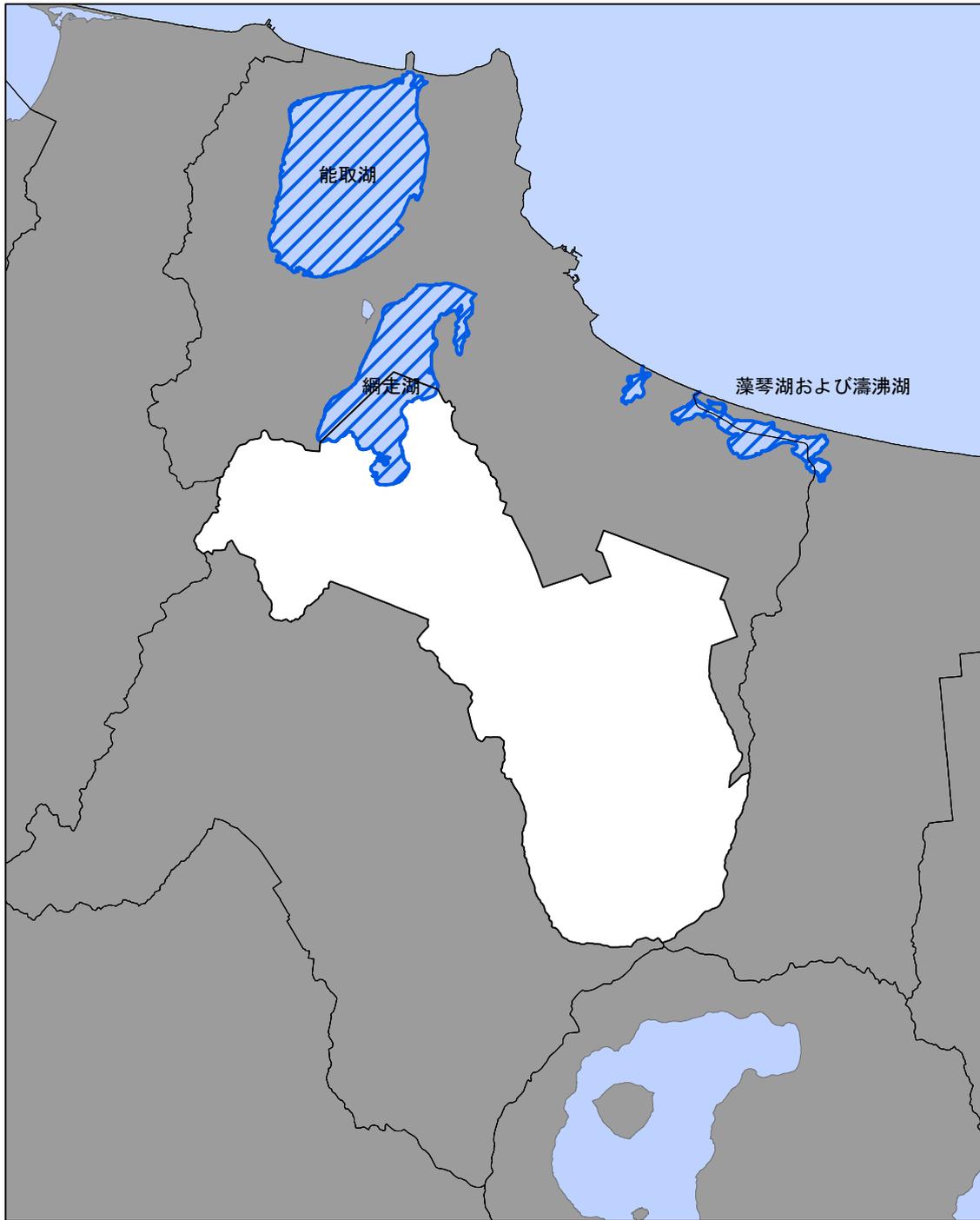
番号	区分	名称	カテゴリー	選定理由
5	「生物多様性の観点から重要度の高い湿地(重要湿地)」	能取湖	基準1、2(海草・海藻)	スゲアマモの広大な海草藻場で、分布は湖内の西岸。大規模なスゲアマモの単純群落。その他、アマモ、コアマモの群落がある。
			基準1、3(底生植物)	ホタテガイ、ホッカイエビの生息地。アッケシソウが生息する広大な塩性湿地を擁し、周辺にはアリアケモドキが生息する。
			基準2、4(ガンカモ類)	オオハクチョウ、ヒシクイ(亜種ヒシクイ)の渡来地。
		網走湖	基準1(湿原植生)	女満別側には大規模なハンノキミズバショウ群落がある。ヤチダモ、ハルニレ、エゾノウワミズザクラ、エゾイラクサ、クサソテツ、オニシモツケ、オオバナノエンレイソウなどの生育地となっている。
			基準1(底生動物)	ヤマトシジミなどの汽水性ベントスの生息地となっている。
			基準2(湿地性鳥類)	タンチョウの繁殖地となっている。
		藻琴湖および濤沸湖(濤沸湖)	基準1(湿原植生)	塩沼地にオオシバナ、ホソバナシバナ、エゾツルキンバイの群落、淡水湿地にヨシ群落、ヤラメスゲ群落、ヌマガヤヤチヤナギ群落、ハンノキ林が形成される。
			基準1(海草・海藻)	コアマモの生育地として相当の規模の面積を有している。
			基準2、4(ガンカモ類)	ヒシクイ(亜種ヒシクイ)、オオハクチョウ、ヒドリガモ、ミコアイサ、カワアイサ、ウミアイサの渡来地。
		藻琴湖および濤沸湖(藻琴湖、濤沸湖、小清水原生花園)	基準2(湿地性鳥類)	タンチョウ、チュウヒの繁殖地。
藻琴湖および濤沸湖(小清水原生花園)	基準2(昆虫類)	カラフトキリギリス、アカメイトトンボ、カラフトシマケシゲンゴロウ、アナバネコツブゲンゴロウの生息地。		
藻琴湖および濤沸湖(藻琴湖、濤沸湖など)	基準1(底生動物)	ヤマトシジミ、カキなどの生息地。 【藻琴湖】広大な塩性湿地が広がり、その周辺にはアリアケモドキが生息する。 【濤沸湖】アサリが生息する。		
6	「重要野鳥生息地(IBA)」	能取湖・網走湖	A1	タンチョウ
			A3	タンチョウ
			A4i	キアシシギ
		濤沸湖	A1	タンチョウ
			A3	タンチョウ
			A4i	キアシシギ
		阿寒・屈斜路	A1	オオワシ
A3	シマフクロウ、タンチョウ			

表 5-43 動物の注目すべき生息地 (3/3)

番号	区分	名称	カテゴリー	選定理由
7	「生物多様性の保全の鍵になる重要な地域 (KBA)」	能取湖・網走湖	危機性・非代替性	国際自然保護連合 (IUCN) のレッドリストの地域絶滅危惧種 (EN) が1種生息する。バイオーム限定種 (A3) が1種、群れをつくる種 (A4) が1種生息する。
		濤沸湖	危機性・非代替性	国際自然保護連合 (IUCN) のレッドリストの地域絶滅危惧種 (EN) が1種生息する。バイオーム限定種 (A3) が2種、群れをつくる種 (A4) が1種生息する。
		阿寒屈斜路	危機性・非代替性	国際自然保護連合 (IUCN) のレッドリストの地域絶滅危惧種 (EN、VU) が1種ずつ生息する。バイオーム限定種 (A3) が5種生息する。
8	「北海道自然環境等保全条例」	天都山麓環	環境緑地保護地区	広葉樹の天然林
		美英	環境緑地保護地区	神社境内の樹林地
		美富	環境緑地保護地区	市街地の身近な緑地
		共和	環境緑地保護地区	市街地の身近な緑地
		オホーツクの村	環境緑地保護地区	ナショナルトラスト運動地

※1) 出典、カテゴリーは表 5-38 に示す通りである。

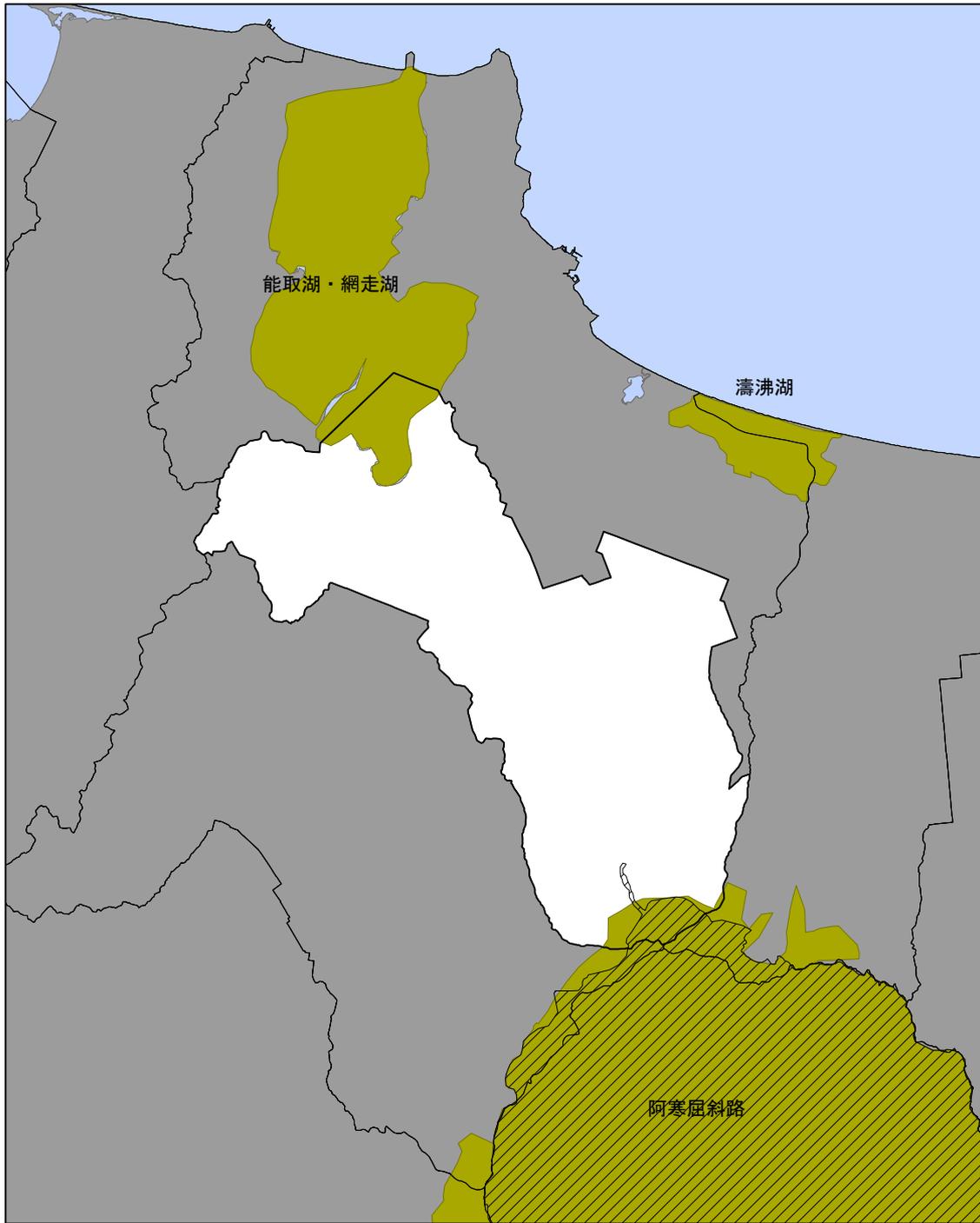
※2) バイオーム限定種 (A3)、群れをつくる種 (A4) は、重要野鳥生息地 (IBA) の基準である。



出典：環境省「環境アセスメントデータベース 生物多様性の観点から重要度の高い湿地（重要湿地）（2025年閲覧）」を基に作成

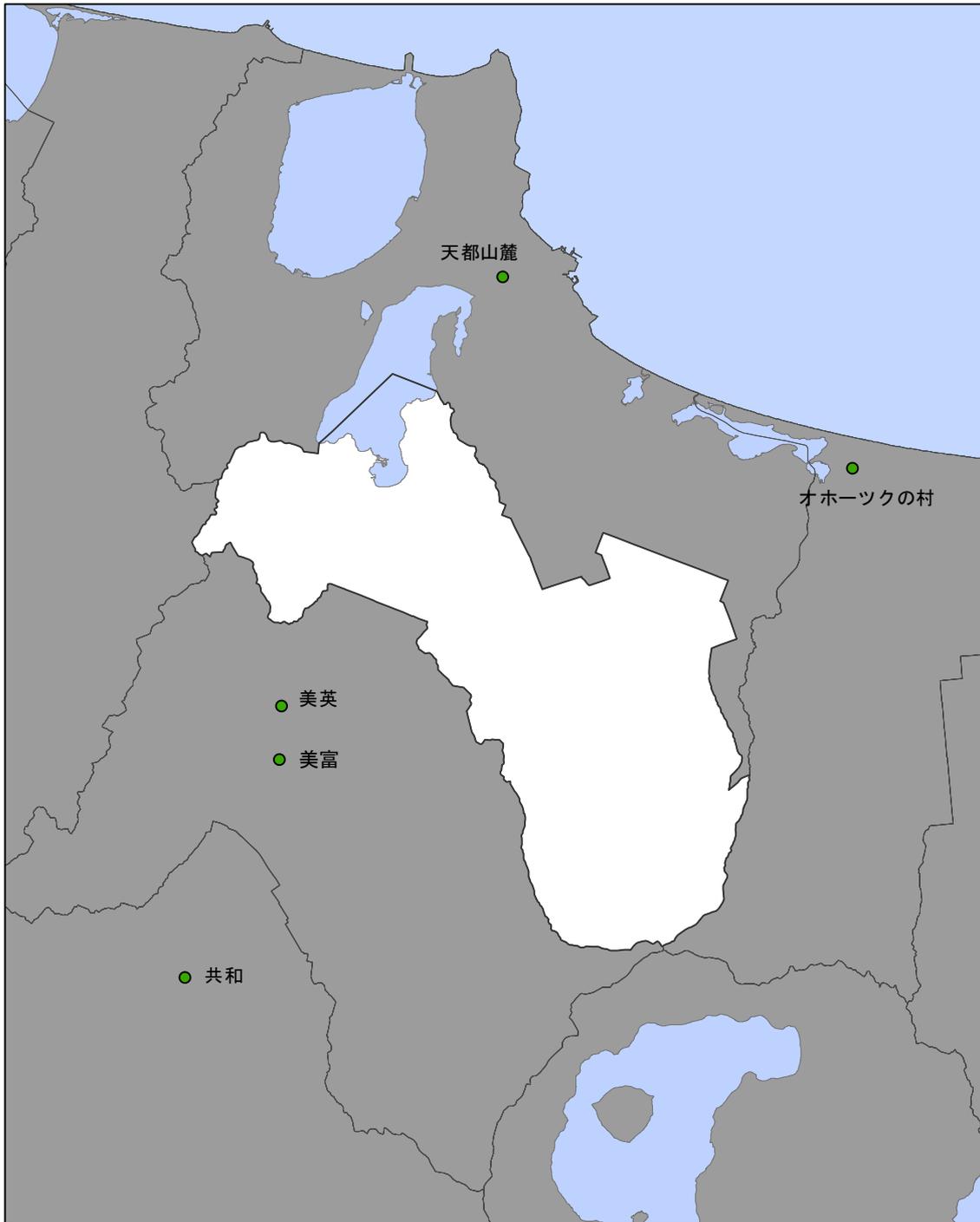
図 5-70 重要湿地





出典：環境省「環境アセスメントデータベース 生物多様性の保全の鍵になる重要な地域（KBA）（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-72 生物多様性の保全の鍵になる重要な地域（KBA）



出典：北海道「環境緑地保護地区等指定一覧表」を基に作成

図 5-73 環境緑地保護地区等